

# 山形城三の丸跡

第 15・17・19 次発掘調査報告書

---

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 231 集



2018

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



やまがたじようさんのまるあと

# 山形城三の丸跡

第 15・17・19 次発掘調査報告書

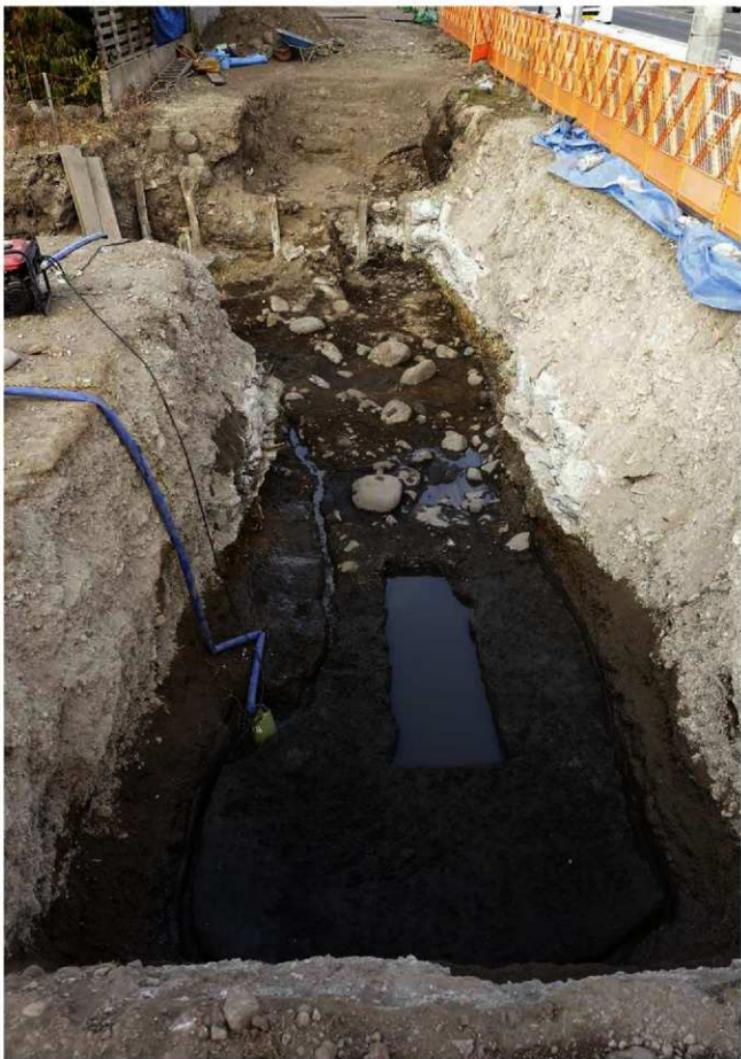
---

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 231 集

平成 30 年

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター





2区三の丸堀跡北岸を望む（南から）

## 序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成 24 年 4 月 1 日に財団法人から移行）が発掘調査を実施した、山形城三の丸跡第 15・17・19 次調査の調査成果をまとめたものです。

山形城三の丸跡は山形県山形市にあります。山形城は、南北朝時代の 1356 年に斯波兼頼によって築かれたとされる城です。子孫である最上義光は、山形藩 57 万石にふさわしい城に拡張工事をし、城下町を整備しました。このときに築かれたのが三の丸で、山形城は全国でも有数の面積を誇り大いに栄ました。しかし、その後最上家は改易され、度重なる城主の入れ替えにより山形藩は小規模化し、水野家 5 万石で明治維新を迎えます。

調査区があるあたりは、三の丸の大手口である七日町口のすぐ近くで、幕末まで藩士たちの屋敷が立ち並んでいた地域です。また、明治時代になると済生館病院が建設され、山形の医療の中心としての役割を果たしてきました。

このような中心市街地である当地域では、山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅籠町八日町線が新たな主軸道路として建設が進められており、それに伴い本遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、江戸時代後期の遺物が主に出土しており、一部は最上氏の時代に遡るものも認められました。また、三の丸の堀跡を確認できたり、三の丸拡張以前の武家屋敷跡とみられる区画溝も確認するなど多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 30 年 7 月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 廣瀬 渉

## 凡　例

- 1 本書は、山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅籠町八日町線（山形市七日町地内）建設に係る「山形城三の丸跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、速報会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は山形県村山総合支庁建設部都市計画課の委託により、公益財團法人山形県埋蔵文化財センター（平成 24 年 4 月 1 日に財團法人から移行）が実施した。
- 4 本書の執筆は、齋藤健、板橋龍が担当し、齋藤稔、黒坂雅人、伊藤邦弘、須賀井新人が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第 X 系（世界測地系）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

SK…土坑 SD…溝跡 SE…井戸跡 SP…ピット SX…性格不明遺構  
T…トレンチ RP…登録土器 RQ…登録石器 RM…登録金属製品

- 7 遺構・遺物実測図の縮尺の用法は各図に示した。網点については、以下のとおり。



図示範囲（遺構配置図）



地山（遺構断面図）



炭化物（遺構断面図）



石（遺構平面図・断面図）



遺物（遺構平面図・断面図）

- 8 基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

## 調査要項

遺跡名	山形城三の丸跡		
遺跡番号	201-009		
所在地	山形県山形市旅籠町他		
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部都市計画課		
調査受託者	公益財團法人山形県埋蔵文化財センター		
受託期間	平成 26 年 4 月 1 日～平成 30 年 8 月 31 日		
現地調査	平成 26 年 6 月 2 日～12 月 5 日		
	平成 27 年 5 月 25 日～11 月 12 日		
	平成 28 年 6 月 13 日～9 月 1 日		
調査担当者	平成 26 年度	調査課長	齊藤敏行
		課長補佐	須賀井新人
		主任調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査研究員	東海林弘和
		調査員	板橋龍
	平成 27 年度	調査課長	齊藤敏行
		課長補佐	須賀井新人
		専門調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査員	板橋龍
		調査員	阿部明彦
	平成 28 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹（兼）課長補佐	須賀井新人
		専門調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査員	色摩優吾
	平成 29 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹（兼）課長補佐	須賀井新人
		専門調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査員	板橋龍
	平成 30 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹（兼）課長補佐	須賀井新人
		専門調査研究員	齋藤健（調査主任）
調査指導	山形県教育庁文化財・生涯学習課		
調査協力	山形市教育委員会		
	山形県村山教育事務所		
業務委託	基準点測量業務	株式会社大洋測量設計社（平成 26・27・28 年度）	
	理化学分析業務	パリノ・サーヴェイ株式会社（平成 27・29 年度）	
		株式会社パレオ・ラボ（平成 28 年度）	

発操作業員 安達ひとみ 五十嵐正芳 池田和男 大内智郎 大谷加代子 奥山和子  
奥山研二 柿崎次男 斎藤栄子 斎藤哲雄 鈴木明 竹田重夫  
高橋敏昭 長岡忠 半田長司 松田修 村形啓行 山口裕美子  
(五十音順)

整理作業員 池野仁 伊藤加奈子 井上和暉 大場美香 鏡幹彦 川崎ちづる  
後藤幸子 斎藤勝利 玉木良子 橋本裕子 星川麗子 森谷和弘  
渡辺智美 (五十音順)

# 目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経緯	1
2 調査の方法	1
II 立地と環境	
1 地理・歴史的環境	3
2 山形城周辺の発掘調査	3
3 調査区周辺の土地利用	5
III 調査の成果	
1 調査の概要	9
2 遺構と遺物	9
IV 理化学分析	
1 山形城三の丸跡第15次調査出土	
木製品の樹種同定報告	103
2 山形城三の丸跡出土鉄滓の	
自然科学分析（1）	106
3 山形城三の丸跡出土鉄滓の	
自然科学分析（2）	111
V 調査のまとめ	
1 遺構のまとめ	113
2 遺物のまとめ	115
報告書抄録	卷末

## 表

表 1 山形市主要遺跡一覧表(1) .....	7	表 15 遺物觀察表(13) .....	93
表 2 山形市主要遺跡一覧表(2) .....	8	表 16 遺物觀察表(14) .....	94
表 3 遺物觀察表(1) .....	81	表 17 遺物觀察表(15) .....	95
表 4 遺物觀察表(2) .....	82	表 18 遺物觀察表(16) .....	96
表 5 遺物觀察表(3) .....	83	表 19 遺物觀察表(17) .....	97
表 6 遺物觀察表(4) .....	84	表 20 遺物觀察表(18) .....	98
表 7 遺物觀察表(5) .....	85	表 21 遺物觀察表(19) .....	99
表 8 遺物觀察表(6) .....	86	表 22 遺物觀察表(20) .....	100
表 9 遺物觀察表(7) .....	87	表 23 遺物觀察表(21) .....	101
表 10 遺物觀察表(8) .....	88	表 24 遺物觀察表(22) .....	102
表 11 遺物觀察表(9) .....	89	表 25 樹種同定結果 .....	103
表 12 遺物觀察表(10) .....	90	表 26 分析出土津一覧表 .....	107
表 13 遺物觀察表(11) .....	91	表 27 蛍光X線分析による半定量値 .....	111
表 14 遺物觀察表(12) .....	92	表 28 EDS分析結果 .....	111

## 図 版

第 1 図 調査概要図	1	第 38 図 遺物実測図(14)	50
第 2 図 山形城三の丸跡過年度調査範囲	2	第 39 図 遺物実測図(15)	51
第 3 図 地形分類図	4	第 40 図 遺物実測図(16)	52
第 4 図 道路位置図	6	第 41 図 遺物実測図(17)	53
第 5 図 調査区概要図・割付図	17	第 42 図 遺物実測図(18)	54
第 6 図 道構配置図 1	18	第 43 図 遺物実測図(19)	55
第 7 図 道構配置図 2	19	第 44 図 遺物実測図(20)	56
第 8 図 道構配置図 3	20	第 45 図 遺物実測図(21)	57
第 9 図 道構配置図 4	21	第 46 図 遺物実測図(22)	58
第 10 図 道構配置図 5	22	第 47 図 遺物実測図(23)	59
第 11 図 道構配置図 6	23	第 48 図 遺物実測図(24)	60
第 12 図 道構配置図 7	24	第 49 図 遺物実測図(25)	61
第 13 図 道構配置図 8	25	第 50 図 遺物実測図(26)	62
第 14 図 1 区基本順序(西壁)・5 区基本順序(西壁)	26	第 51 図 遺物実測図(27)	63
第 15 図 8 区中央ペルト基本順序・7 区中央東壁基本順序	27	第 52 図 遺物実測図(28)	64
第 16 図 9 区 SK3・4・5・7・8・15・16・18・20	28	第 53 図 遺物実測図(29)	65
第 17 図 9 区 SP17・21・26・SK25・6 区 SX5	29	第 54 図 遺物実測図(30)	66
第 18 図 12 区 SK9・8 区 ST154	30	第 55 図 遺物実測図(31)	67
第 19 図 8 区 ST184	31	第 56 図 遺物実測図(32)	68
第 20 図 5 区 SE11・12・13・SK14・SD39	32	第 57 図 遺物実測図(33)	69
第 21 図 2 区西壁・1 区 SX75・79・90・7 区 SK38	33	第 58 図 遺物実測図(34)	70
第 22 図 7 区 ST71	34	第 59 図 遺物実測図(35)	71
第 23 図 7 区 ST71・SK39・SX101	35	第 60 図 遺物実測図(36)	72
第 24 図 7 区 ST107・SK93	36	第 61 図 遺物実測図(37)	73
第 25 図 遺物実測図(1)	37	第 62 図 遺物実測図(38)	74
第 26 図 遺物実測図(2)	38	第 63 図 遺物実測図(39)	75
第 27 図 遺物実測図(3)	39	第 64 図 遺物実測図(40)	76
第 28 図 遺物実測図(4)	40	第 65 国 遺物実測図(41)	77
第 29 国 遺物実測図(5)	41	第 66 国 遺物実測図(42)	78
第 30 国 遺物実測図(6)	42	第 67 国 遺物実測図(43)	79
第 31 国 遺物実測図(7)	43	第 68 国 遺物実測図(44)	80
第 32 国 遺物実測図(8)	44	第 69 国 木材組織	105
第 33 国 遺物実測図(9)	45	第 70 国 試料 No.1 の顕微鏡組織	108
第 34 国 遺物実測図(10)	46	第 71 国 試料 No.2・3 の顕微鏡組織	109
第 35 国 遺物実測図(11)	47	第 72 国 試料 No.4・5 の顕微鏡組織	110
第 36 国 遺物実測図(12)	48	第 73 国 試料 I の SEM 観察及び EDS 分析結果	112
第 37 国 遺物実測図(13)	49		

## 写真図版

卷頭写真	2区三の丸堀跡北岸を望む（南から）	写真図版 11	3区完掘状況（南から）、2区堀跡断面（東から）、 2区堀跡出土 46-1 藍甕（東から）
写真図版 1	9区遺構検出状況（北から）、9区北側遺構検出 状況（南東から）	写真図版 12	2区堀跡南岸完掘状況（東から）、2区堀跡南岸 完掘状況（北東より）
写真図版 2	9区 SH2 葛埴検出状況（南から）、9区 SP17 柱穴断面（西から）、9区 SP17 柱穴完掘状況（北 から）	写真図版 13	11区遺構検出状況（南東から）、11区三の丸堀 跡北岸石組検出状況（東から）、11区三の丸堀跡 北岸石組検出状況（南から）
写真図版 3	6区遺構検出状況（南西から）、12区遺構検出状 況（西から）	写真図版 14	11区 SK7 防空壕完掘状況（北から）、11区南壁 藍甕出土状況（北から）、1区南側完掘状況 (北西から)
写真図版 4	12区 SK9 土坑出土瓦製品（北から）、12区 SK12 土坑出土石跡（北から）、12区 SK9 土坑 完掘状況（北から）	写真図版 15	1区 SK85 土坑獸骨出土状況（西から）、7区南側 完掘状況（東から）、7区中央部完掘状況（東から）
写真図版 5	8区南遺構検出状況（北東から）、8区中央遺構 検出状況（東より）	写真図版 16	7区 SK38、39、33 土坑完掘状況（南から）、 7区 ST107 穴穴建物跡完掘状況（西から）、 7区 ST71 穴穴建物跡完掘状況（南東から）、 10区完掘状況（南西から）、10区 SK13 土坑完 掘状況（北から）
写真図版 6	8区北遺構検出状況（西から）、8区 SD163、 SD129 道路状遺構完掘状況（南東から）	写真図版 17	7区 ST71 穴穴建物跡南壁柱断面（南東から）、 10区完掘状況（南西から）、10区 SK13 土坑完 掘状況（北から）
写真図版 7	8区 ST154 穴穴建物完掘状況（東から）、8区 ST184 穴穴建物完掘状況（東から）、8区 SD39 大溝石組検出状況（北から）		
写真図版 8	4区、5区遺構検出状況（北から）、5区遺構検出 状況（北西から）		
写真図版 9	5区 SD39 大溝完掘状況（北から）、5区 SD39 大 溝完掘状況（南から）		
写真図版 10	5区 SE11 井戸跡完掘状況（南から）、5区 SE12 井戸跡完掘状況（北から）、5区 SE13 井戸跡 完掘状況（北西から）、5区 SK9 土坑完掘状況 (北から)、5区 SK14 土坑完掘状況（東から）、 5区 SK16 土坑遺物出土状況（北から）、5区西壁 落込み遺物出土状況（東から）、5区西壁落込み 刀子出土状況（東から）		

写真图版 18	遗物写真图版 (1) 6区、9区出土遗物	写真图版 30	遗物写真图版 (13) 2区出土遗物
写真图版 19	遗物写真图版 (2) 9区、12区出土遗物	写真图版 31	遗物写真图版 (14) 2区、11区、10区出土遗物
写真图版 20	遗物写真图版 (3) 12区、8区出土遗物	写真图版 32	遗物写真图版 (15) 11区、10区、1区出土遗物
写真图版 21	遗物写真图版 (4) 8区出土遗物	写真图版 33	遗物写真图版 (16) 1区、7区出土遗物
写真图版 22	遗物写真图版 (5) 8区、4区、5区出土遗物	写真图版 34	遗物写真图版 (17) 7区出土遗物
写真图版 23	遗物写真图版 (6) 5区出土遗物	写真图版 35	遗物写真图版 (18) 7区、1区出土遗物
写真图版 24	遗物写真图版 (7) 5区出土遗物	写真图版 36	遗物写真图版 (19) 7区出土遗物
写真图版 25	遗物写真图版 (8) 5区出土遗物	写真图版 37	遗物写真图版 (20) 7区出土遗物
写真图版 26	遗物写真图版 (9) 5区出土遗物	写真图版 38	遗物写真图版 (21) 7区、9区出土遗物
写真图版 27	遗物写真图版 (10) 5区、8区、4区、2区出土 遗物	写真图版 39	遗物写真图版 (22) 7区、10区、12区出土遗物
写真图版 28	遗物写真图版 (11) 2区出土遗物	写真图版 40	遗物写真图版 (23) 12区、10区出土遗物
写真图版 29	遗物写真图版 (12) 2区出土遗物	写真图版 41	遗物写真图版 (24) 10区出土遗物

# I 調査の経緯

## 1 調査に至る経緯

山形城跡は、現在、国指定史跡となっている本丸・二の丸と、その周辺を取り囲む三の丸を含め、東西 1,480 m、南北 1,881 m の範囲が遺跡として登録されている。江戸時代、三の丸の東外側を羽州街道が迂回し、街道沿いに本町、三日町、七日町などの商人町が配置されて大いに栄えた。明治以降も三の丸の東側が山形市の中心市街地として繁榮した。

今回の調査は、山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅籠町八日町線（山形市七日町地内）建設事業（以後、事業）として、平成 26 年度から 28 年度まで現地調査を実施した発掘調査である。

当地域での都市計画道路の建設構想は昭和 30 年代よりあり、市街地の主要幹線道路としては極めて狭小で片側通行を行ってきた本路線の拡幅は地元の永年の悲願でもあり、「榮町大通り」と通称され、地元住民も積極的に活性化に取り組んでいる。

調査に先立ち、平成 25 年に、山形県教育委員会（以後、県教委）によって試掘調査が行われ、近世の陶器器の出土を得た。これを受け、村山総合支庁建設部都市計画課、県教委の間で協議が進められ、記録保存を目的とした調査を行うこととなり、建設部都市計画課を事業主

として、県教委の指導の下、公益財團法人山形県埋蔵文化財センター（以後、埋蔵文化財センター）が調査の委託を受けた。

埋蔵文化財センターでは、受託した山形城三の丸跡発掘調査の調査次数を、年度ごと、調査原因となった事業別に順次振り分けしており、今回の調査は平成 26 年度が 15 次、27 年度が 17 次、28 年度が 19 次調査となる。

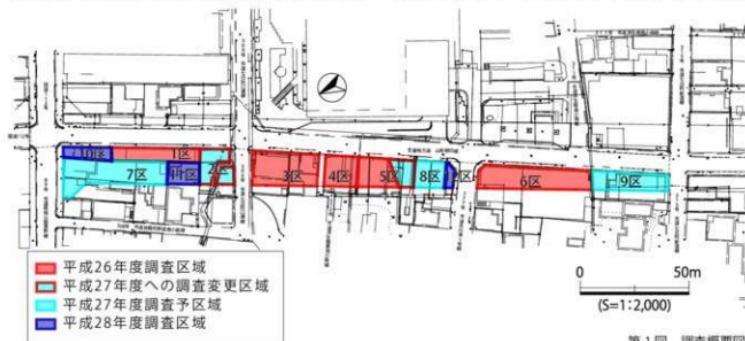
また、調査範囲については、本来ならば遺跡範囲に指定されている三の丸の堀の内側のみを行うところであるが、三の丸の堀の位置が確定していなかったために旧羽州街道である国道 112 号の旅籠町交差点より南を調査範囲とすることになった。

## 2 調査の方法

### A 発掘調査

調査は事業の第一期工区事業範囲 3,204 m<sup>2</sup> を対象に実施した。調査区は地権者から事業主へ引き渡しが済んだ土地から調査を行った。

調査区は、東西方向に走る道路によって大きく三つのブロックに区分される。北ブロックは 1 区、2 区、7 区、10 区、11 区で、江戸時代末期には三の丸の堀と藩の牢獄があった。中ブロックは 3 区、4 区、5 区、8 区、12



第 1 図 調査概要図

## I 調査の経緯

区で、江戸時代末期には七日町口から二の丸に向かうメイン道路とそれに沿って家臣団の屋敷が立ち並んでいた地区で、現在も水野家家臣の末裔が数軒居を構えている。南プロックは6区、9区で、当初は武家屋敷地であったが、幕府直轄領となってからは農地となっている。

調査区名の番号は、平成26年度には1～6区、27年度には7～9区、28年度は10～12区というようにその年度に調査する調査範囲で北から若い番号を振り、調査の順番とは関係ない。

調査は、地権者が建物などいわゆる上物を解体撤去し更地にした状況で事業者に土地を引き渡し、その後に埋蔵文化財センターが調査に入った。

6区は百貨店の立体駐車場建設解体時に深さ2m以上の激しい複雑を受け遺構は殆ど検出できなかったが、平安時代以前の旧河道を確認できた。同じく3区、4区、10区にも鉄筋コンクリート製の建物があり、基礎工事や撤去工事により遺構面が激しい複雑を受けていて遺構をほとんど確認することはできなかった。また、住宅の出入り口を塞いでしまうことが明らかになったために、当初26年度に調査を完了する予定だった5区を、事業者の了解を得て26年度と27年度に二分割して実施した。2区についても、26年度に完了する予定であったが、表土を除去すると三階建鉄筋コンクリート建物の基礎が残存していることが判明し、27年度にあらためて基礎を破壊撤去して調査を行うことで事業者の了承を得て実施した。

年度ごとの調査も、市街地ということで調査区内で剥いた土を移動する必要があり、全面的に表土を除去する調査はできなかった。26年度は6区を最初に調査し、ついで5区、4区。その次に3区、2区、1区を調査した。27年度は、最初に9区を調査し、ついで8区と5区の縦越で調査し、最後に2区の再調査と7区を調査した。28年度は、12区、11区、10区の順に調査を行った。

各調査区での発掘調査は、重機で表土を除去し、2tトラックで仮置きする他の調査区に搬送し重機で成形した。その後作業員がジョレンを使って土を削って遺構を検出し、同時に委託業者が基準点と方眼杭を設置し、記録写真撮影後に遺構の掘り下げを行った。各遺構や出土遺物は、必要に応じて図面や写真などに記録した。調査が終わると、再び重機で仮置きしている表土を搬送して

埋め戻して整地し、事業者に引き渡した。

## B 整理作業

調査終了後、出土遺物や記録類は埋蔵文化財センターに運んだ。

年度ごとに調査終了後に整理作業員を雇用して整理作業を実施し、出土遺物の洗浄注記を行った。注記は、遺跡名「三ノ丸」の後に調査次数である「15」「17」「19」を記し、それに続けて遺構名を記入した。

平成28年度から遺物の接合作業を実施し、29年度から遺物実測作業に入り、30年度に報告書を刊行した。

陶磁器類の実測は、外形線と断面のみ作製し、磁器の外面の文様や釉調は、はめ込み写真により表現した。縮尺は概ね1/3を原則で掲載したが、大型の壺は1/6で、古鏡については1/1で掲載した。



第2図 山形城三の丸跡年度調査範囲

## II 立地と環境

### 1 地理・歴史的環境

山形城が立地する山形市中心部は、藏王山系を源に、山形市北部を西流し最上川へと注ぐ馬見ヶ崎川によって形成された扇状地に立地している。

延文元年(1356年)に羽州探題として入部した斯波兼頼によって山形城が築かれたとされる。その後、斯波一族は、最上氏を名乗りこの地を代々統治し、11代義光の代に最盛期を迎える。57万石の領地を有した義光の統治下で、三重の堀を備えた大規模な城郭構造が整備された。

その後、元和8年(1622年)に最上家が御家騒動で改易となり、譜代大名の鳥居忠政が入部する。最上領は、庄内酒井忠勝、新庄戸沢政盛、上山松平重忠と鳥居忠政と血縁関係にある譜代大名に分割され、連携して奥羽の外様大名を監視する役目が与えられた。忠政は、城郭の部分的な改修や、城北を流れる馬見ヶ崎川の流路を変更して後の「山形五堰」につながる水利工事を行うなど、城内外の改修を行っている。

鳥居忠政の子、忠恒に後継ぎがなく改易になると、以降の山形藩は藩主が短期間で次々と替わり石高が縮小する。特に、寛文8年(1668年)の奥平昌能入部以降、不祥事を起こしたり幕政で失脚した譜代大名の左遷の地となり、奥羽外様大名関しの要としての役割が無くなつた。そして、天保の改革の失敗で左遷された水野家の時には5万石にまで縮小し、明治維新を迎えている。そのため、山形城の大規模な改修は、江戸初期からほとんど行われず、往時の城郭構造をそのまま存続させるが、石高が大きく縮小した状況では、広大な城や屋敷地を維持できずに次第に荒廃して行く。

江戸中期以降、日本海舟運の発達により、山形県内では上方への紅花の生産が盛んとなり国内最大の生産地になった。山形市街にも紅花商人が軒を連ねて大いに栄えた。ところが、明治になると安価な中国産紅花の輸入や化学染料の普及によりたちまち紅花栽培は衰退した。

江戸後期、下総国佐倉藩領平清水地区に窯場が開かれ、弘化元年(1844年)には磁器生産にも成功し、山形近辺を市場として出荷された。しかし、明治34年(1901年)の奥羽本線山形駅開業に伴い、他地域から陶磁器が大量に流通するようになると一気に衰退した。現在は民芸品を中心に数軒の窯が操業を続けている。

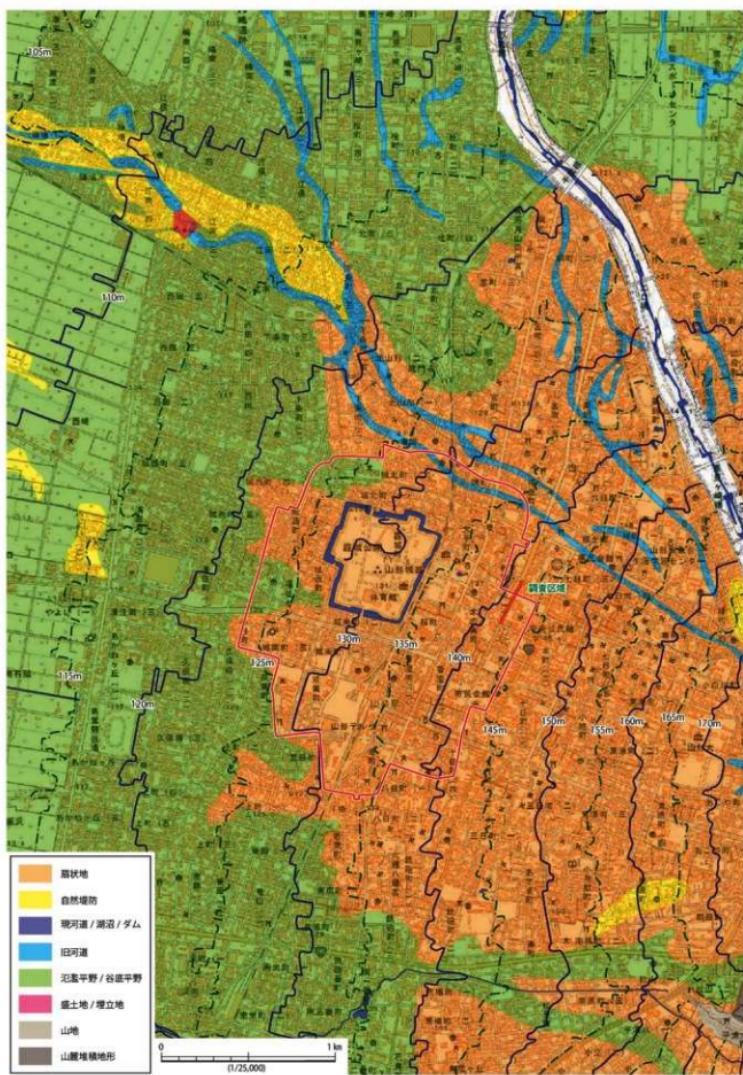
明治に入り山形藩から山形県となり、山形城は廃城に、城内の土地建物はすべて破却され、三の丸の東側は、学校、病院などが建設され市街地化が進む。そのため、東側の堀と土塁は、明治期の比較的早い段階でほとんど整地されたと見られている。東側以外の三の丸は、大正、昭和に入ってから造成が進み、一部に残っていた堀や土塁跡も徐々に埋め立てられ市街地に組み込まれていった。明治30年(1897年)に陸軍歩兵三十二連隊が説置され、本丸の堀は埋め立てられて二の丸ともども兵営となつた。日露戦争終了後、二の丸の土壠に多くの桜が記念植樹され、今日の桜の名所となる元になった。

戦後、陸軍施設が撤去された旧二の丸と本丸跡地は、山形市に払い下げられた後、1948年、霞城公園として市民に開放された。敷地内には、運動施設や博物館が建設され、都市公園としての整備が進む一方、三の丸跡は、山形市の中心地としての更なる都市化が進む。1984年に山形城は、近世初期の面影を残す全国屈指の平城として国指定史跡となり、翌年、十日町地区に一部残存していた三の丸土塁も追加で指定された。現在は、史跡公園として、二の丸大手門や本丸大手門の石垣などの復元整備事業が行われている。

### 2 山形城周辺の発掘調査

これまで山形城跡は、市街地開発や、史跡整備のためなどの理由で複数回の発掘調査が実施されている。三の丸跡の調査は、三の丸南部で山形駅西口の土地区画整理関連の事業により合計で94,000m<sup>2</sup>を超える大規模な発掘調査が行われており、それ以外の場所では、市街地内の道路の拡幅や建物の増改築などに伴い小規模な調査を行っている。三の丸西側は、県道東原村木沢線の拡幅工

## II 立地と環境



第3図 地形分類図

事に伴うもの、三の丸北側は、山形市立第七小学校の改築や、国道 112 号の拡幅工事などに伴う調査が行われている。今回の調査区を含む三の丸東側の調査事例は、第一小学校の改築、二の丸追手門外の法務局庁舎建築工事や三の丸本町口近くの村山保健所衛生研究所建設工事に伴うものがある（第 2 図）。二の丸と本丸は、史跡整備に伴い山形市教育委員会が年々調査を進めている。

これまでの調査によって山形城跡周辺には、近世以前の遺跡も広がっていたことが判明した。古くは、繩文時代中期から後期の遺物が双葉町遺跡など三の丸南側から出土した。また、4 世紀代古墳時代前期や奈良平安時代の集落が展開する。中世においても 12 ~ 14 世紀代の貿易陶磁が多数出土しており、双葉町遺跡からは、方形区画の溝に囲まれた居館跡を検出している。

発掘成果として遺構、遺物が充実するのは、最上義光の山形城の拡大期と重なる慶長元年以降のものである。これまでの発掘調査区は、城の南西側が多く、これらの地区は、山形城の縮小とともに、屋敷地から畑に変えられたまま近代を迎えたため、山形城初期の状態が良好に保存されている地区ともいえよう。今回の調査と同じ三の丸堀の調査事例として、山形一小敷地内、埋蔵文化財センターの三の丸跡第 6 次、第 10 次調査で三の丸東堀の調査を実施している。

### 3 調査区周辺の土地利用

近世以後は絵図など多くの文献資料が残されており、より詳細な情報を得ることができる。

当調査区周辺は、最上時代の慶長元和期の古形態を記録したと考えられている「秋元本」、「伊藤本」などを見ると、「関根口」（後の七日町口）門からまっすぐ二の丸大手門に向かう「三日町」通り沿いに「町屋」が配置されている。最上時代の末期を記録した著名な「藤原守春本」を見ると、町屋は三の丸の外の現在の本町七日町通り沿いに移され、三の丸内は臣家の屋敷地となっている。当調査区も「大山筑前守」などの屋敷が立ち並び、前代と比べて町割りも大きく変化している。

最上家改易後、鳥居家、保科家、松平家など藩主が短期間に交代し、町割りは大きく変化しない。しかし、大給松平家が明和元年（1764 年）に三河国西尾に転封になると山形は幕府直轄領となり、三の丸内の武家屋敷や

藩の施設の殆どが破却され更地となった。この時期、三の丸の多くの土地が農地化した。

明和 4 年（1767 年）に老中職を失脚した秋元家が入部する。新しく三の丸東側の門周辺に臣家の屋敷が配置された。弘化 2 年（1845 年）に水野家が代わって入部するが町割りは変化しなかった。

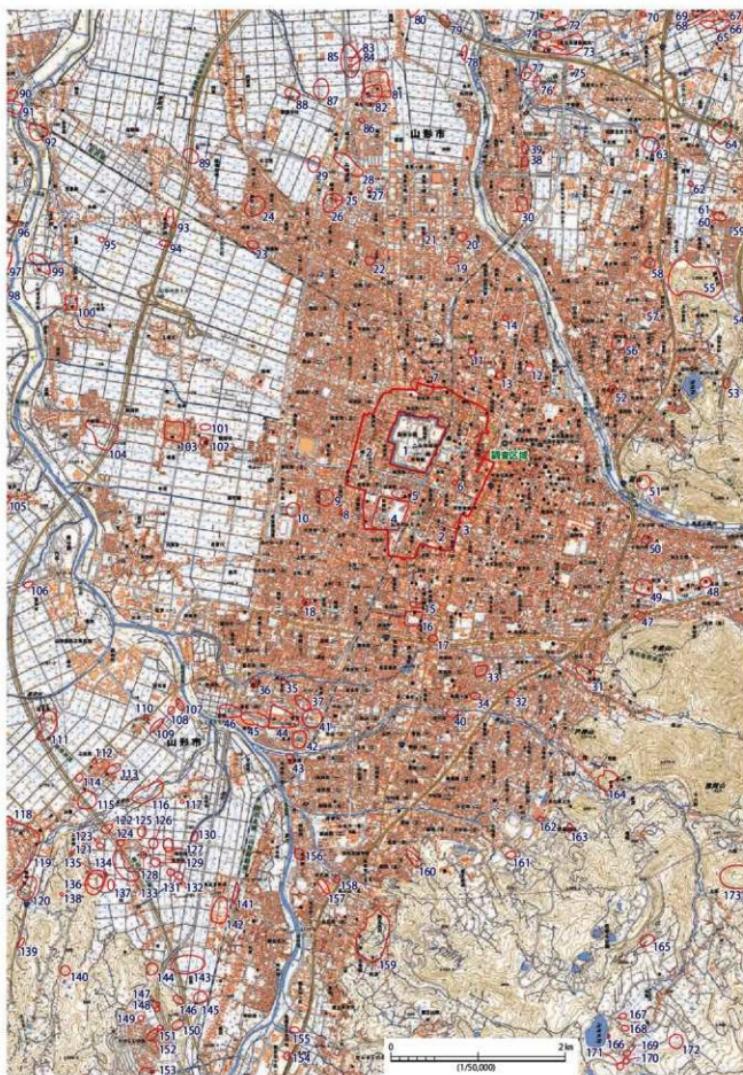
明治維新で大きく土地利用が変化した。それまで三の丸内部に居住できたのは武士身分に限られたが、庶民も自由に居住できるようになった。

明治 2 年（1872 年）、城内の土地建物が売りに出され、明治 8 年（1875 年）に旅籠町の本陣跡にあった県公立病院（現在の市立病院済生館）が七日町口大手跡に建設される。同年、旅籠町の羽州街道屈曲部の藩牢獄を受け継いだ監獄が二の丸大手門前筆頭家老水野三郎右衛門元宣の屋敷跡に移転した。明治 10 年（1877 年）に描かれた絵図では、まだ堀や土塁は描かれているものの、その後、県令の三島通庸による都市計画の中で造成が進み、調査区周辺でも堀を横切って北の旅籠町に抜ける「旅籠町新道南小路線」が新しく開削されている。明治 12 年（1879 年）の地図では、堀と土塁の記載がほとんど無くなっている点線が描かれていることから、この間に三の丸の堀は土塁を突き崩して埋め立てられたものとみられる。

第 32 連隊が誘致された明治末には軍用として「置城公園東幹線」（通称旅籠町新道）が羽州街道に接続し、旅籠町周辺は軍関連の商売をする店や旅館が軒を連ねて栄えた。大正に入ると調査区が面する山形朝日線が開削され羽州街道に繋がった。

明治 44 年（1911 年）に発生した山形北部大火で旅籠町を含む 1,300 戸余りの建物が焼け落ちたが大正初年に新しい町並みが再建をはした。

## II 立地と環境



第4図 遺跡位置図

表1 山形市主要遺跡一覧表(1)

No.	遺跡名	登録番号	種別	時代	立地
1	山形城跡(本丸・二の丸)	201-265	城郭跡	中世・近世	延状地
2	山形城跡三の丸跡	201-003	城郭跡	中世・近世	延状地
3	山形城跡三の丸跡	201-009	城郭跡	中世・近世	延状地
4	双葉町遺跡	201-001	集落跡	縄文・古墳	延状地
5	城南一丁目遺跡	201-292	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安	延状地
6	木の実町遺跡	201-289	集落跡	平安	延状地
7	城北遺跡	201-230	集落跡	平安・中世	延状地
8	石日町(古墳)	201-322	古墳	奈良	自然堤防
9	長岱代多里遺跡	201-294	集落跡	奈良	延状地前縁部
10	石日町遺跡	201-314	集落跡	奈良	自然堤防
11	西船小島廬敷	201-220	城郭跡	中世	延状地
12	栗原町・五井グランド	201-222	集落跡	平安	延状地
13	吉町・二小遺跡	201-223	集落跡	平安	延状地
14	吉町(古寺)遺跡	201-207	集落跡	古墳・奈良・平安	延状地
15	真起院・一丁目遺跡	201-102	集落跡	奈良・平安	延状地
16	山形西高敷地内	201-141	集落跡	縄文・弥生	延状地
17	若林町・二丁目遺跡	201-162	集落跡	奈良・平安	延状地
18	古削跡	201-100	城郭跡	延状地前縁部	自然堤防
19	川原田遺跡	201-175	集落跡	古墳	延状地前縁部
20	松葉ノ木遺跡	201-163	集落跡	古墳	延状地前縁部
21	宮町古墳	201-160	古墳	古墳	延状地前縁部
22	江保遺跡	201-178	集落跡	弥生	延状地前縁部
23	馬上台遺跡	201-169	集落跡	平安	自然堤防
24	御堀場遺跡	201-147	集落跡	古墳	延状地前縁部
25	梅野木御堀	201-140	塚	中世・近世	延状地前縁部
26	梅野木山遺跡	201-144	散布地	古墳・奈良・平安	延状地前縁部
27	山田堀切荷原	201-136	塚	中世・近世	延状地前縁部
28	柳遺跡	201-125	集落跡	奈良・平安	延状地前縁部
29	梅野木前山遺跡	201-124	集落跡	古墳・奈良・平安	延状地前縁部
30	芦合御跡	201-145	城郭跡	中世	自然堤防
31	平泽水跡	201-190	城郭跡		山地
32	东大ハウス遺道跡	201-210	包蔵地	縄文	延状地前縁部
33	高根跡	201-187	城郭跡		延状地前縁部
34	利見町遺跡	201-211	集落跡	縄文	延状地前縁部
35	内原こくそうさま古墳	201-196	古墳	古墳	自然堤防
36	古原豆原遺跡	201-206	集落跡	奈良・平安	自然堤防
37	古原V遺跡	201-215	集落跡	縄文	延状地前縁部
38	云町遺跡	201-119	集落跡	弥生	延状地前縁部
39	羽町北河原遺跡	201-113	包蔵地	弥生	延状地前縁部
40	舟川遺跡	201-231	集落跡	古墳・奈良	自然堤防
41	吉原Ⅱ遺跡	201-240	官署跡	古墳・奈良・平安	延状地前縁部
42	吉原御道跡	201-262	官道跡	奈良・平安	延状地前縁部
43	吉原道遺跡	201-270	集落跡	奈良・平安	延状地前縁部
44	吉原裏跡	201-237	官署跡	奈良・平安	延状地前縁部
45	吉原I遺跡	201-243	官衙跡	奈良・平安	延状地前縁部

No.	遺跡名	登録番号	種別	時代	立地
46	若宮御跡	201-228	城郭跡		谷底平野
47	松山遺跡	201-139	集落跡	縄文	延状地
48	奥の前遺跡	201-082	集落跡	縄文・奈良	延状地
49	三浦屋敷跡	201-094	城郭跡		延状地
50	金谷御跡	201-013	城郭跡		延状地
51	小山川山遺跡	201-275	集落跡	平安	山地
52	御田遺跡	201-234	集落跡	縄文	延状地
53	にひこ寺遺跡	201-227	集落跡	縄文・弥生	山地
54	高原上の原古墳	201-205	古墳	古墳	延状地
55	山家城跡	201-186	城郭跡		山地
56	内城跡	201-217	城郭跡	平安	延状地
57	上山家遺跡	201-204	博 鎏	奈良	延状地
58	大野日出遺跡	201-181	集落跡	平安	谷底平野
59	小山寺跡	201-157	古墳	古墳	山地
60	高庭遺跡	201-155	集落跡	弥生・平安	延状地
61	高原古墳	201-151	古 墳	古墳	延状地
62	砂田遺跡	201-130	集落跡	弥生	谷底平野
63	洪山御跡	201-112	城郭跡		延状地前縁部
64	お花山古墳群	201-096	古 墳	古墳	山地
65	寺西遺跡	201-025	生溝跡	奈良・平安	延状地
66	楓間御跡	201-023	城郭跡	中世	山地
67	間所古墳	201-009	古 墳	古墳	延状地
68	楓間B古墳	201-007	古 境	古墳	延状地
69	北向遺跡	201-323	集落跡	奈良・平安	延状地
70	青柳御跡	201-011	城郭跡	中世	自然堤防
71	北柳2遺跡	201-019	(包蔵地)	縄文・弥生	延状地前縁部
72	北柳1遺跡	201-024	集落跡	縄文・古墳	延状地前縁部
73	下郷八ヶ遺跡	201-032	集落跡	弥生・古墳	延状地前縁部
74	下郷C遺跡	201-026	集落跡	奈良・平安	延状地前縁部
75	下郷B古墳	201-042	(包蔵地)	古墳	中世
76	白山堂古墳	201-045	古 境	古墳	延状地前縁部
77	西ノ神遺跡	201-044	(包蔵地)	弥生	延状地前縁部
78	埴田A遺跡	201-033	集落跡	奈良・平安	延状地前縁部
79	埴田D遺跡	201-022	集落跡	縄文・弥生・平安	延状地前縁部
80	埴田 C 遺跡	201-326	集落跡	平安	延状地前縁部
81	今帰御跡	201-047	城郭跡		自然堤防
82	今帰遺跡	201-062	集落跡	古墳	自然堤防
83	古表野原塚	201-035	塚	中世・近世	自然堤防
84	古表大日塚	201-039	塚	中世・近世	自然堤防
85	古表御跡	201-037	散布地	奈良・平安	自然堤防
86	河原田遺跡	201-077	集落跡	弥生・平安	延状地前縁部
87	八ツ口遺跡	201-049	散在地	奈良・平安	延状地前縁部
88	行才1遺跡	201-057	散在地	奈良・平安	延状地前縁部
89	熊ノ木遺跡	201-117	集落跡	古墳	自然堤防
90	柳油水遺跡	201-021	集落跡	奈良・平安	自然堤防
91	奥段遺跡	201-022	集落跡	奈良・平安	自然堤防
92	去手古墳群	201-087	古 境	古墳	自然堤防

## II 立地と環境

表 2 山形市主要遺跡一覧表(2)

No.	遺跡名	登録番号	種別	時代	立地
93	志戸山遺跡	201-154	古墳地	古墳	屈状地前縁部
94	塙田遺跡	201-169	集落跡	合生・平安	屈状地前縁部
95	志戸山遺跡	201-164	空堀地	魏文	屈状地前縁部
96	大塙道路	301-061	集落跡	古墳	自然地形
97	柳在家遺跡	201-173	集落跡	平安	自然地形
98	下反日2遺跡	201-194	集落跡	古墳	自然地形
99	横沢城ノ内跡	201-182	城郭跡	中世	自然地形
100	横沢城跡	201-198	城郭跡	中世	自然地形
101	塙塚遺跡	201-241	集落跡	古墳	屈状地前縁部
102	魚塚2遺跡	201-267	集落跡	古墳	自然地形
103	飯塚遺跡	201-246	城郭跡	中世	自然地形
104	中道南遺跡	201-252	碑文・近世		自然地形
105	星屋敷跡	201-302	城郭跡		段丘
106	櫛鹿遺跡	201-093	集落跡	魏文・平安	段丘
107	高ヶ岡遺跡	201-218	集落跡	合生・平安	段丘
108	渋谷遺跡	201-225	集落跡	古墳・合生・平安	段丘
109	面明石遺跡	201-255	集落跡	平安	屈状地
110	上り鬼力丸丸古墳	201-233	古 墓		屈状地
111	百石鬼遺跡	201-254	集落跡	平安	段丘
112	寺遺跡	201-273	集落跡	古墳～平安	屈状地
113	二位山遺跡	201-276	集落跡	魏文～奈良・平安	屈状地
114	河原遺跡	201-278	集落跡	古墳	屈状地
115	朝原遺跡	201-281	集落跡	古墳～平安	屈状地
116	木沢川遺跡	201-280	集落跡	魏文	自然地形
117	今力寺南遺跡	201-282	集落跡	魏文	段丘
118	云谷寺跡	201-284	城郭跡	中世・近世	屈状地
119	云谷空堂跡	201-301	城郭跡		丘陵地
120	飯ノ森遺跡	201-036	古墳	魏文	後背低湿地
121	巻頭釋古墳	201-298	古 墓	古墳	山地
122	喜平田遺跡	201-285	集落跡	魏文	自然地形
123	喜谷船遺跡	201-297	集落跡	平安	屈状地
124	喜柏1遺跡	201-293	集落跡	魏文・平安	自然地形
125	喜田遺跡	201-290	集落跡	魏文	屈状地
126	沢田遺跡	201-295	集落跡	合生～平安	屈状地
127	舟和遺跡	201-296	集落跡	古墳～平安	段丘
128	石田前Y遺跡	201-304	古墳地	合生	屈状地
129	石田前遺跡	201-319	集落跡	古墳	段丘
130	山形元城敷遺跡	201-291	集落跡	古墳・平安	屈状地前縁部
131	現沙門遺跡	201-328	集落跡	古墳	屈状地前縁部
132	荒川遺跡	201-008	集落跡	合生・古墳	屈状地前縁部
133	石田遺跡	201-327	古墳地	合生・平安	屈状地

No.	遺跡名	登録番号	種別	時代	立地
134	高崎山遺跡	201-006	城郭跡	平安	丘陵地
135	岩前遺跡	201-021	城郭跡		丘陵地
136	谷柏古墳群	201-020	古 墓	古墳	丘陵地
137	高崎遺跡	201-028	集落跡	奈良	段丘
138	古御山群塚	201-040	群 塚	平安	山地
139	福原遺跡	201-088	散布地	魏文	谷底平野
140	郷野1空堀跡	201-103	空 堀	平安	丘山麓地
141	片谷遺跡	201-038	集落跡	平安	自然地形
142	橋子区遺跡	201-064	集落跡	魏文・古墳・中世	自然地形
143	六増遺跡	201-099	集落跡	中世	屈状地前縁部
144	天神山遺跡	201-091	城郭跡	古墳	丘山麓地
145	御前遺跡	201-106	古墳地	平安	屈状地前縁部
146	オサノズ跡	201-107	古墳地	魏文・奈良・平安	丘山麓地
147	新領山群塚	201-109	群 塚	中世	丘山麓地
148	秋葉1遺跡	201-114	集落跡	奈良	丘山麓地
149	八ヶ森遺跡	201-120	散布地	魏文	丘山麓地
150	二ツ石遺跡	201-121	散布地	旧石器	丘山麓地
151	八ヶ森南遺跡	201-122	集落跡	魏文	丘山山麓地
152	オミノク火葬墓群	201-127	燒 葬	古墳・中世	丘山麓地
153	石原坂A遺跡	201-142	散布地	魏文・平安	丘山麓地
154	西の森遺跡	201-133	集落跡	平安	屈状地
155	戸畠山遺跡	201-126	集落跡		段丘
156	御坂内遺跡	201-299	集落跡	平安	屈状地前縁部
157	朝出山遺跡	201-030	城郭跡	中世	屈状地前縁部
158	喜鶴1遺跡	201-019	集落跡	魏文	屈状地前縁部
159	御沢遺跡	201-072	城郭跡		屈状地
160	郷山遺跡	201-307	城郭跡		屈状地
161	中幅山遺跡	201-303	集落跡	魏文	谷底平野
162	木ノ口遺跡	201-283	包藏地	魏文	屈状地
163	石口山遺跡	201-288	散布地		屈状地
164	川波遺跡	201-279	城郭跡		山地
165	萩の池遺跡	201-073	集落跡	魏文	山地
166	三木大空堀跡	201-129	空 堀	奈良・平安	山地
167	神尾B遺跡	201-115	散布地	平安	谷底平野
168	神尾A遺跡	201-123	散布地	魏文	山地
169	神尾D遺跡	201-134	散布地	平安	山地
170	神尾C遺跡	201-132	散布地	平安	山地
171	神尾E遺跡	201-138	散布地	魏文	山地
172	神尾G遺跡	201-131	集落跡	魏文	屈状地
173	船山橋跡	201-014	城郭跡		山地

### III 調査の成果

#### 1 調査の概要

平成 26 年度から 28 年度までに 15 次・17 次・19 次の 3 回の調査を実施した。

遺調査区の 2 区は三の丸堀跡であり、堀跡の北側の 1・7・10・11 区は城外で三の丸構築後に羽州街道沿いの町場として整備された。3 区から南は近世に藩の有力家臣の武家屋敷が立ち並んでいた区域である。3・4・6 区は鉄筋コンクリート建物が建てられていたため基礎により深く破壊を受けて遺構は残存せず近現代の搅乱や盛土に遺物が混入している状況である。

遺物については、明治以降も市街地であった地域ということもあり、近現代の遺物が最も多く出土している。ついで近世の遺物が出土しているが、18 世紀後半以降のものが殆どで、ついで 17 世紀代のものとなっており、山形藩の藩主が頻繁に交代した時期の遺物は少ない。

#### 2 遺構と遺物

以下、遺構と遺物について述べるが、調査区は、東西方向に走る道路で大きく 3 つのブロックに別けた。それぞれのブロックで性格も異なるので、ブロックごとに分けて説明する。

なお、以下の文章で「30-10」などと書いてある場合、「第 30 図の No.10 の遺物」を指し示している。

#### A 北調査ブロック

三の丸外堀跡の 2 区と羽州街道沿いの町場である 1・7・10・11 区である。当地には、17 世紀末の松平忠弘の時代以降、絵図によって藩の牛獄が置かれていたことが確認できる。従って、近世の遺構はほとんど牛獄に関連するものであると考えられる。

現在の地形でも、羽州街道がある北側が高く、緩やかに南側が低くなっている。全般的に北側の遺構密度が低く南側が濃くなる傾向があるが、北側は整地のために削平を受けている可能性もある。

10 区・1 区は、7 区・11 区の地表面より最大 50cm

ほど低く、人為的に整地されたと思われる。10・1 区と 7・11 区には近世から明確な土地の境界が存在していたと思われる。

#### 10 区 (第 6・65 ~ 68 図)

タクシーカ会社の建物基礎コンクリートが多数出土し、ほとんど削平を受けていた。遺構らしい遺構は確認できず近現代の遺物が目立つ。唯一、壁板を杭で抑えた SK13 土坑がある。65-1 ~ 66-6 の遺物が出土している。まとまって 18 世紀後半以降の近世末期の遺物が出土したもの、近代以降の火鉢なども出土し、「大正十四年一月廿 ヒタチ」と墨書きされたコンクリートサンプルや日本では戦後に広まったペール缶が出土しており、それ以降のものであろう。

以下、遺構外から出土した遺物について解説する。

66-7 は 17 世紀後半の可能性がある肥前産碗である。底部に「大明」と書かれ、見込には草紋が外面には菊唐草紋が施されている。

66-8 は鉢または大ぶりの碗である。18 世紀後半から 19 世紀前半の肥前産と思われる。

66-9 は内外に網目紋が施され、見込に菊花紋、高台に満福紋が描かれている 18 世紀後半の肥前産碗である。

66-10・11・68-16 のいわゆる広東碗も出土した。

67-4 は 18 世紀代の肥前産と推測される大型の鉢である。蛇の目高台で見込に三引両の家紋状の模様が描かれている。

67-5 は 18 世紀後半の肥前産の皿で、見込部分が釉剥ぎされ、二重斜め格子紋が描かれている。今回の調査では同じデザインの皿が多数出土した。

67-11 は近代の瀬戸美濃製の磁器皿で、型紙刷りで文様がつけられている。

68-1・2 は 18 世紀代とみられる肥前産磁器。大きさ、模様とも同じである。内と裏に打出小槌に似た窓印と思われる紋様が描かれている。

68-3 は岩絵具の小皿。底部に屋号と「放光堂」と刻印されている。放光堂は、江戸時代中期から現在まで京都で営業している日本画用岩絵具専門店である。近代

### III 調査の成果

のものと思われる。

68-4は近現代の酒杯である。見込に剥離してはいるが「小池旅館」と書かれている。

68-14は瓦器の火鉢と思われる。調査区東側をトレチ掘りしたときに出土した。底部に大きな穿孔があり、全体に煤が付着している。

68-15は丸瓦であるが、直径が6cmほどと通常の瓦と比べると著しく幅が狭く、用途が特殊なのであろう。  
1区(第6・7・14・21・50～54図)

10区とほぼ同じ地表高で7区より低い。この区は検出されたものはほとんどが近代以降の掘り込みであるが、18世紀後半から19世紀前半の肥前の波佐見産器なども出土している。

1区の北東側では遺構は希薄でSK86土坑の他は検出されていない。SK86は規模1.5mの楕円形の土坑である。遺物は50-12～51-9まで出土している。50-12～51-3までは磁器である。50-12～17までは概ね18世紀後半から19世紀までの近世末期の肥前産のものであるが、50-19・51-1のような明らかに近代の磁器も混じっている。51-9は、明治時代初期に流行した雷文緑中国紋の火鉢である。のことから、SK86は明治時代のものであると思われる。

調査区中央部では方形の土坑や溝状遺構などが検出されている。SX75・SX79・SK84土坑は、ほぼ同様の規模で、長軸1.3～1.5m、短軸1～1.1mである。底面には凹凸が見られる。SX75からは遺物が出土していないが、SX79では大量の炭化物が被熱した礫と一緒に検出され、52-1・2の18世紀後半から19世紀にかけての肥前産磁器が出土しているので、近世末期の平清水と思われる。SK84は53-4・5の近世末期の平清水と思われる遺物が出土していることから、近世末期から近代と見られる。

このほかには溝状遺構SD58・69・68・80・82がある。SD58・69は幅が50cmとやや細い。北西～南東に走る溝跡である。SD80・82は幅80～90cmで、SD68は規模の大きい溝状遺構である。ほとんどが断面U字型を呈するがSD82溝跡は障子掘り状を呈している。この溝はやや規模に大小があるが、ほとんどが南東から北西方向に平行に検出される。出土遺物は、SD68溝跡からは54-1の18世紀後半の肥前産の碗、SD82溝跡から

は54-4の19世紀の平清水と思われる壺が出土している。そのため、18世紀後半から19世紀にかけての時期の遺構と思われる。

SX85土坑からは52-5～8の遺物と牛と思われる骨が比較的多く出土している。52-5は見込に宝珠、外面に吉祥紋が描かれた18世紀後半から19世紀前半にかけての肥前産の磁器茶碗である。底部に朱書きで「二か長」と記されており、おそらく使用者が書き込んだと思われる。52-8は産地不明の酒盃で、見込に「庄内屋」と注文主の旅館名と思われる書き込みと、高台内に窯印の紋様が書き込まれている。近代の廐棄土坑である。

西壁際の不定形の土坑SK72からは、52-9～53-3の遺物が出土している。52-9は19世紀の肥前産磁器鉢と思われる。52-10は重ね鉢であるが、型紙刷りで近代の遺物と思われる。52-12は酒盃で、当地にあった小池旅館の銘と剥離して金彩の痕跡しか確認できないが「祝口業」の文字が入っている。52-13も酒盃で、見込部分に金彩で「祝捷」と書かれている。内面に赤褐色の付着物が付いている。53-1は54-5と同形と思われる壺である。大きく歪んで底部が密着しないので不安定で実用に耐えられないものである。平清水産と思われる。53-2は秉獨で、鉄軸が施された底部に穿孔がある。出土遺物は近世末期のものもあるが、近代以降のものも混じっており、比較的新しいものと思われる。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

54-2は磁器の蓋。上部に「はたこ町」と朱書きされている。

54-6はかわらけである。底部は回転糸切した後になで調整されている。

54-7は瓦質の焰熔である。

7区(第6・7・15・21～24・54～64図)

7区は東に10区と1区、南に11区と隣接している。1区から11区までのうちも遺構密度の高い地区である。特に南側では円形の大小の土坑ピットの密度が高く、北側では方形や長方形の大型遺構が目立つ。

南端ではSD43溝跡が円形に巡り、それに囲まれた中には大型の土坑SX33・37・38・39などが所在する。

SX33土坑は西壁に掛かり一部未検出だが、径1.5mほどで、60-10～61-4が出土したが、近代のものとみられる。61-1～3は窯道具の焼台である。

SX38 土坑は径 2.5m × 2.3m と大型で、断面は船底型で検出面からの深さも 70cm と深い。覆土には径 5 ~ 20cm の大小の礫を多量に混入している。54-10 ~ 55-4 までの遺物が出土した。54-10 は瀬戸市美濃産の大窯期の灰釉小皿である。55-2 は割れて欠損しているが、丁寧に脚部も作り出された石鉢である。被熱して内外に煤が付着している。

SX39 土坑は径約 2m、最深部で深さ 0.8m を測る。断面は船底型で覆土には礫を多量に混入する。55-5 ~ 7 が出土した。55-5 は瀬戸市美濃産大窯期の灰釉小皿で、窓での焼着が内面にある。

SX38・39 土坑は近世初期に遡る可能性もある。

SD43 溝跡は幅 1 ~ 0.7m ほどで断面 U 字状を呈するしっかりと掘り込まれた溝である。遺物の出土はないが、SX38・39・SD43 はセットになり同時期だと考えられる。

この円形溝で囲まれた範囲は直径約 10m と見られるが、大半は調査区外である。この他にも SD43 溝跡には遺物を伴わない時期不明の土坑 SK51・57・58 が重複しているが、溝を切っているため後出の遺構と見られる。

ST71 は 3 × 4 方寸の正方形の竪穴建物で壁は垂直、底面は平坦である。棟持柱・壁柱穴を有し床面には焼土や炭化物が検出されているが燃焼施設がなく、年代を決定できる遺物も出土していない。柱穴の中で EP254・255・256・260 は深い掘り込みで柱痕が見られる。61-8 ~ 11 は、調査区壁面を拡張して ST71 全体を掘り出した時に遺構検出面より上の層から出土したもので、ST71 の年代とは無関係の近現代の遺物である。61-11 は瓦質の用途不明品で、不定形をし片面に平らな突起が付いている。

調査区中央付近でも大型土坑 SK93・95・SX98 が見られる。SK93 は 3.4m × 3m の大型円形土坑である。壁は 50cm ほど垂直に掘りこまれる。底面は平坦部分もあるが、凹凸も見られる。58-17 ~ 59-9 の遺物が出土している。58-17・18 は肥前産の磁器で、18 世紀後半から 19 世紀後半までのものと思われる。59-1 は志野の碗の破片で、59-2 ~ 5 は大堀相馬産と思われる。遺構の年代も近世末期であろう。

SK61 土坑からは 63-6・7 が出土している。63-6 は高台内に屋号がプリントされている近現代のもので、63-7 は玄武岩製の石材である。

SK95 土坑は 2.3m 四方の隅丸方形を呈する。59-10 ~ 60-5 が出土している。59-10 ~ 18 は磁器で肥前産とみられ、概ね 19 世紀の近世最末期のものと思われる。59-19・25・60-1 は大堀相馬産のものと思われる。他是産地不明である。59-20 は小型の羽釜状の器であるが、上部に切れ込みが入っている。60-2 は層塔状の土製品で下部が欠損している。軸が一部剥離しているが、青や赤での彩色が一部残っている。

SK97 は径 3m の円形を呈する深い掘り込みである。遺物の出土はなく年代の決め手はない。

SK101 は隅丸長方形の土坑で規模は 2.1m × 1.3m。壁は垂直に掘りこまれ、深さは 50cm 程である。内部より大小の礫が多く検出されている。55-8 ~ 56-3 までの遺物が出土している。55-8 ~ 11 までは肥前産の磁器で、18 世紀後半から 19 世紀のものである。55-8 は焼きが甘い波佐見の碗であるが、口縁部が割れた後に紅皿に転用している。56-1 は火鉢の底部の脚部である。

北側では、長軸 3m 幅 1.2 ~ 1.7m のほぼ正方形の土坑など大型の遺構が検出されている。

ST107 土坑は正方形の土坑で、断面は船底型を呈する。規模は約 2.5 m 四方と見られる。内部には 1.5m × 0.8m の楕円形の土坑が見られる。57-4 ~ 58-16 の遺物が出土している。57-4 ~ 13 までは磁器で、18 世紀後半から 19 世紀前半の波佐見産である。57-20・21 は肥前産陶器、57-17 ~ 19 は大堀相馬産であると思われる。57-24 は産地不明の無施釉陶器の蓋があるが、外側面に煤が大量に付着しており、おそらく灯明皿か火が付いた灯明を消すための蓋に転用したのであろう。58-7 ~ 9 は秉柄である。上部に胎色の鉄軸がかけてある。底部は回転系糸であるが、軸に挿して整形したと思われる。産地は不明。58-13 は用途不明の土製品で、無施釉でヘラで削って整形し三角形などの刻印が押してある。剥離した高台の可能性もあるが、それにしては直線的ではない。58-14・15 は共に黒褐色の無施釉瓦である。58-14 は軒平瓦で、山形市教委の瓦分類で「FD1」に該当する。58-15 は丸瓦である。58-16 は砥石である。中砥と思われ、かなり使い込まれている。文字絵画線刻の砥石が出土している。片面には男性器と女性器を描いた線刻が刻まれ、左隣に漢字かな交じりで二行ほど文字が刻まれているが解説できなかった。また、男性器にも「大口」と

### III 調査の成果

二文字刻まれているがこれも判読できなかった。遺構の年代は、19世紀の近世最末期であると考えられる。

ほかにも 2.5m 四方の正方形土坑 SK100 がある。出土遺物は少なく 60-6・7 が出土している。60-6 は大堀相馬産と思われる土瓶で、60-7 は秉觸である。鉄袖が全体にかけられ、底は回転糸切で脚部が短い。ST107 とほぼ同年代と推測できる。

やや小型で 1 m 四方の土坑 SK110 からは、56-17～57-3 までの遺物が出土している。56-17～21 までは肥前産と思われる磁器で、18世紀後半から 19世紀前半までの時期である。57-1 は大堀相馬産と考えられる土瓶の蓋で 60-6 の土瓶本体と同一個体と見られる。

ST107・SK100・110 はほぼ同時期の遺物が出土していることから同時期の近世最末期のものと考えられる。

SD112 は 1.9m × 0.4m の長楕円形の溝状遺構で、年代特定につながるような遺物の出土はなかったが、覆土に礫が多く含まれていた。

SK113 は 0.7 m × 0.8 m ほどの円形の土坑である。圓化には至らなかったが、SK100 土坑出土の土瓶 60-6 と同系統別個体の破片が出土しているので、同じ年代であると思われる。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

64-1 は、18世紀後半から 19世紀前半の肥前産の皿である。口縁部が玉縁状になっている。内面には雪輪草紋が、見込にも不明の紋様が描かれている。

64-2 は 18世紀後半と思われる肥前産の重ね鉢である。外面には背景を滲ませて鶴のような鳥を描いている。割れたものを膠で修復接合されている。

64-4 は 18世紀後半の肥前産の蓋で、ツマミ部分は欠損している。外面にみじん唐草文様が施されている。

64-5・6 は落込みから揃って出土した赤茶葉碗である。釉の劣化が激しく脆い。下面に「楽」の窓印が押されているが、楽家当主に該当する印はない。近代以降の作か。

64-8 は年代產地とも不明の焰烙である。内外面に煤が付着している。近現代のものか。

64-9 は大堀相馬産と考えられる水指である。灰釉が施され、上部は蓋が付属しない後ろ半分が開放された形のものである。

11 区(第 7・21・43～48 図)

7 区より標高が高かったが、目立った遺構は無かった。

唯一、戦時に作られた家庭用防空壕跡 SK7 が検出された。L 字状の平面形をしており、深さは遺構検出面から 1.3m ほど。戦後もしばらく倉庫と使用していたという。埋土の様子から一度に埋め戻されている。近代以降の遺物が数点(49-13～16)出土した。49-15 は、日露戦争後に発売された東京神楽坂の尾澤薬局製の万能皮膚病薬「全治水」の瓶である。49-16 は一銭銅貨である。「龍一銭」と言われるもので、明治 6 年(1873 年)から明治 21 年(1888 年)まで発行されたものである。

堀跡である 2 区との境界には、直径 50cm ほどの石を少なくとも 2 段に積んだ石組みが検出された。石組は西側にも続いており、状況より三の丸外堀の線に設けられた石組で、近代以降も土地の境界として残されたと見られる。厳密には 2 区ではあるが、11 区調査時に掘り下げた堀部分を SD14 としたが、そこからは明治以降の遺物(49-3～12)が出土している。49-8 は磁器の水差しと思われる頭部に穴が開いた人形。色が剥げている。49-11 は近代に使われた調理器具「蒸しかまど」の破片で、「ムシカマド」と刻印されている。49-12 はアメリカ製の歯科セメント用瓶。19世紀末頃と思われる。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

50-2 は磁器製の布袋の形をした水差しと思われる。極彩色が施され、底部に横円で囲んだ「萬古」と刻印されている。

50-3 は天目茶碗の破片である。胎土には砂が多く含まれる。時期は不明。

50-4 は唐津の皿。

50-6 は長さ 2.8cm ほどの小型の無施釉の水鳥の土製品である。細かく丁寧に施文されている。時期產地とも不明。

50-9 はかわらけ。底部は回転糸切でなで調整されている。

50-10 は焼き塙壺と思われる素焼き手捏ねの小型壺片である。

2 区(第 7・21・43～48 図)

鉄筋コンクリートの基礎が残っていたこと、近代の「御殿堰」があることなどから 2 年度に渡って調査を実施した。2 区の中央に御殿堰が流れているが、地元の言い伝えでは堀跡のほぼ中央に御殿堰を通したということであったが、その内容が正しいことを確認した。

三の丸の堀跡は、2区の土地全ての幅はほぼ15m、深さは2mほどの素掘りで、地山の礫層に達している。

出土遺物は18世紀後半以降のものが目立ち、秋元家が山形転封後に荒れ果てた山形城を大規模修築したとの記録にはば合致し、その時に堀の浚渫も行われたと思われる。

43-12～44-10は磁器である。年代は秋元家入部以降の18世紀後半以降の肥前産磁器が多数を占めた。44-5は大型の鉢で外面は青磁釉が施され、内面には染付で絞様を施されている。44-6は重ね鉢でみじん唐草紋、44-7は蓋で唐草雪輪紋である。つまみは欠落している。44-6と7が同一個体のものかは不明。

44-11～45-24は陶器である。年代は、一部17世紀後半に遡る可能性がある45-12・13の肥前系陶器以外は44-17～20のような大堀馬鹿の碗皿類が多数を占める。45-8は鉄釉が施された油徳利である。45-10～24はすり鉢で、概ね在地産のものと考えられる。口縁部にバラエティーが見られたので多数掲載した。

明治初年に堀は土塁を突き崩して埋め立てられたと見られ、レンガを組んだ建物基礎も出土した。

46-1・2は近代の藍染用大瓶である。昭和40年代末まで当地で染色店が操業し御殿壇の水を染色に使用していたという。6基ほど存在したが、完形品として取り上げることができた46-1と最大径を持つ46-2だけを図化した。産地は不明であるが近代のものである。

木製品は、48-3～8が出土した。48-3は将棋の王将駒で、堀底から出土した。48-4は割れた板材で、二箇所穿孔され、屋号らしき記号が墨書きされている。48-5は全面漆塗りされている木材で、家具の一部なのだろうか。48-6は漆塗りの桶である。48-7・8は箸である。

47-8～16は瓦である。ほとんど破片しか出土していない。47-12・13・15のみ赤瓦で、あとは黒瓦である。47-8～11の軒平瓦は、山形市教委の瓦分類での「FG1」型式に該当すると思われる。

## B 中央調査ブロック

三の丸郭内へ江戸時代初期の以外では一貫して武家地であり、三の丸大手門である七日町口から二の丸大手門に向かう主要道路である「七日町口通り」が東西方向に走っており、幕末まで家臣團の屋敷が立ち並んでいた。

### 3区(第8・43図)

2区と市道七日町口通線を挟んで北西に位置する。この現行道路は三の丸の土堀跡で3区が近世の七日町口通りであったと見られる。現在、調査区の西側で市道七日町口通線はクランク状に屈曲しているが、これは明治の道路付替えにより発生し、近世は直線的道路であった。

3区は鉄筋コンクリートの建物が建てられて攪乱を受け、遺構は確認されていない。上色変化を確認したもの、旧河道によるものであった。遺物は少量出土したが、近現代の盛り土に混入していたものである。

43-9・10は5勺(90ml)の牛乳瓶である。43-11は、サイズや形から三十式空包である。三十式小銃用の銃弾として日露戦争時に使用されたもので、旋条痕がある。

### 4区(第9・43図)

4区は5区の北に隣接した調査区である。歯科医院跡の鉄筋コンクリート建物基礎などに深く攪乱を受けており遺構は検出されなかったことから遺物はほとんど出土していない。43-6は昭和8年開業の「矢吹病院給食部」の食器である。型押しの量産品で、外側口縁部に緑色のラインが入った同系の食器も多数出土し、43-7の皿も同化した。

### 5区(第9・10・14・20・36～43図)

5区は近世を通じて武家屋敷が存在した地区で水野時代も「長屋」と呼ばれた藩士の住居が七日町口通沿いに並んでおり現在でも西側への並びで子孫が居住している。近代以降に盛り土整地され、木造家屋が建っていたため遺構の残存状況が良好であるが、調査区の北側は削平により遺構の残存状況が良くない。

近現代、近世後期、近世初期の3つの時期がある。

SK9・SX21は不定形の土坑で大型の礫と共に、SK9からは42-1の薬瓶が、SX21からは42-4近世以降の薄手の磁器酒盃が出土している。41-4は火鉢である64-13と同系統のもので、近世の愛知県産のものである。

SD41は2mほどのL字状の浅い溝で建物の雨落ち溝の可能性が高い。遺物は伴わなかったが近世と思われる。

SE11・12・13は井戸跡である。SE11は桶を埋めたもので37-2の志野端反皿と37-3の下駄が出土しているが、志野端反皿はこの遺構の年代を示すとは思えない。下駄は欠損しているが、長さは20cmほど、幅は10cmほどであったとみられ、女性用とみられる。使い込みに

### III 調査の成果

より歯が摩耗してほとんど残っていない。SE12は石組の井戸で、40-15～18が出土している。40-15は平清水産と思われる徳利で、19世紀後半から20世紀初期のものと思われる。SE13は桶を埋め込んだSE11と同形で、縁に石が円形に並べてあった。時期もSE11と同時期と思われる。桶部材41-1・2を図化した。

SK14は、長軸1.7m、短軸1.5mの長方形を呈する石組みの土坑である。検出面からの掘り込みは35cm程と浅い。40-5・6が出土し、40-5は18世紀後半から19世紀前半の肥前産磁器である。SK16は平面形が梢円形の大型土坑。長軸3.3m幅1mを測る。40-7～11の18世紀後半から19世紀前半にかけての遺物が出土した。

SD17は調査区西壁面際に検出された不定形の細長い落込みである(第14図 5区基本層序)。長さ17mほど、幅は確認できただけで2mほど、遺構検出面からの深さが0.4mほどであるが、調査区外に広がっていた。最下層より37-15・17～19の17世紀の肥前産陶器皿、38-20の小刀が出土した。出土遺物の上層には炭化物が大量に堆積した層があり、元和3年に発生した山形城下を焼き尽くした火災によるものである可能性がある。また、遺構検出面から40-4の碁石も出土している。38-1も肥前系と思われる陶器の甕である。38-7～15はかわらけの甕である。そのほとんどは遺構検出面や壁面拡張時に出土した近世のものであるが、38-11は下層から出土した底部がやや大きめ器高も深い比較的古い時期のものと思われる。38-16～18は近世の焼塩壺。外面に格子紋が捺されている。

SD39は調査区の長軸方向に長さ20m以上の大型の溝跡である。上端の幅は北側で2m、南側で4mを測る。下端は約1mほどで断面は逆台形である。南端壁には厚0.3～1mほどの石で組まれた護岸の石組があり、溝跡は東側に伸びると思われるが、防火水槽の跡により削平されている。壁面は砂お塗布し丁寧に整形されているが、構築後に極めて短期間に埋め戻されたと思われる。南端から35-19五輪塔の空風鈴が出土しものの、36-5～10の他に目立った出土遺物はほとんど無くそれも検出面からの出土であるので、遺構の正確な年代は不明だが、17世紀以前と考えられる。同様の区画溝は、山形市教委の双葉町遺跡や城南町遺跡など三の丸の南地区で

の発掘調査で確認されている。

SK19土坑はSD39大溝上面にあった落込みで、39-9～40-3が出土している。39-9・10は表層から出土した18世紀後半の波佐見産であるが、39-11は瀬戸美濃産、39-12～14は唐津産の皿で17世紀にさかのぼれ、SD39の時期を示すと思われる。また40-2はふいごの羽口の破片である。8区を中心に多く出土した鉛滓と関連すると思われる。

SP32ピットからは39-6の瀬戸美濃産大窓期の皿が出土した。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

42-6は17世紀代の唐津産の皿である。底部は回転糸切で、見込に砂目痕が残っている。無文様である。

42-9は用途不明の陶製品である。五徳の脚部である可能性が高い。時期产地は不明。

42-10は船の形をした陶製品。彩色施釉が施されている。一部欠損していて、前後方向はわからない。近代以降の玩具と思われる。

42-11・12はかわらけの皿。底部は回転糸切で灯明皿として使用したとみられ煤が付着している。

42-13は土製の用途不明品。器厚は10cmを超える。外見は鍋状の形をしているが、底部には直径20cmを超える穴が穿たれている。内面には段差がついていて、なで調整がされている。全体が被熱し、特に内面の被熱による劣化が激しい。製作年代、产地も不明である。

42-16は蓋状の土製品。側面に指での押圧痕がある。焼塩壺の蓋と推測している。今回の調査で、同様の遺物が数点出土している。

42-17は石臼の下部である。直径44cm、高さ19cmほどで、7区SK59出土の63-1の石臼とセットの同一個体であるかの可能性が高い。近世のものと思われる。8区(第10・15・18・19・29～36図)

8区は全体の中央部に位置する。全調査区の中では最も遺構密度の高い地区であるが、住宅の前でガス管、上下水道管が走る部分は調査できなかった。

北側地区では規模が0.7～1mで隅丸方形の時期不明の土坑ピットが多数検出されている。これらに切られる形で調査区を横切る方角に走るSD240溝跡がある。長さは6m以上、幅は1.5m以上、深さは1mと深い。年代を判別できる遺物は出土しなかったが、大量の鉛滓が

出土した。理化学分析をすると鍛治津であるとの結果が出た。近世、近代にこの地区に鍛冶工房が存在した記録はなく、三の丸構築以前のものであるとみられる。遺構外からも 5 区を中心に鉛滓が多く出土しており、ある程度の期間に渡って鍛冶作業を行っていたのであろう。中央地区では 70cm 前後の土坑が多数検出されている。SX220 は径 1.5m の円形土坑である。SD209・210 は重複した溝跡で、SD210 から 31-4 ~ 7・11 が出土した。31-5 ~ 7 の肥前産磁器から 19 世紀前半頃と思われる。31-5 は外側と見込に柱状の文様が施されている。31-6 は大ぶりの鉢で、外面に青海波が施されている。南側では重複した遺構が多数検出されている。

SX132 は直径 3m を超える円形の掘り込みで 31-8 ~ 10 が出土している。31-9 は平清水の鉢であるので 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけての時期とみられる。SK142 土坑からは、30-10 ~ 31-2 が出土している。30-10 ~ 12 の磁器は 19 世紀の肥前産である。30-10 は外面に幾何学状の星型紋が施され、見込に宝紋がある。19 世紀後半と思われる肥前産である。紅皿として使用され、紅が付着している。30-13 は产地不明の土瓶状容器のものと思われる蓋。30-14 は瓦器の皿で下部に高环状の脚部が付くと思われる。内面に煤が付着しており、おそらく灯明皿に転用したのであろう。SK143・SX168・169 は近現代の掘り込みと思われる。SX168 からは 32-12 ~ 33-13 が出土している。

長方形の浅い土坑 SK149 も 19 世紀頃の土坑である。SX134 は円形の浅い掘り込みで、29-9 ~ 30-1 が出土している。29-9 は龍泉窯産の青磁碗。29-14 は志野の碗の破片で、近世初期まで遡ると思われる。

SD129・163 は平行に走る溝跡である。幅 40cm 深さ 20cm を測る。断面は U 字状を呈する。道路状遺構の可能性を考えられ、年代を決定できる遺物の出土はないが、重複関係や覆土の状況から 17 世紀初頭かそれ以前の所産と見られる。

また、SX154 と ST184 穴穴建物跡が検出された。SX154 は正方形で 7 区の ST71 とほぼ同規模である。ST184 は東西 6m、南北 2.7m を測る。壁面はほぼ垂直に掘り込まれ床面は平坦である。床面には炭化物の集中区域が中央部と東側に 2 か所見つかっている。壁柱穴も多数見つかり、床面でも柱穴が 1 基検出されている。

南西には SX181 と重複し壊されている。SX154 から 34-17 の瓦が出土しているが、他に年代の決め手になる遺物の出土はなく時期は不明。

この他規模 1 ~ 2 m の方形や隅丸方形の土坑ピットが多数検出されている。この地区も遺構検出面に疊が多數混入していた。

SX153 落込みからは 34-14 の骨製と思われる箸が出土している。獸骨というより象牙と思われる。象牙の箸といえば「象箸玉杯」のことわざの語源にもなった非常な贅沢品である。共伴遺物が無く、正確な年代は不明だが、一般的に小藩の家臣が所有できるようなものではないので、近代以降のものと思われる。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

35-1・2 は近現代の磁器碗である。外面には強くろくなデされた凹凸が付き、内外に葡萄唐草紋が黒褐色で手書きで描かれている。

35-4 は酒盃で、内面に鶴の文様が描かれ、屋号と「富山市廣貢堂」と記されている。廣貢堂は明治 9 年創業で現在も続く製菓会社である。

35-6・7 は酒盃で、外面に波と桜と雀が印刷されている。底部に、35-6 には「大日本華山製」、35-7 には「大日華山」と書かれているが、型紙による自刷と思われる。華山窯は寛政 8 年 (1796 年) 創業の肥前有田の窯で現在も操業している。近代のものである。

35-8 は磁器の酒盃で、見込にほんと剥離しているものの金彩で鳳凰の絵柄と「□十三口名刺年賀交換会」と記されている。山形では毎年 1 月に商工会議所によって名刺年賀交換会が開かれており、おそらく昭和 13 年に記念品として配られたものであろう。

35-10 は青磁の花瓶、龍泉窯のものと思われる。

35-14 は土師器の蓋。焼塙壺の蓋と思われる。

35-15・16 はかわらけ。手捏ねで口縁部を横なでしている。

35-17 は軒丸瓦。施釉されているがやや小型なので近代以降のものと思われる。

36-1 は四石。直径 15cm ほどの自然石で、中央部に人為的な凹みがつけられている。

36-2 は骨製のヘラ。組を通す穴が開いている。

36-3・4 は天保通寶。36-4 は表面に鏽が付着している。

12 区 (第 10・18・26 ~ 29 図)

### III 調査の成果

8区に隣接するために、その続きとして検出された遺構が多い。

12区 SX5は土地の区画をまたいだ8区 SX181と同じ落込みで、浅く掘り方もはっきりしなかったことから倒木痕の可能性がある。27-9～11が出土している。27-9は底部に「源六製」と書かれており、明治中期に佐賀県嬉野市富永源六が開いた源六焼きである。

SX1は近現代の掘り込みである。近所の住民の証言によると数十年前まで使用していた井戸跡ということであったが、軟弱で縫まりがなくビニールなどを含む覆土で、掘り下げを進めていると、底部まで確認しないうちに壁面が崩落しあしめ、歩道まで崩落する危険性があつたので、確認を断念して埋め戻した。

SX9は幅2.5mほど、長さは5m以上の掘り込みで、26-9～12・28-17・18の18世紀後半から19世紀の肥前産磁器が出土している。26-12は皿である。内側に山水紋が施されている。26-13・14陶器が出土している。13は瀬戸美濃系の碗で、見込に胎土目痕がある。高台は磨きをかけている。26-14は同年代の京信楽系の碗である。また、27-1～8・28-19のまとまった数量のかわらけが出土した。いずれも燈明皿として使用したもので、煤が付着したり口縁部を打ち欠いている。年代は同伴陶磁器と同じと考えられる。

SK12土坑からは28-1～16の近世の遺物がまとめて出土している。28-1～4の磁器は肥前産で18世紀後半から19世紀頃のものである。28-5～8は17世紀後半頃の唐津産と考えられる。内面には鉄軸で施文が施されている。28-15は石鉢で、削れた状態で出土している。

遺構外からの出土であるが、29-3は表面に線刻が施されている。29-4は漢字状の浮き彫りが施されているが、判読できなかった。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

29-5は天保通寶である。

### C 南調査ブロック

この地域は江戸後期以降は耕作地化し、近代になると宅地化した地域である。

6区(第11・12・17・25図)

6区は9区が南に隣接する。地元百貨店の立体駐車場があったことから、遺構は殆ど削平されていた。そのた

めに、出土遺物も25-1～4と少なく平安時代を中心とした遺物がわずかに出土している。

SX7は周囲を礫が配置されていたことから、井戸跡の最底部である可能性もある。

25-3は砥石である。キメが細かく仕上砥だと思われる。近世のものと思われる。

9区(第13・16・17・25・26図)

9区は建物の基礎で深く攪乱を受けている。規模0.7～1m程の土坑がまとめて検出された。

SK3・20は重複した土坑である。SK3は規模が1.6m×1.9mを測る深さ20cmほどで、18世紀後半から19世紀の陶磁器(25-5～7)が出土するやや大型の土坑である。瓦(25-8・9)も概ね同時期と思われる。成平元宝と思われる錢25-10も出土した。

SK20はそれを切る60cmほどの垂直に掘りこまれた土坑である。近代の所産と考えられる陶器鉢26-1が出土している。

他に現在の土地区画と完全に一致する近代以前と考えられる区画溝SD10や時期不明の火葬骨を埋葬したSH2木棺蓋が検出された。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

25-17は18世紀後半の肥前産の碗。外面には山水文が施されている。

25-18・19は同一個体と思われる。17世紀頃の漳州窯の染付皿の破片である。

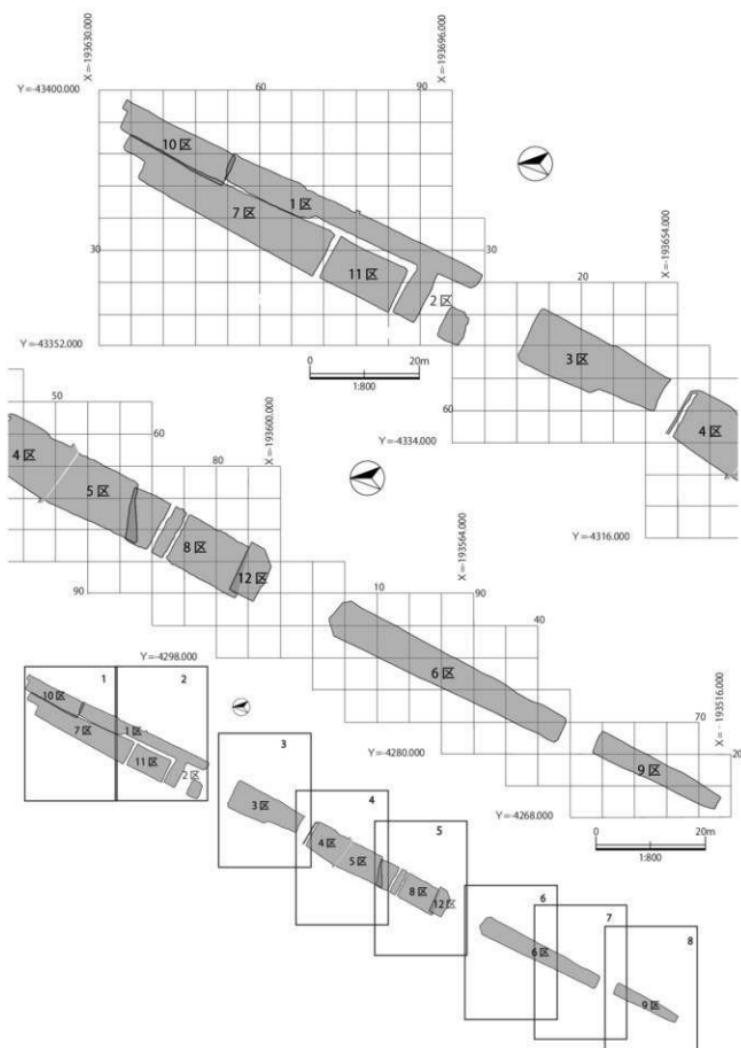
25-21は瀬戸美濃産の天目碗である。灰白色の施釉がされているいわゆる白天目で、近世のものだと思われる。

26-2・3は焼壙壺の破片である。

26-4は甕である。胎色の鉄軸が施されている。形や大きさが53-1・54-5の甕と極めて類似しており、おそらく同じ産地で同じ時期に作られたものであろう。産地、時期とも不明ではあるが、近世末期から近代初頭にかけての在地産の甕であると思われる。

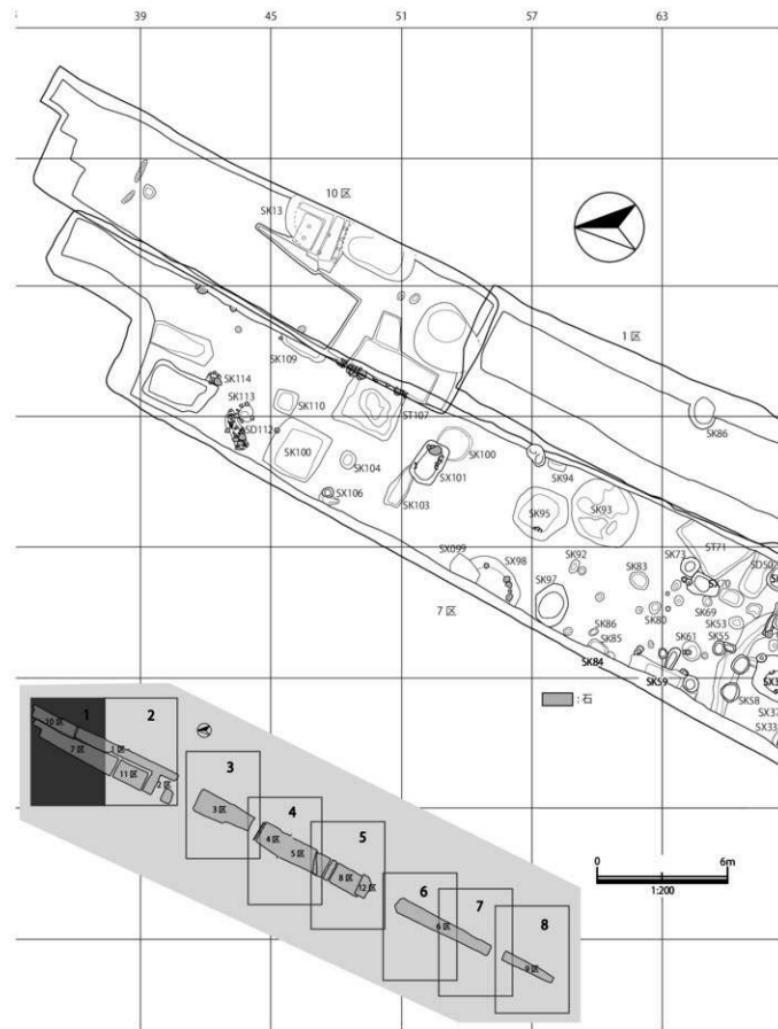
26-5は土製品の人形で、馬の脚の部分と思われる表現がなされている。無施釉で製作年代は不明である。

26-7は軒平瓦。施釉されている。上面には釘穴がある。

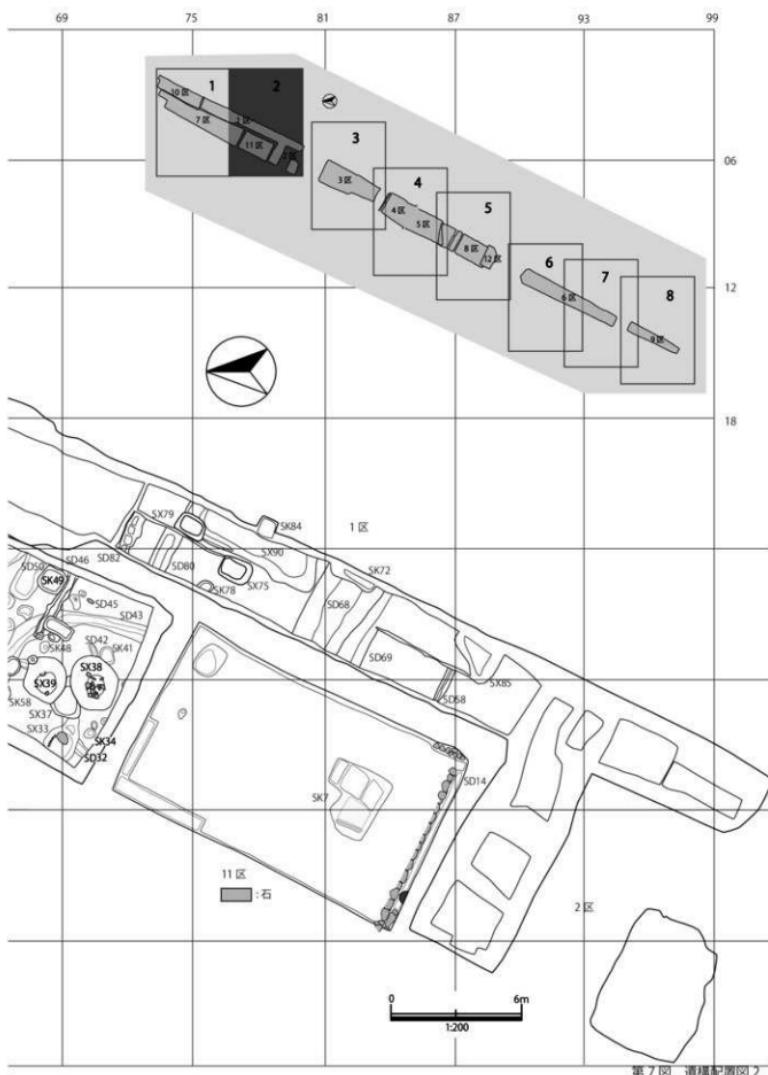


第5図 調査区概要図・割付図

### Ⅲ 調査の成果

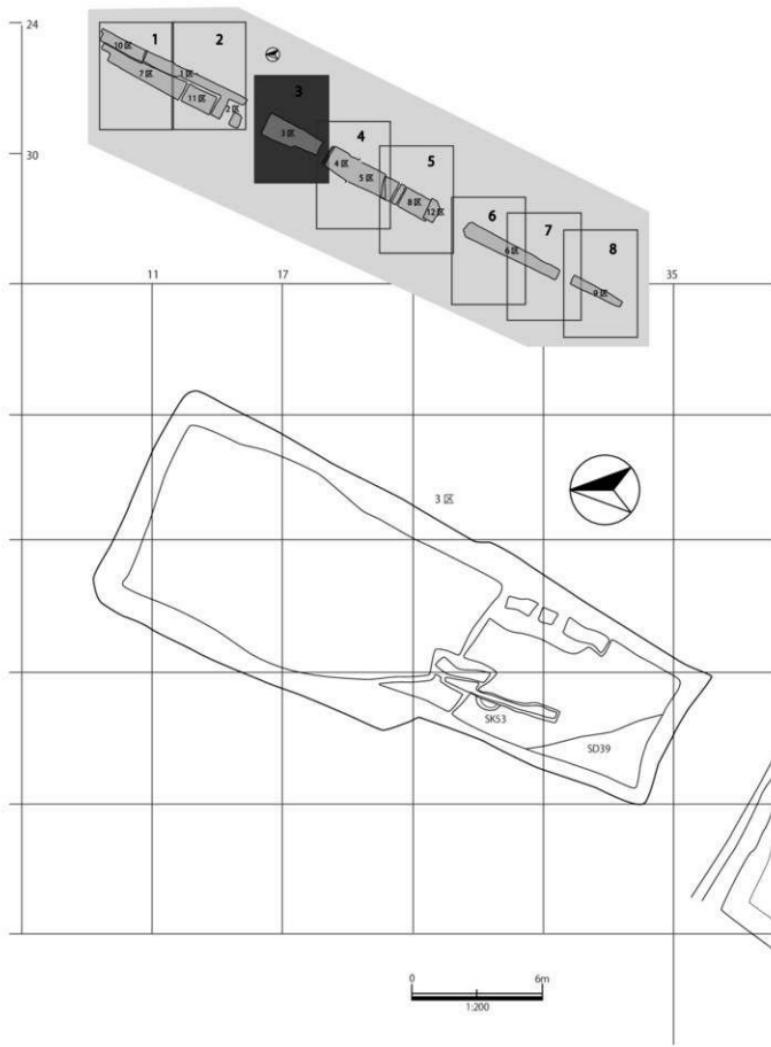


第6図 遺構配置図1

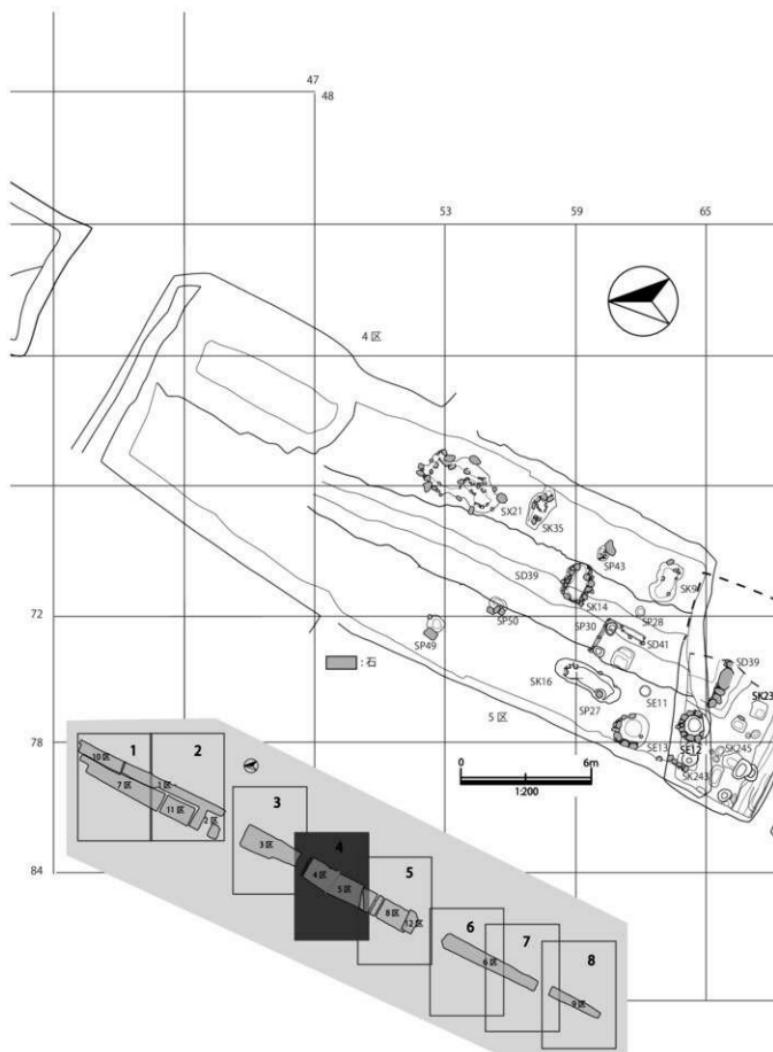


第7図 遺構配図2

III 調査の成果

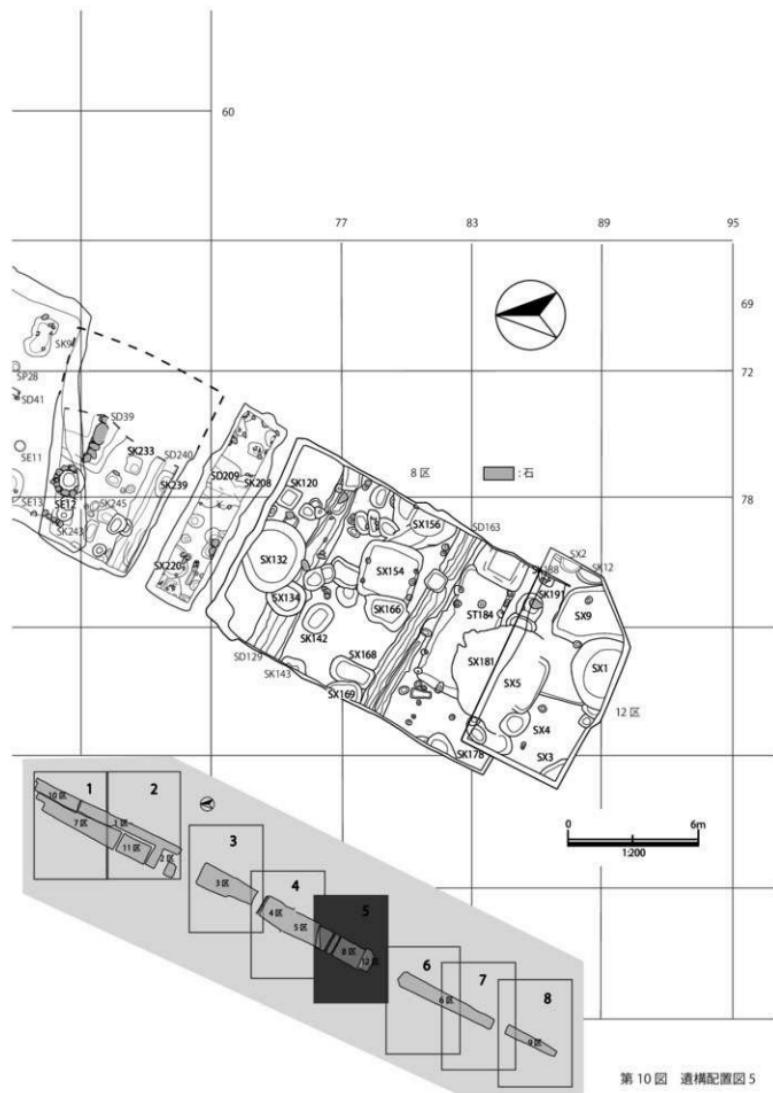


第8図 遺構配置図3

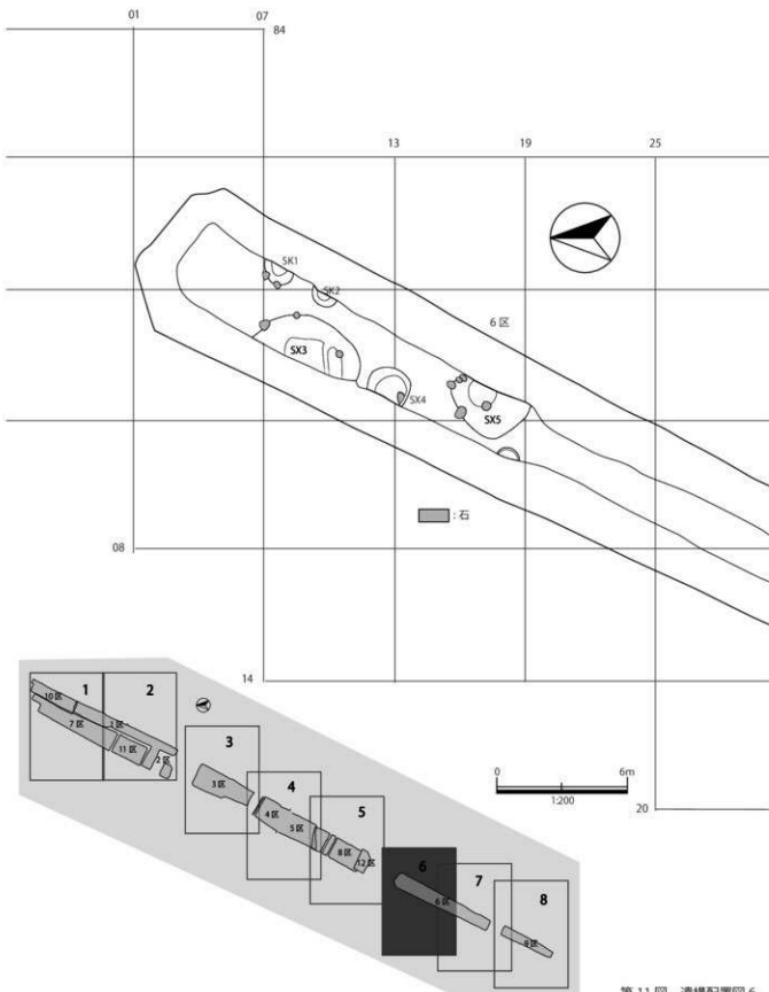


第9図 遺構配置図 4

III 調査の成果

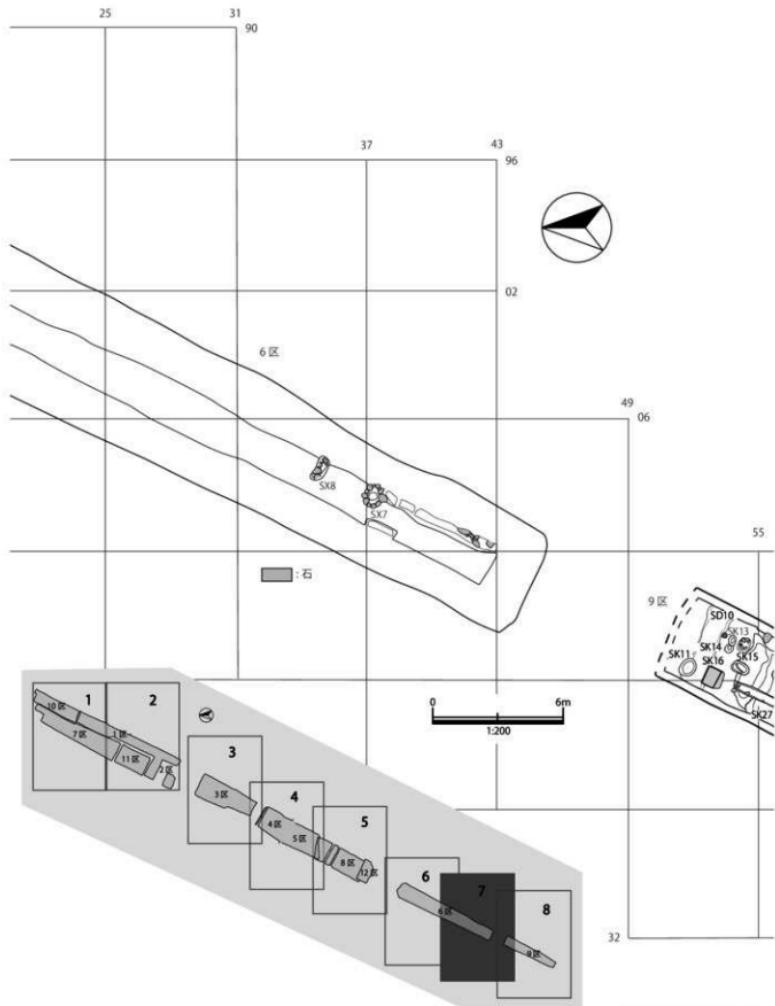


第10図 遺構配置図5

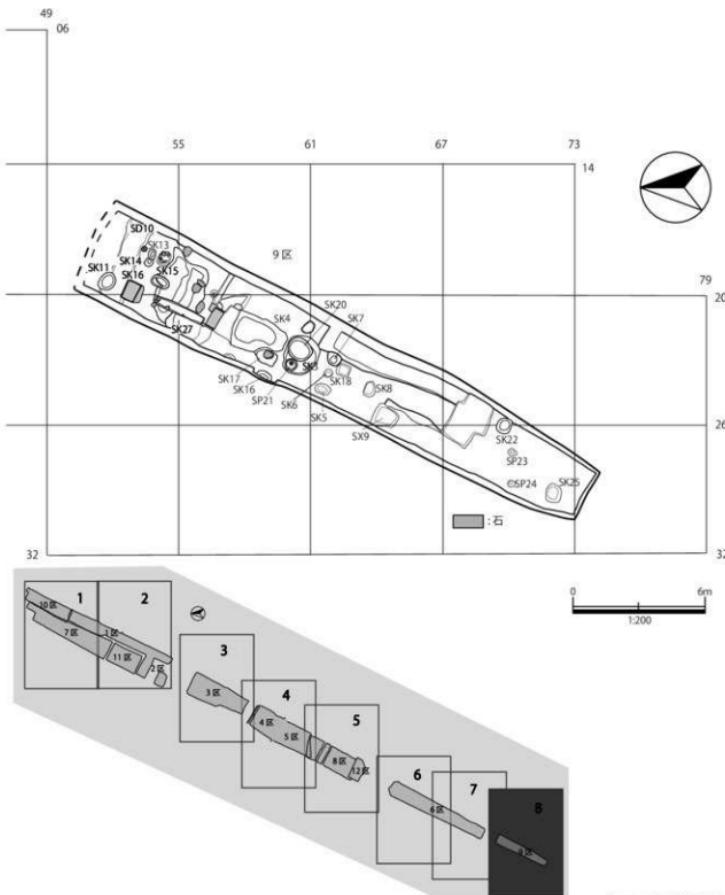


第11図 遺構配置図6

III 調査の成果



第12図 遺構配置図7

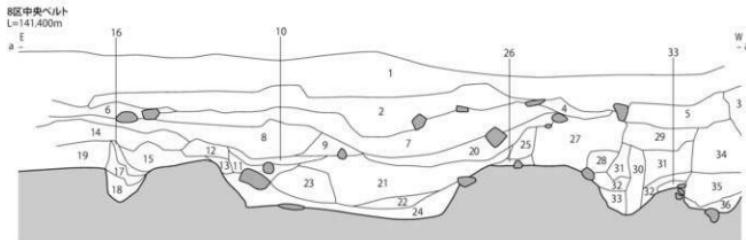


第13図 遺構配置図 8

### III 調査の成果



第14図 1区基本層序(西壁)・5区基本層序(西壁)



## 8区中央ベルト

1. 10YR4/3 砂質シルト 現在の地盤層。磚・現代物を多く含む。  
 2. 10YR4/2 砂質シルト 近代の盛土。炭化物と礫を多く含む。近代炭  
 膜片を含む。  
 3. 10YR4/2 微砂質シルト 近代の土壤。やや粘性がある。径 30 ~  
 60cm 程の礫を含む。  
 4. 10YR3/2 シルト 非常にしまっている。炭化物を多く含む。  
 5. 10YR3/2 シルト 非常にしまっている。炭化物と礫を含む。  
 6. 10YR4/4 砂質シルト 非常にしまっている。炭化物と他土を含む。  
 7. 10YR3/2 砂質シルト 非常にしまっている。炭化物を含む。黄褐色  
 粘性シルトブロックを 3% 含む。瓦片を含む。  
 8. 10YR3/2 シルト 非常にしまっている。炭化物。礫を含む。  
 9. 10YR4/1 砂質シルト 非常にしまっている。炭化物と焼上片をわ  
 かに含む。径 5 ~ 10cm 程の礫を多く含む。  
 10. 10YR4/2 微砂質シルト 非常にしまっている。湖褐色地山砂を斑状  
 に 40% 含む。  
 11. 10YR4/3 シルト 非常にしまっている。径 5cm 程の礫を多く含む。  
 12. 10YR4/2 シルト 非常にしまっている。炭化物を微量に含む。  
 13. 10YR4/4 シルト 非常にしまっている。炭化物をわずかに含む。黃  
 褐色地山砂を斑状に含む。  
 14. 10YR3/2 砂質シルト 非常にしまっている。炭化物をわずかに含  
 む。黄褐色地山砂を斑状に 5% 含む。近代の盛土。  
 15. 10YR4/2 シルト 非常にしまっている。炭化物と焼上片を  
 片を多く含む。黄褐色地山砂を斑状に 8% 含む。  
 16. 2.5Y5/4 シルト 砂質 細かいしまっている。炭化物をごく微量に含  
 む。地山砂に 17 層上を斑状に 5% 含む。  
 17. 10YR4/2 シルト 非常にしまっている。炭化物を含む。  
 18. 10YR4/3 シルト しまっている。炭化物を含む。径 5 ~ 15cm 程の  
 磕を多量に含む。

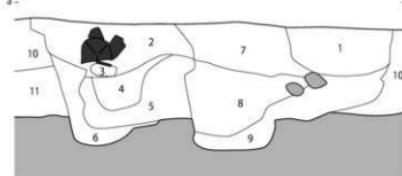
19. 10YR4/2 シルト しまっている。炭化物を少量含む。近世の地表面。  
 20. 10YR3/2 砂質シルト しまっている。炭化物を多く含む。  
 21. 10YR4/2 砂質シルト しまっている。炭化物を含む。径 3cm 程の  
 磕を含む。  
 22. 10YR3/2 砂質シルト 非常にしまっている。炭化物を多く含む。  
 23. 10YR3/2 砂質シルト しまっている。粗粒、径 5cm 程の礫を含む。  
 24. 10YR3/4 砂質シルト 径 10cm 程の礫を多量に含む。23 層と地山の遷移層。  
 25. 2.5Y4/2 砂 船山  
 26. 2.5Y6/6 砂質シルト 炭化物を含む。地山砂を斑状に 15% 含む。  
 27. 10YR4/3 砂質シルト 非常にしまっている。炭化物をわずかに含む。  
 28. 2.5Y5/6 砂質シルト 炭化物を含む。地山砂を斑状に 10% 含む。  
 29. 10YR3/2 砂質シルト 炭化物を含む。地山砂を斑状に 15% 含む。  
 30. 10YR3/3 砂質シルト 炭化物を含む。地山砂小ブロックを 1% 含む。  
 31. 10YR3/3 砂質シルト 炭化物、礫土を微量含む。地山砂ブロックを 10% 含む。  
 32. 10YR4/4 砂質シルト分をわずかに含む。地山砂ブロックを 5% 含む。  
 33. 10YR4/4 砂質シルト 炭化物をわずかに含む。径 3cm 程の礫を多  
 く含む。  
 34. 10YR4/4 砂質シルト しまっている。炭化物、鉄滓、腐羽口汁を  
 含む。径 3 ~ 5cm 程の礫を含む。  
 35. 2.5Y4/2 砂質シルト 炭化物、焼土を含む。地山砂を斑状に 1% 含む。  
 36. 10YR4/3 砂質シルト 炭化物をわずかに含む。径 5cm 程の礫を含む。

0 1m  
1:40

## 7区中央東壁BG

L=141,300m

a - N



S' a'

■: 石

■: 透物

0 1m  
1:40

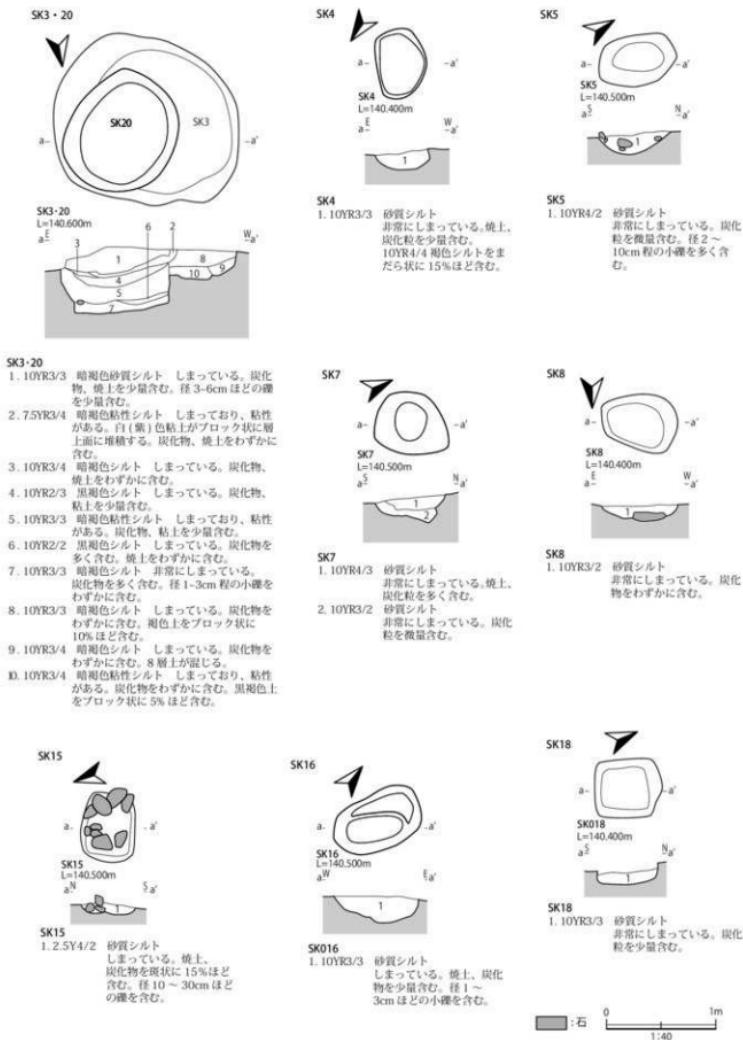
## 7区中央東壁

1. 2.5Y3/1 砂質シルト しまっている。ガラス。釘を含む。  
 2. 10YR3/1 砂質シルト 現代の麻痺斑。  
 3. 10YR3/1 砂質シルト しまっている。炭化物。福器を含む。  
 3. 2.5Y4/6 粘質シルト 粘性有り。ややしまっている。白色有機物  
 を含む。  
 4. 10YR3/2 砂質シルト しまっている。炭化物を含む。黄褐色粘性  
 シルトを層状に含む。  
 5. 10YR3/2 砂質シルト しまっている。炭化物を多く含む。径 3 ~  
 15cm 程の礫を多く含む。礫を据えるための礫。

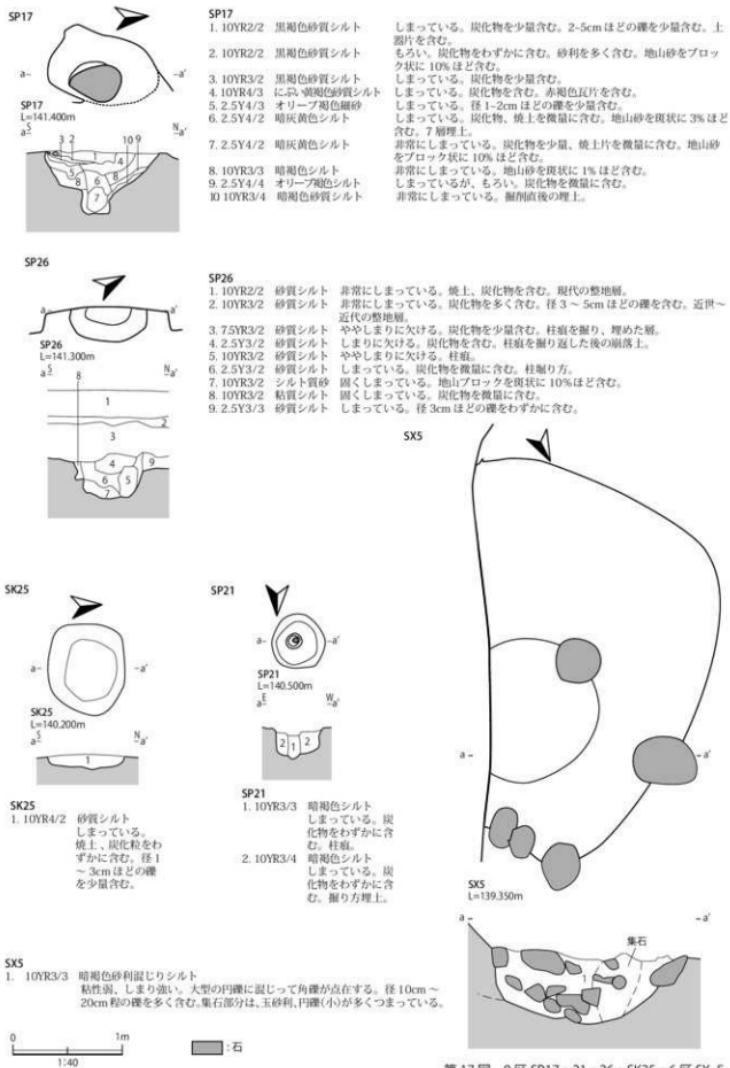
6. 10YR2/1 砂質シルト 砂分をわずかに含む。炭化物を少量含む。  
 湖褐色地山砂を斑状に 10% 含む。埋土。  
 7. 10YR3/2 砂質シルト しまっている。炭化物を多く含む。径 3 ~  
 10cm 程の礫を多く含む。燒上ブロックを 1%ほど含む。  
 8. 5Y3/2 砂質シルト 粘性有り。炭化物をわずかに含む。径 3 ~  
 5cm 程の礫を極わずかに含む。  
 9. 2.5Y3/2 砂質シルト しまっている。炭化物を含む。層削面に径 3 ~  
 10cm 程の礫を含む。

第 15 図 8区中央ベルト基本層序・7区中央東壁基本層序

### III 調査の結果

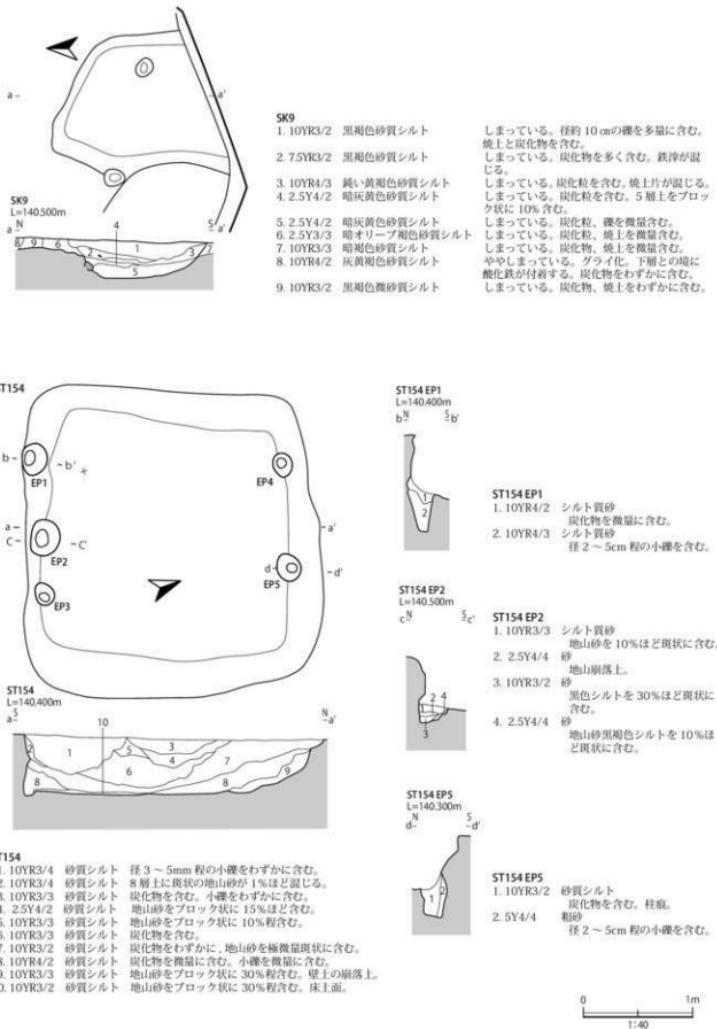


第 16 図 9 区 SK3・4・5・7・8・15・16・18・20

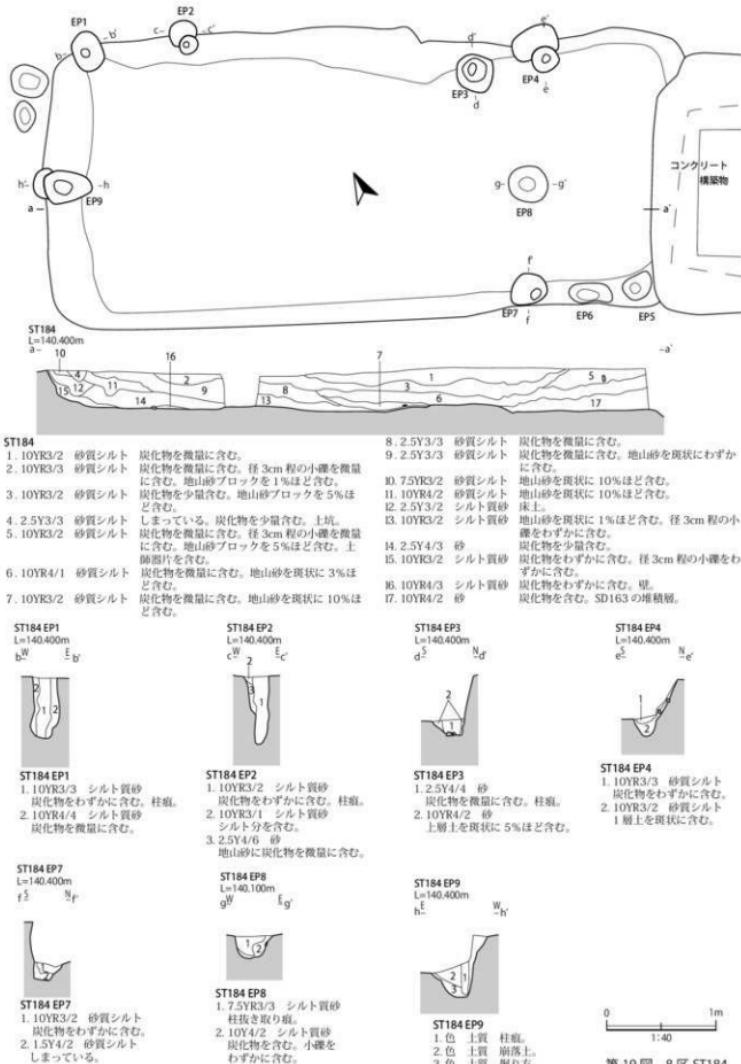


第17図 9区 SP17・21・26・SK25・6区 SX 5

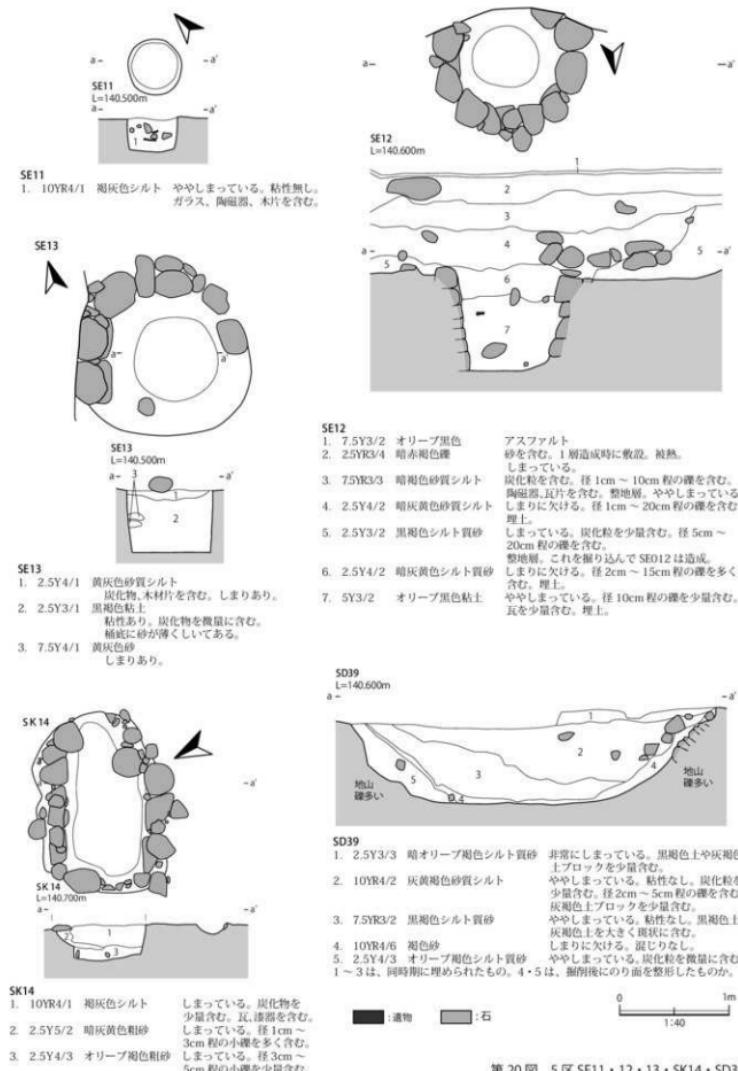
### III 調査の結果



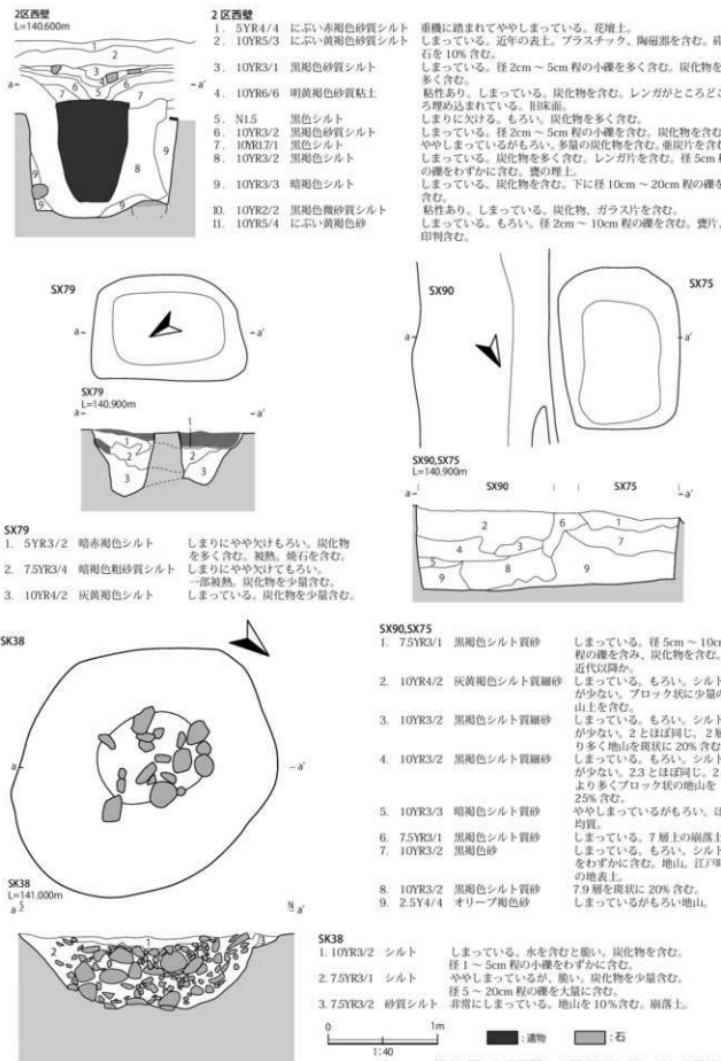
第18図 12区 SK9・8区 ST154



### III 調査の結果

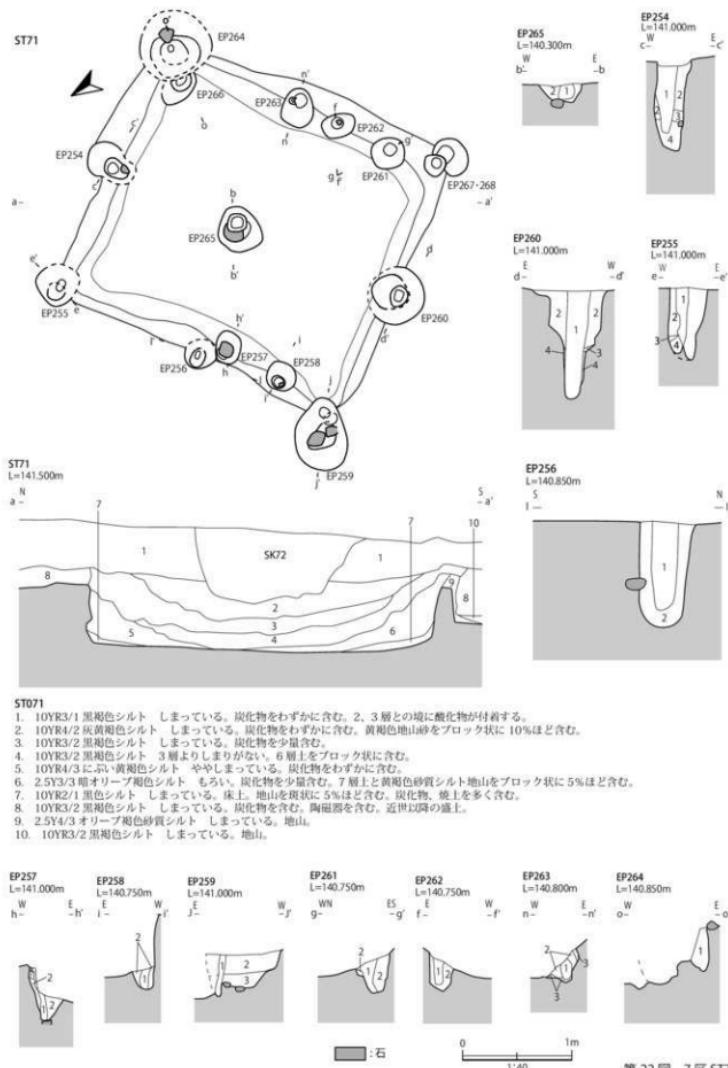


第20図 5区 SE11・12・13・SK14・SD39



第21図 2区西壁・1区 SX75・79・90・70・SK38

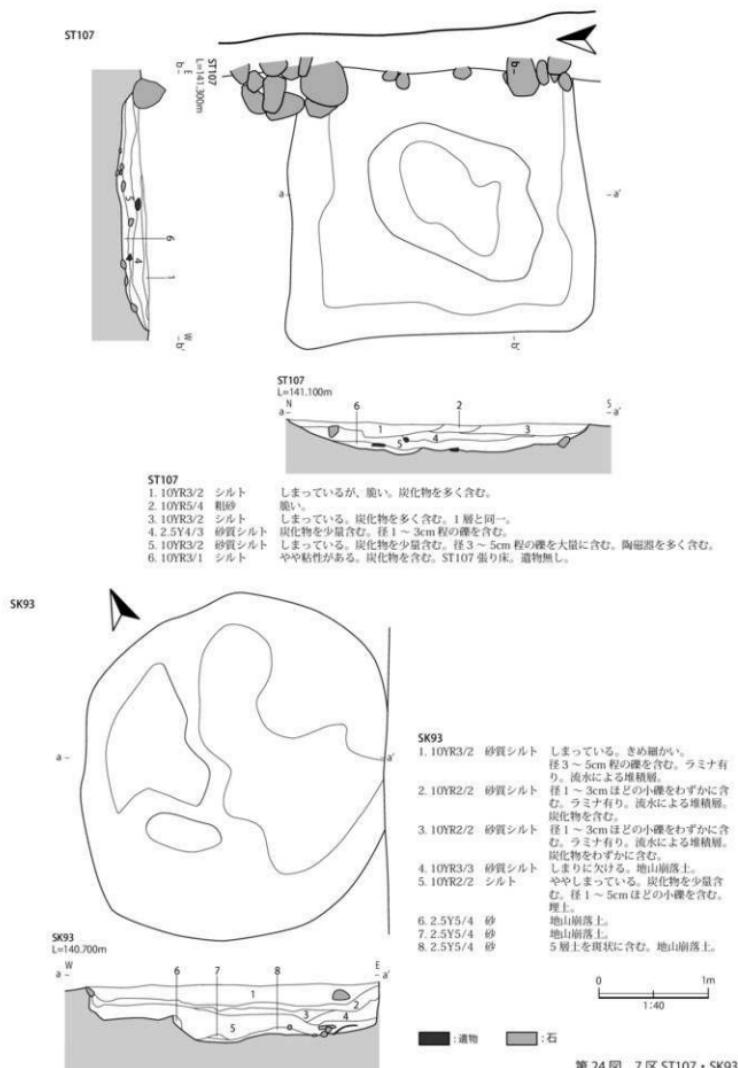
### III 調査の結果



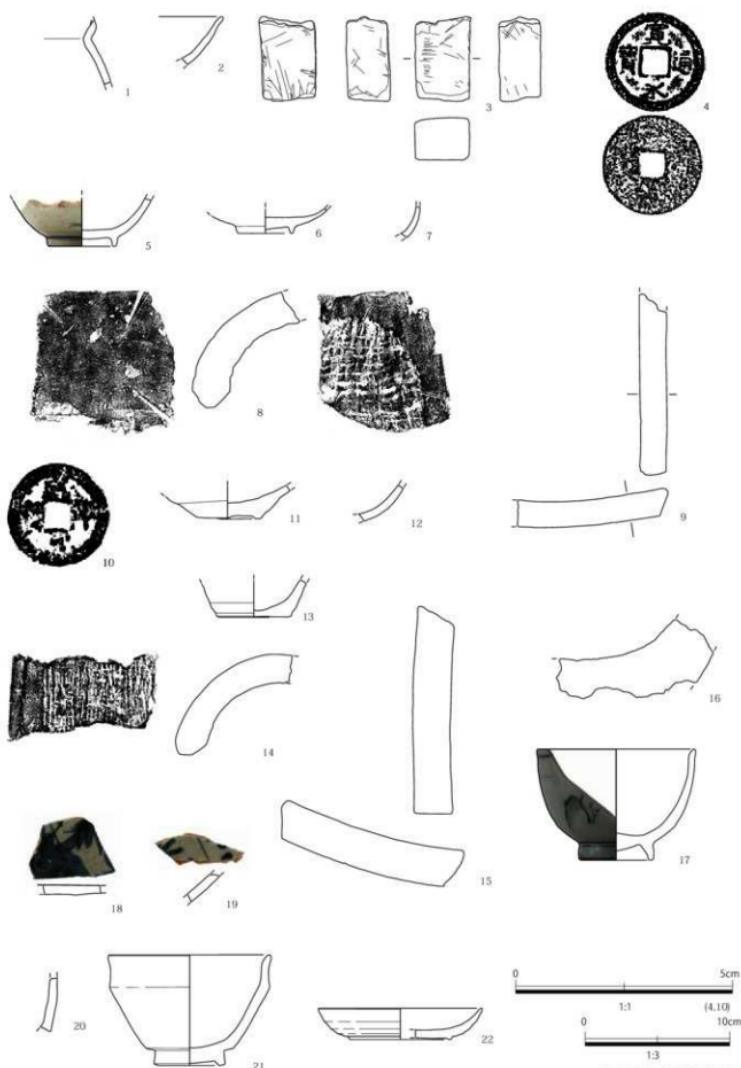
<b>EP265</b>	1. 10YR3/2 黒褐色砂 2. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂	もろい。2層上を斑状に10%ほど含む。柱痕。 もろい。黄褐色地山砂をブロック状に15%ほど含む。振り方。
<b>EP254</b>	1. 10YR3/2 黒褐色シルト質砂 2. 10YR3/2 黑褐色シルト質砂 3. 2.5Y5/6 黄褐色砂 4. 10YR3/3 黑褐色シルト質砂	もろい。炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に3%ほど含む。柱痕。 もろい。炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に1%ほど含む。振り方。 もろい。黄褐色地山砂ブロック層。崩落上。 もろい。炭化物をわずかに含む。黄褐色地山砂をブロック状に40%ほど含む。
<b>EP255</b>	1. 10YR2/2 黑褐色シルト質砂 2. 10YR3/2 黑褐色シルト質砂 3. 10YR3/1 黑褐色質質シルト 4. 2.5YR4/3 オリーブ褐色砂	しまりにやや欠ける。炭化物を微量に含む。柱痕。 もろい。炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に1%ほど含む。 もろい。崩落上。 3層上を斑状に20%ほど含む。振り方。EP255
<b>EP256</b>	1. 10YR3/3 黑褐色シルト質砂 2. 10YR3/2 黑褐色シルト質砂	炭化物を含む。黄褐色地山砂を斑状に10%ほど含む。 炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に60%ほど含む。
<b>EP257</b>	1. 10YR3/3 黑褐色シルト質砂 2. 10YR3/2 黑褐色シルト質砂	もろい。炭化物を微量に含む。柱痕。 もろい。炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に60%ほど含む。振り方。
<b>EP258</b>	1. 10YR3/2 黑褐色質質シルト 2.	しまりに欠ける。径1-3cmほどの小礫を少量含む。黄褐色地山砂を斑状に5%ほど含む。柱痕。 漏り方に地山の区別でです。
<b>EP259</b>	1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質砂 2. 10YR3/3 黑褐色シルト質砂 3. 地山と振り方との区別がつかず。	もろい。径2~5cmほどの小礫を微量に含む。黄褐色地山砂を斑状に15%ほど含む。 もろい。径2~5cmほどの小礫を微量に含む。黄褐色地山砂を斑状に5%ほど含む。
<b>EP260</b>	1. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト質砂 2. 10YR3/3 黑褐色質質シルト 3. 2.5Y5/4 黄褐色砂 4. 2.5YR4/2 灰オリーブ色シルト質砂	炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂を斑状に30%ほど含む。柱痕。 しまりに欠ける。炭化物を微量に含む。 もろい。黄褐色地山砂ブロック層。 もろい。黄褐色地山砂を斑状に50%ほど含む。
<b>EP261</b>	1. 10YR2/2 黑褐色シルト質砂 2. 10YR5/6 黄褐色砂	しまりに欠ける。もろい。黄褐色地山砂をブロック状に20%ほど含む。柱痕。 もろい。黄褐色地山砂に暗褐色土をブロック状に5%ほど含む。振り方。
<b>EP262</b>	1. 10YR4/3 にふい黄褐色シルト質砂 2. 10YR4/3 にふい黄褐色シルト質砂	しまりに欠ける。柱痕。径3cmほどの礫を含む。 しまりに欠ける。黄褐色地山砂に暗褐色土を斑状に40%ほど含む。
<b>EP263</b>	1. 10YR3/1 黑褐色砂質シルト 2. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 3. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト	もろい。柱痕。崩落上。黄褐色地山砂を斑状に10%ほど含む。 もろい。振り方。黄褐色地山砂を斑状に25%ほど含む。 床上。黄褐色地山砂を斑状に25%ほど含む。
<b>EP264</b>	1. 10YR2/3 砂質シルト	黄褐色砂小ブロックをまばらに含む。
SK39		<b>SX101</b> 
SK39 L=141.200m		<b>SX101</b> L=40.800m 
SK39	1. 10YR2/2 シルト質砂 しまっている。軽麻。 2. 10YR3/2 砂質シルト しまっている。炭化物を少量含む。礫はほとんど含まない。埋土。 3. 10YR2/3 シルト質砂 しまっている。炭化物を少量含む。径5~20cm程の礫を含む。地山ブロックを3%含む。埋土。 4. 7.5YR3/2 シルト しまっている。炭化物をわずかに含む。礫を多く含む。地山ワブロックを微量に含む。埋土。 5. 10YR3/2 シルト しまっている。地山ブロックを40%含む。埋土。崩削時の崩落上。	<b>SX101</b> 1. 10YR4/3 黏性シルト しまっているが、脆い。粘性有り。炭化物を多く含む。 2. 10YR4/2 シルト ややしまっている。粘性有り。炭化物を多く含む。 3. 10YR4/2 砂 しまりに欠ける。地山砂に4層上が混じた崩落上。 4. 10YR3/2 シルト しまりに欠ける。地山砂に2層上が混じた崩落上。 5. 10YR3/3 砂質シルト ややしまっている。粘性有り。炭化物をわずかに含む。 <p>0 1m 1:40</p>

第23図 7区 ST71・SK39・SX101

### III 調査の成果



第24図 7区 ST107・SK93



第25図 遺物実測図(1)

III 調査の成果

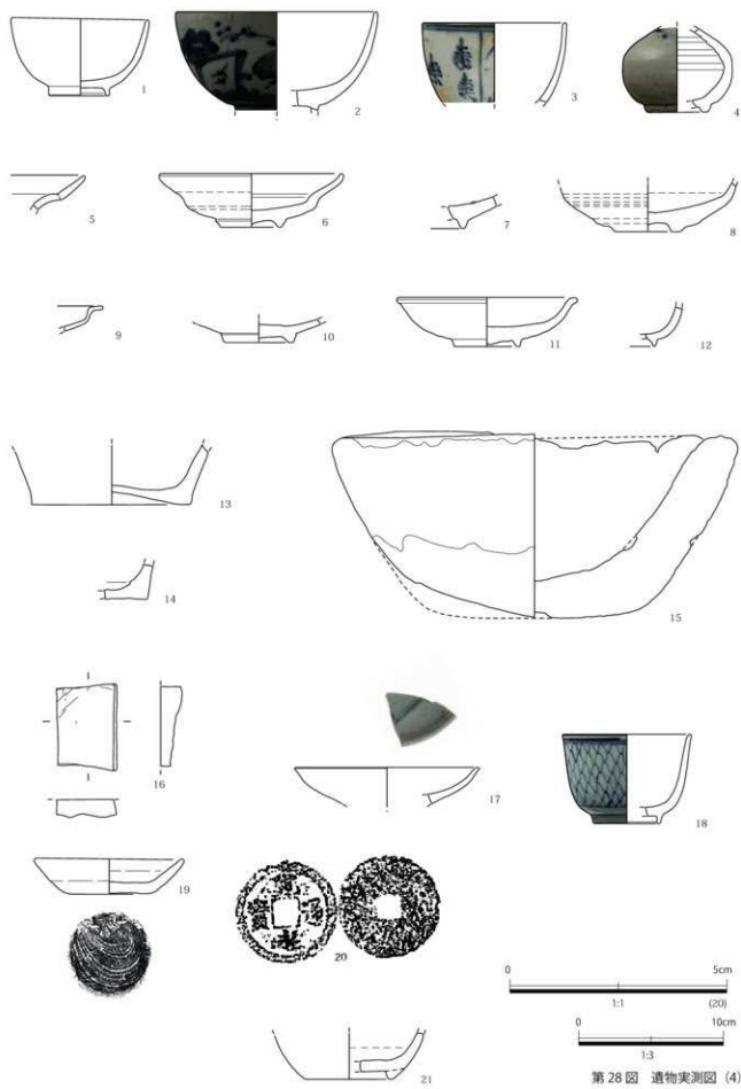


第26図 遺物実測図(2)



第27図 遺物実測図(3)

III 調査の成果

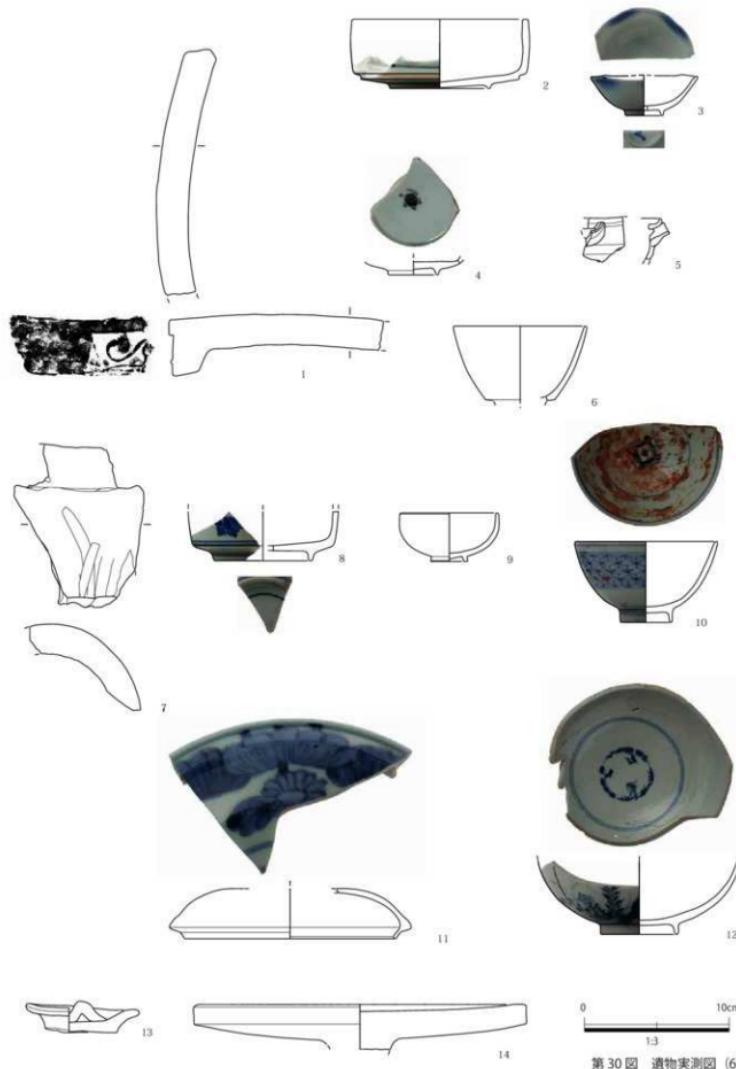


第28図 遺物実測図 (4)

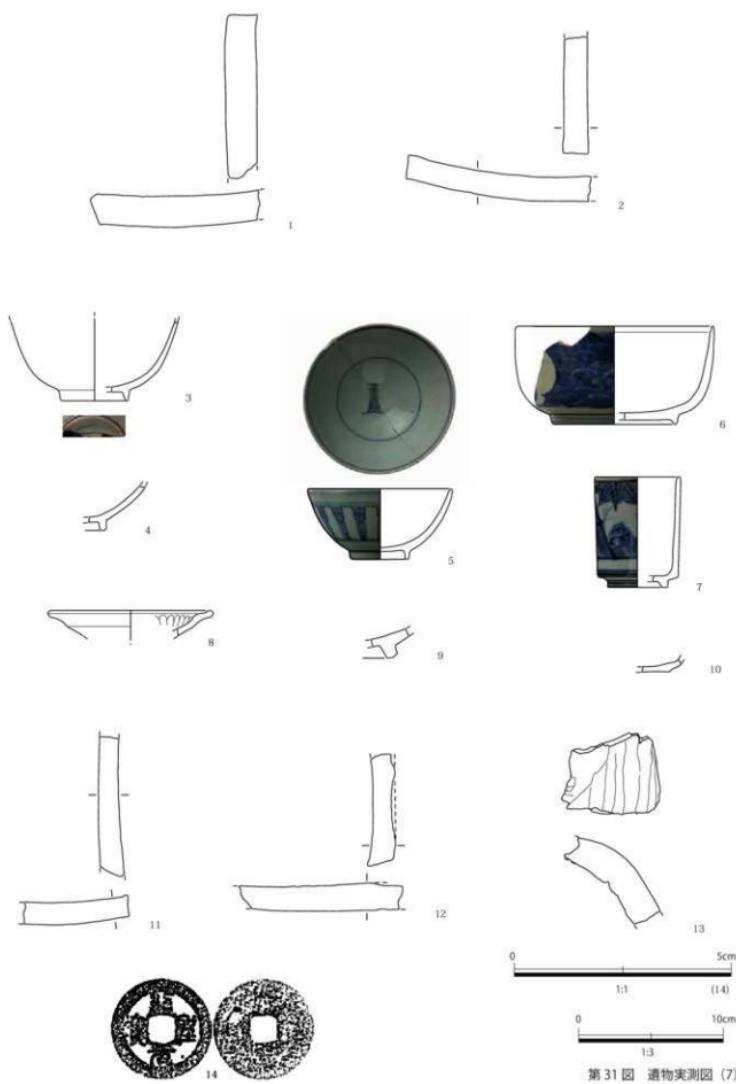


第29図 遺物実測図(5)

III 調査の成果



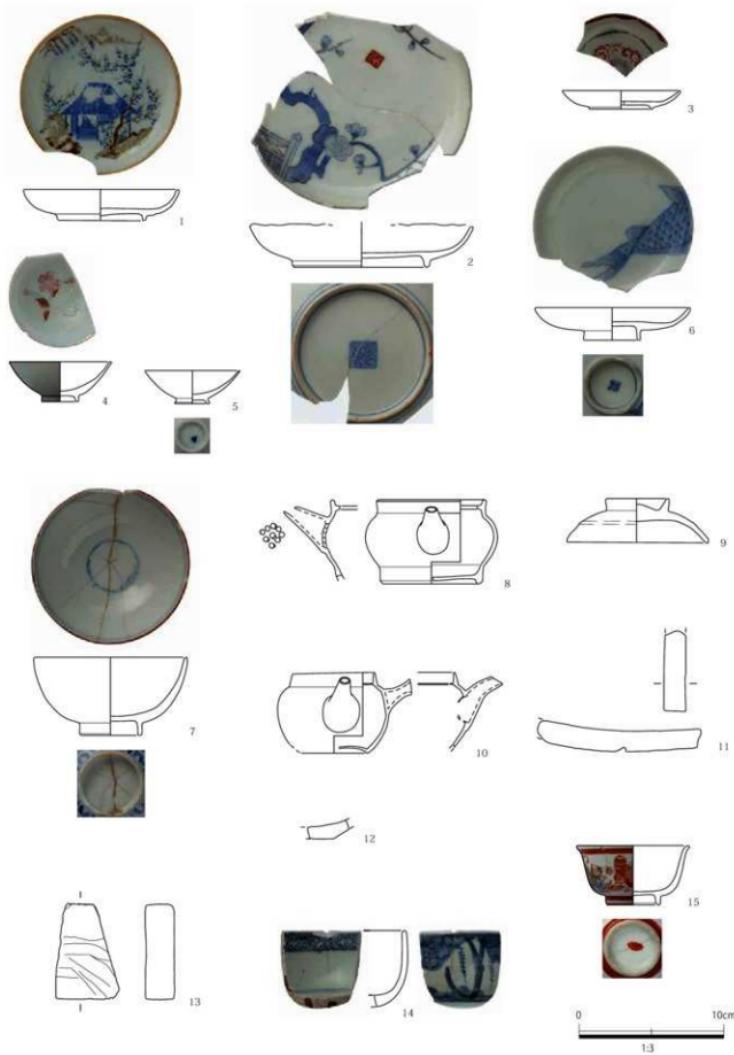
第30図 遺物実測図(6)



III 調査の成果

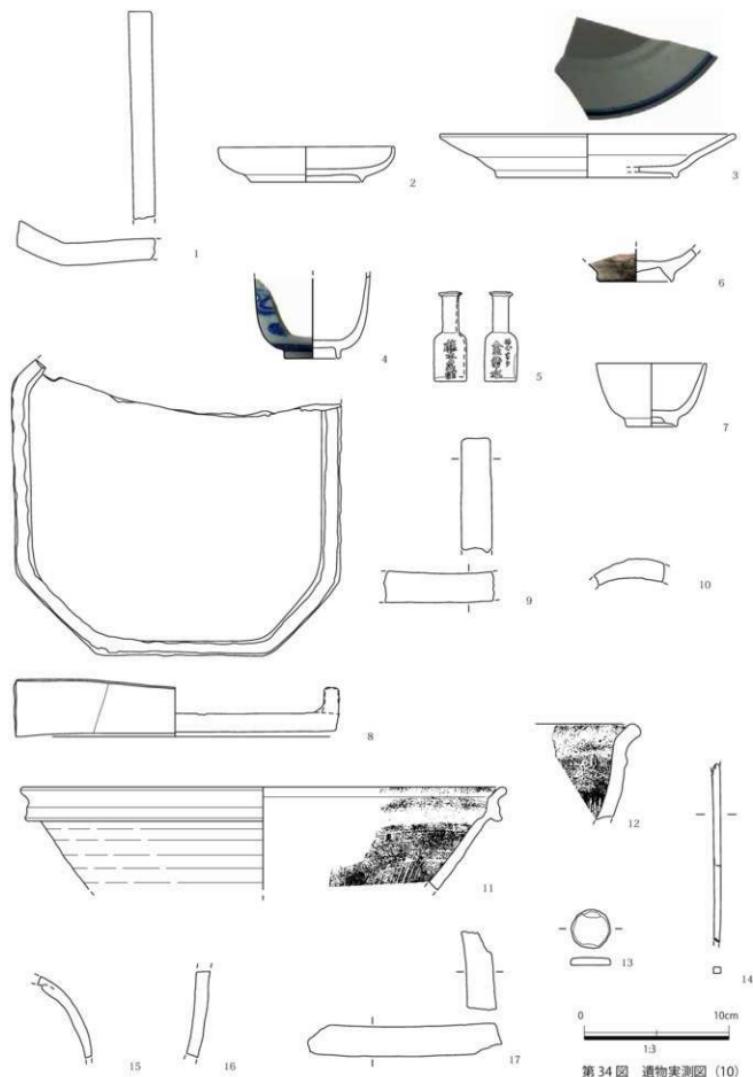


第32図 遺物実測図(8)



第33図 遺物実測図(9)

III 調査の成果

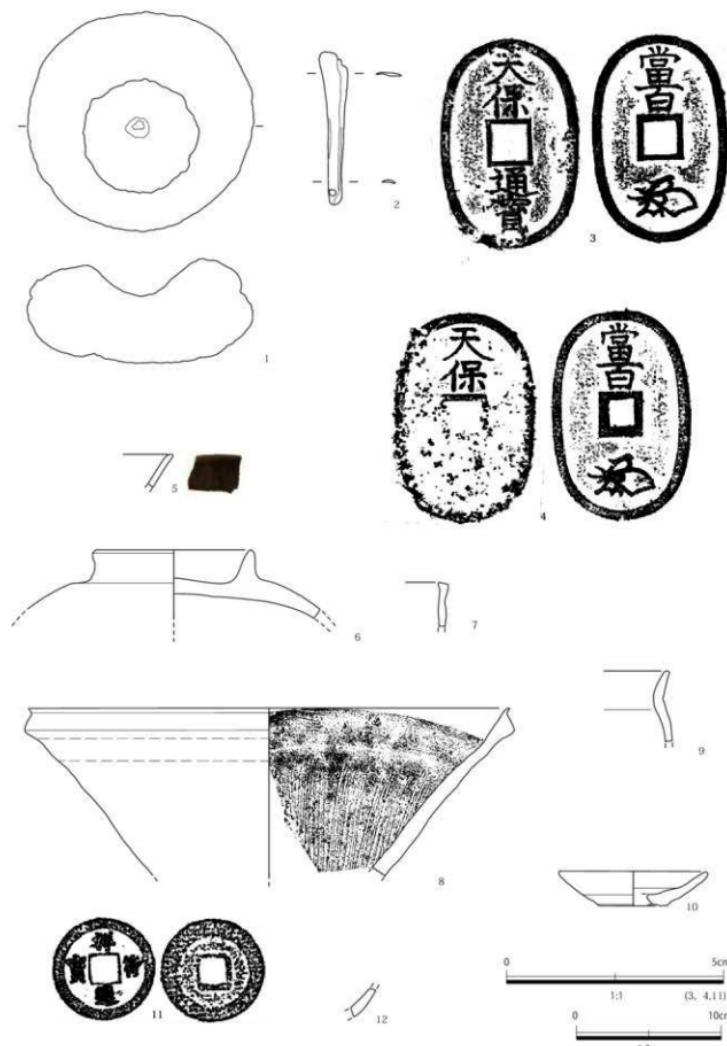


第34図 遺物実測図(10)



第35図 遺物実測図(11)

III 調査の成果

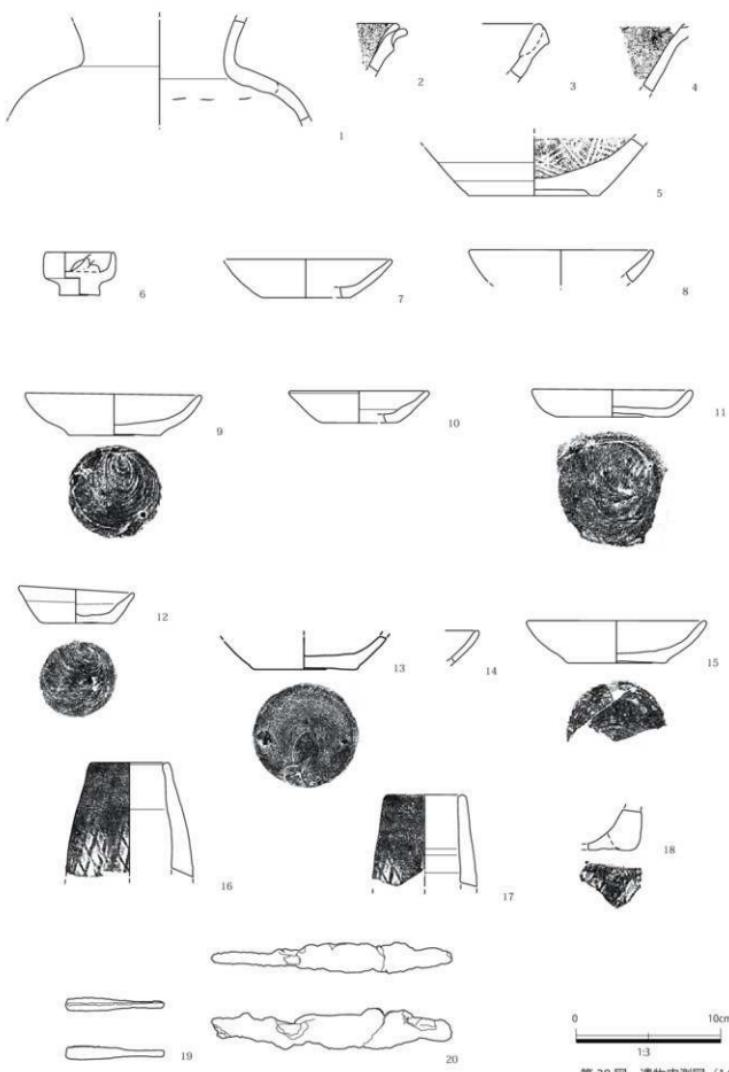


第36図 遺物実測図 (12)

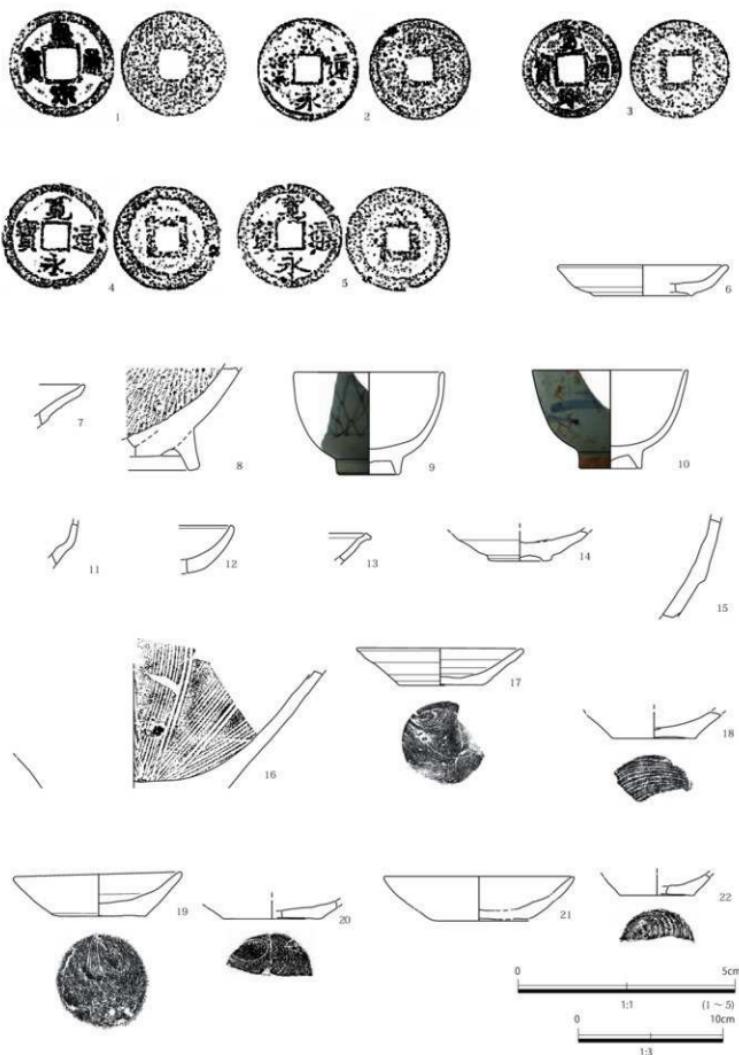


第37図 遺物実測図(13)

III 調査の成果

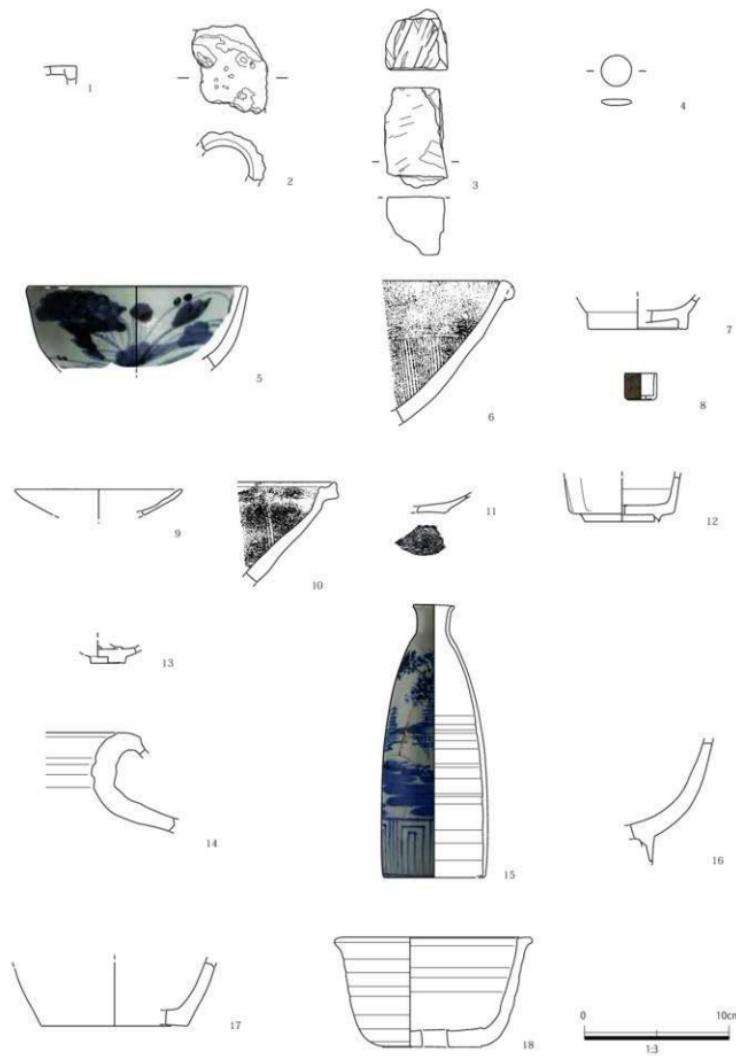


第38図 遺物実測図(14)

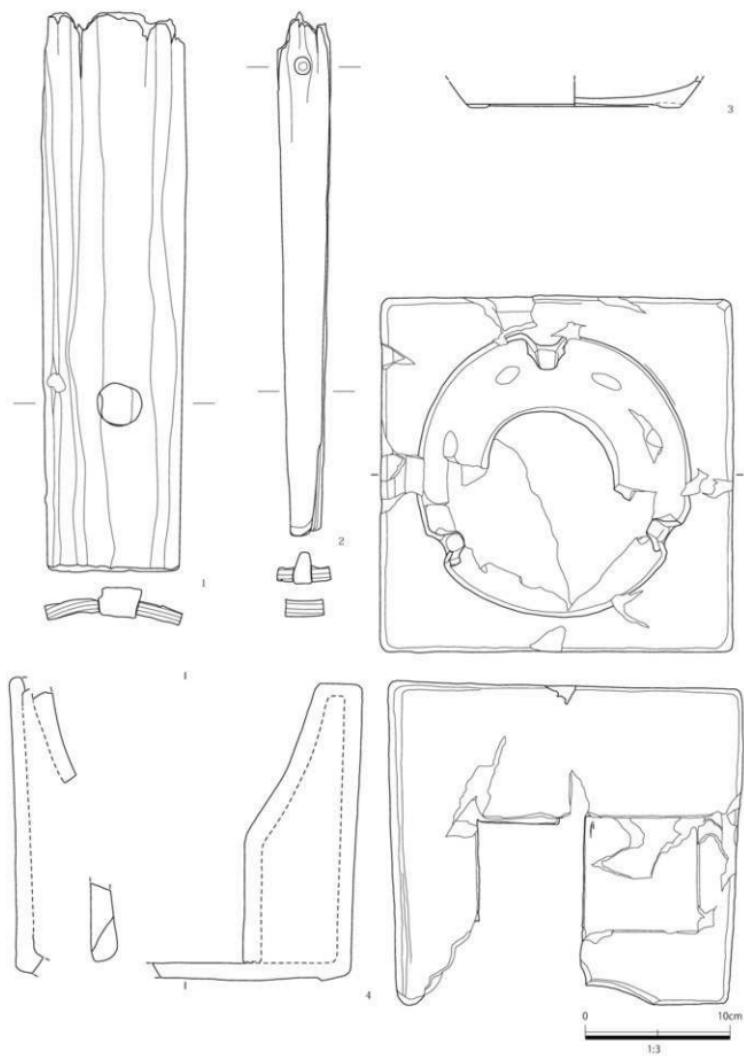


第39図 遺物実測図(15)

III 調査の成果

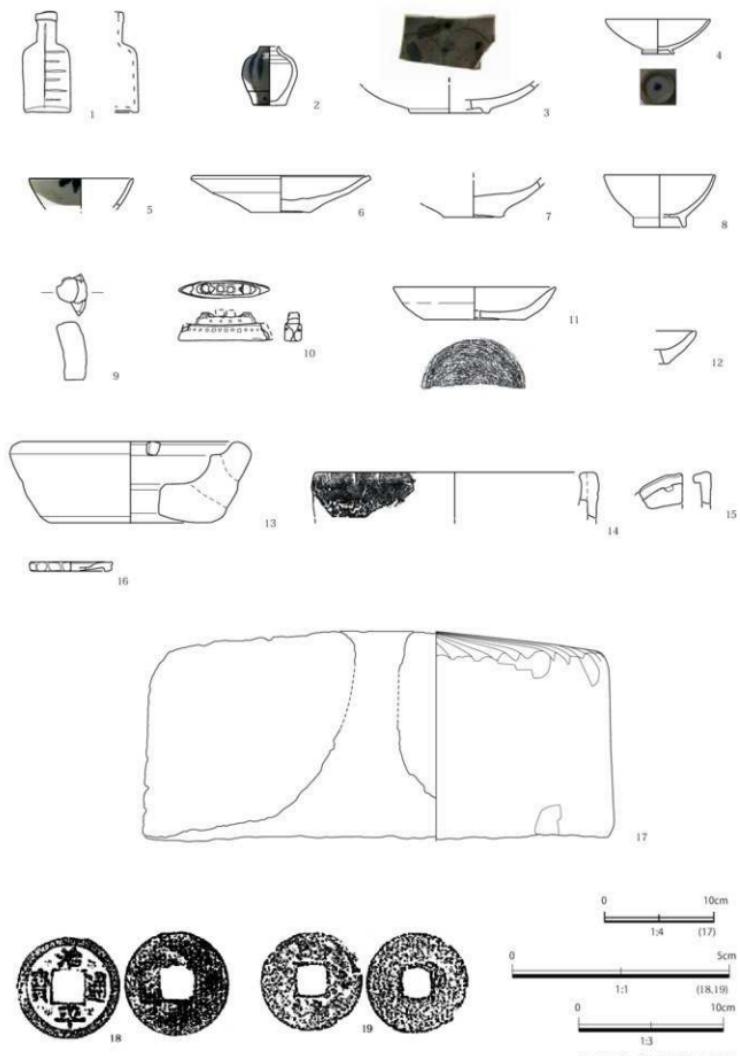


第40図 遺物実測図(16)

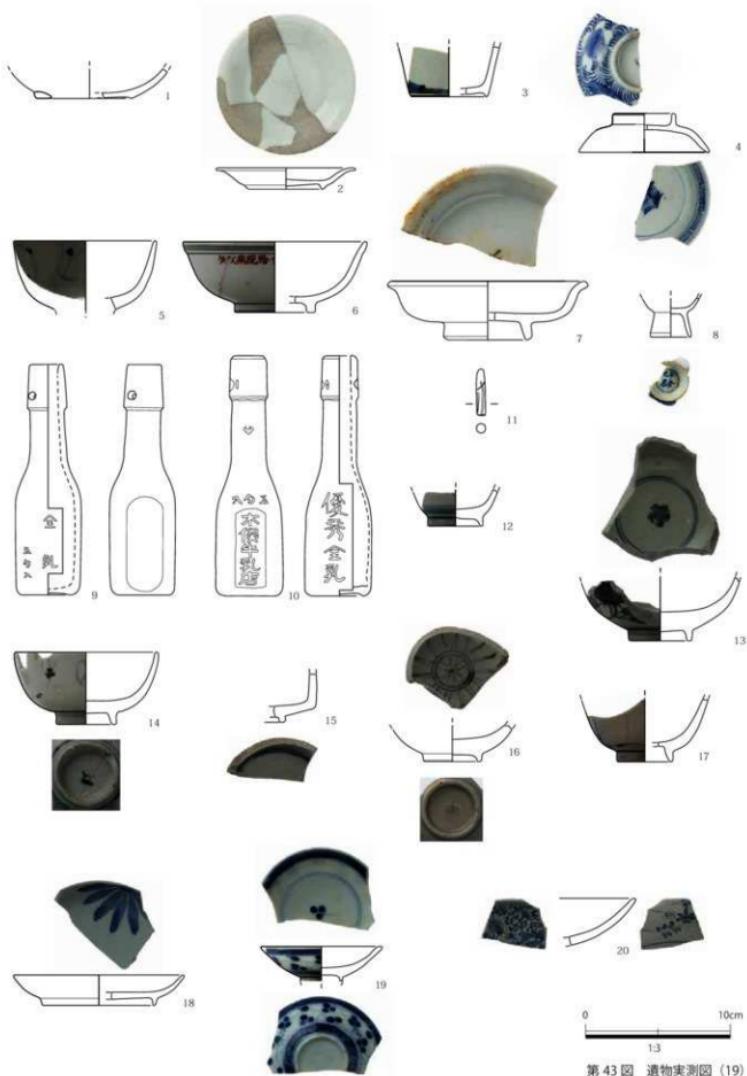


第41図 遺物実測図(17)

III 調査の成果

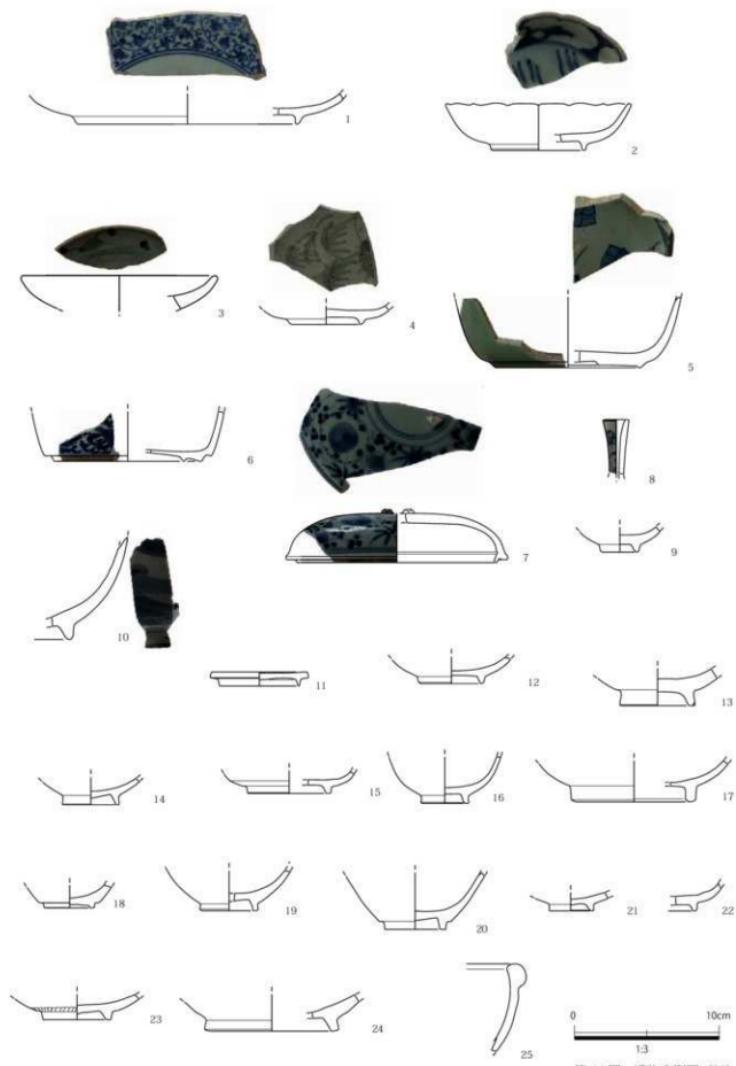


第42図 遺物実測図 (18)

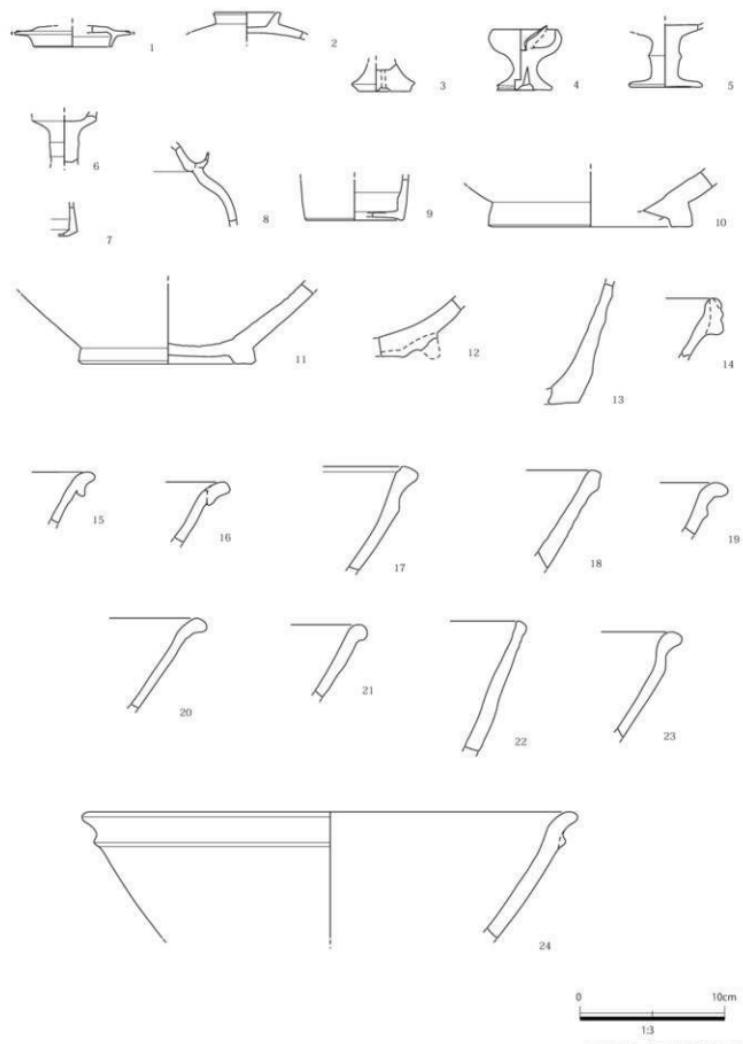


第43図 遺物実測図(19)

III 調査の成果

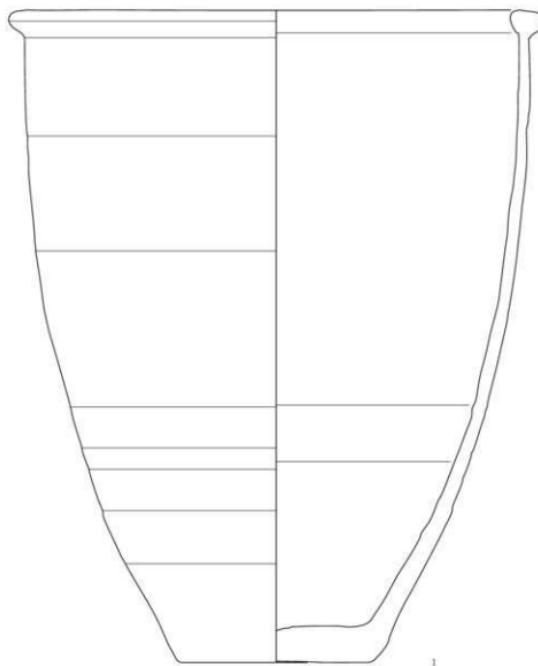


第44図 遺物実測図(20)



第45図 遺物実測図(21)

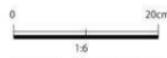
III 調査の成果



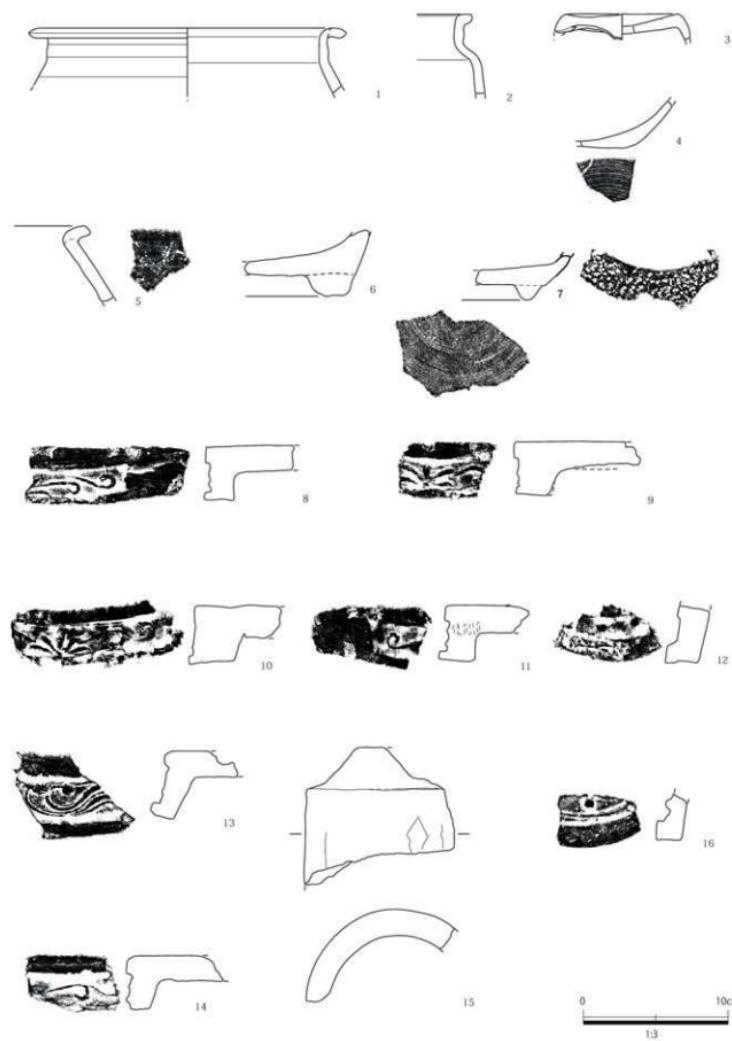
1



2

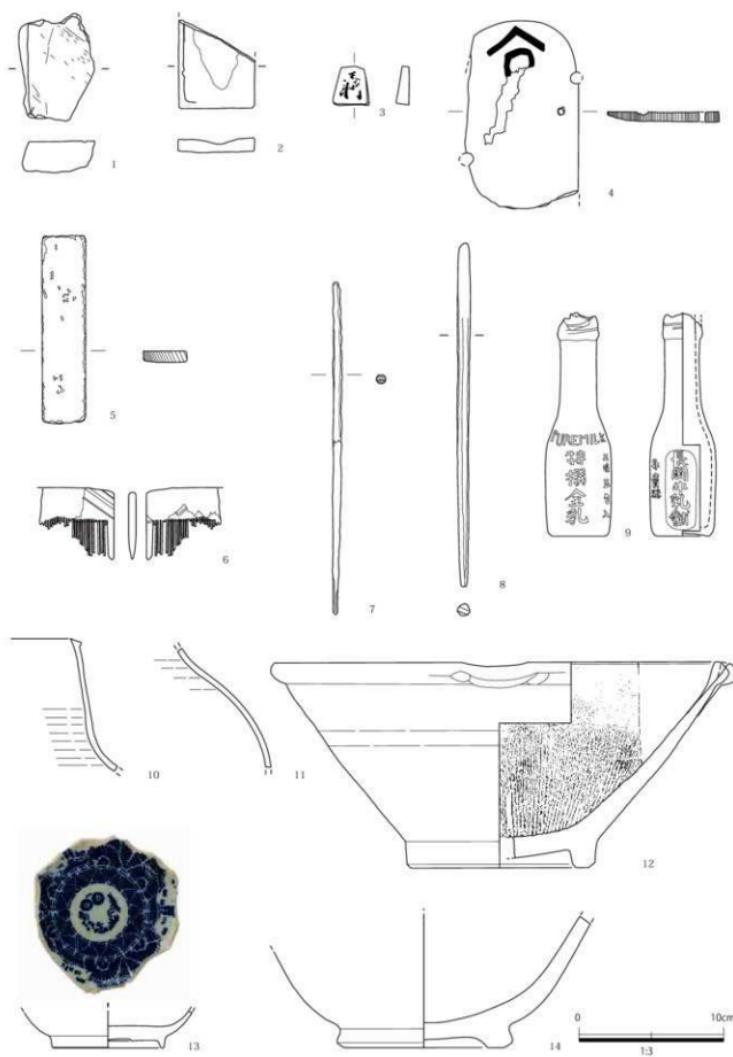


第46図 遺物実測図 (22)

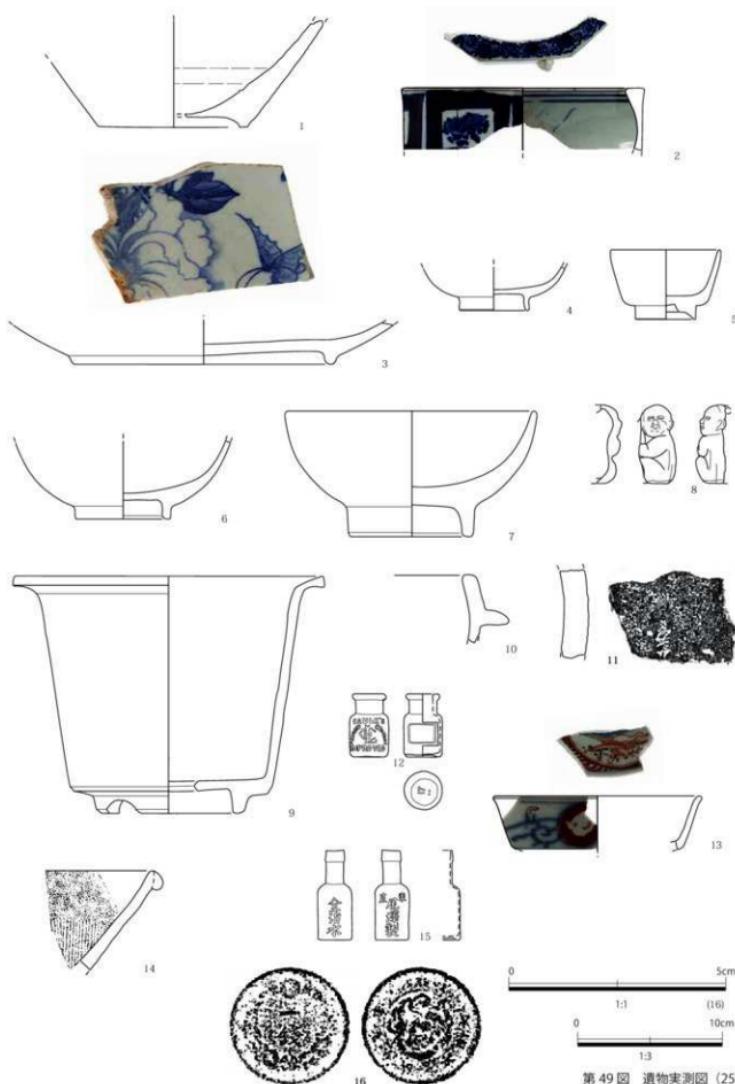


第47図 遺物実測図(23)

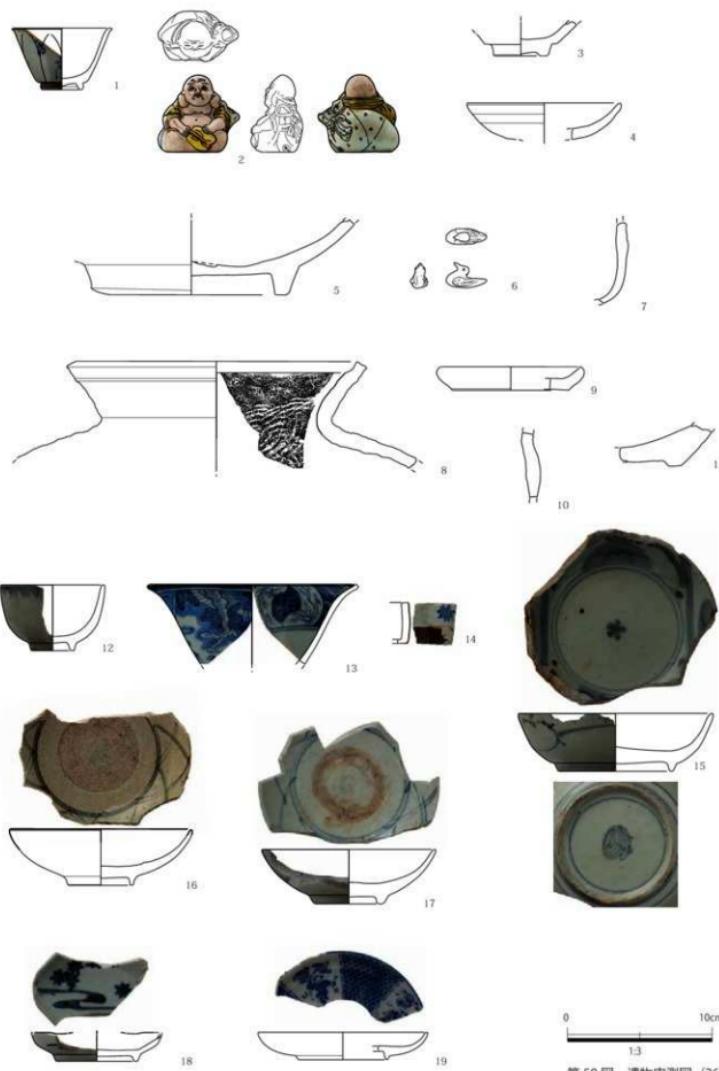
III 調査の成果



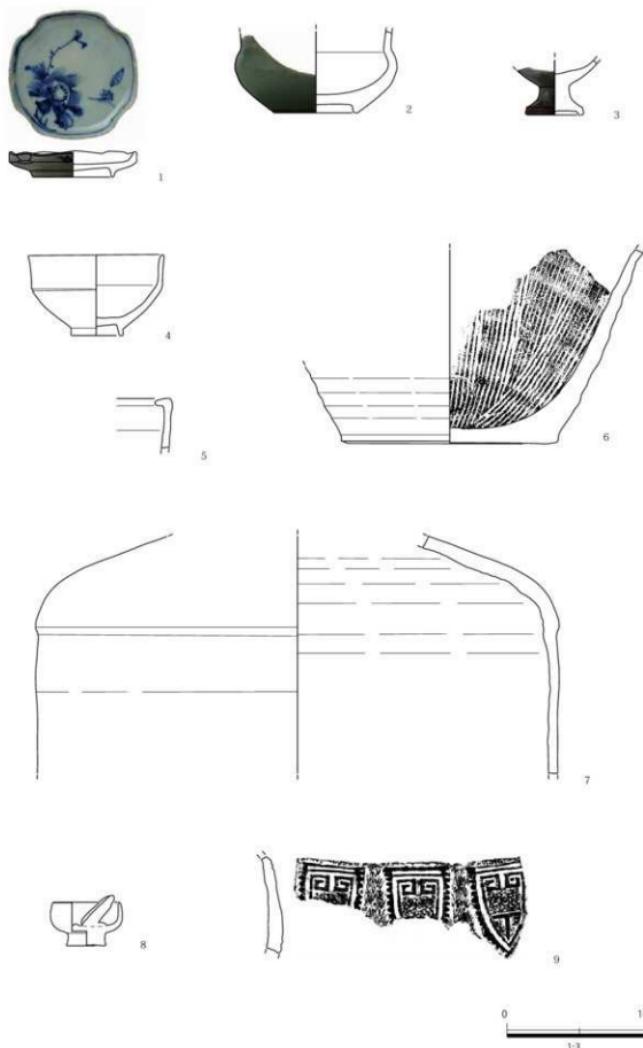
第48図 遺物実測図(24)



III 調査の成果



第50図 遺物実測図 (26)

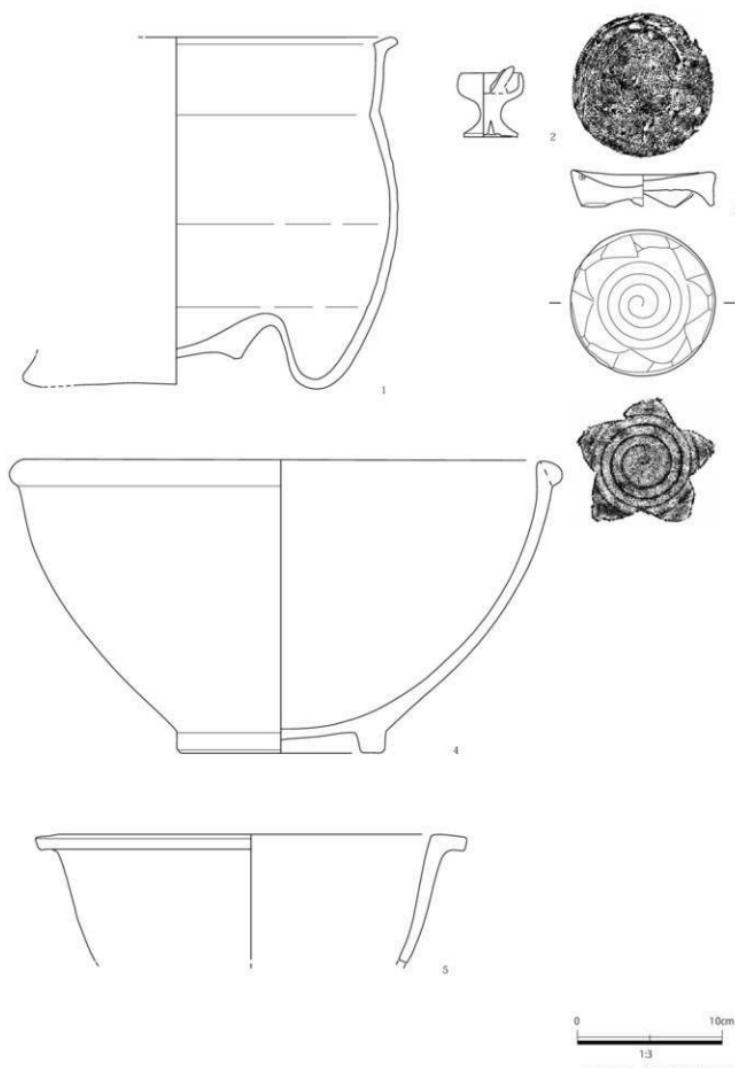


第51図 遺物実測図(27)

III 調査の成果

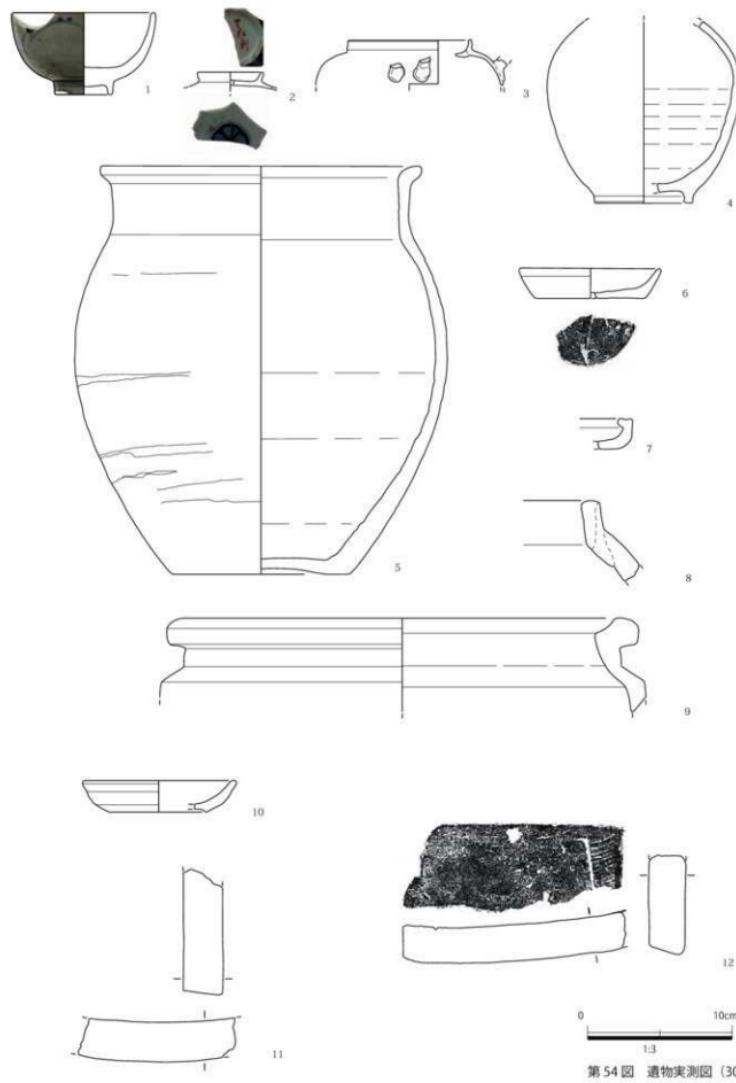


第52図 遺物実測図 (28)



第53図 遺物実測図(29)

III 調査の成果

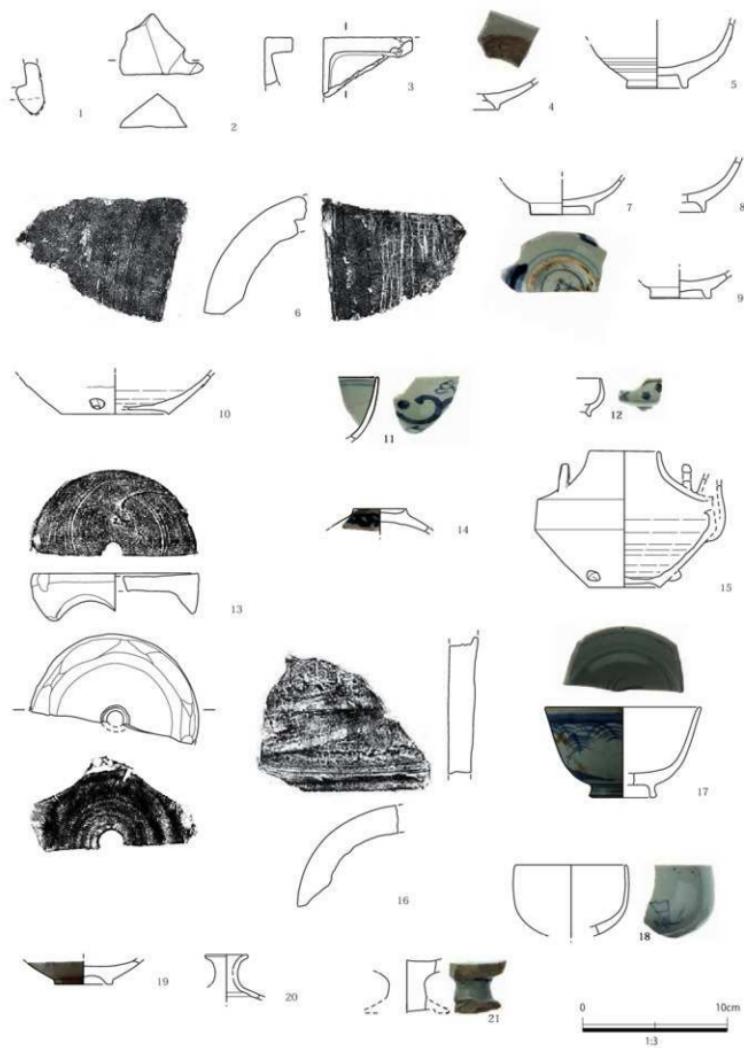


第54図 遺物実測図(30)



第55図 遺物実測図(31)

III 調査の成果

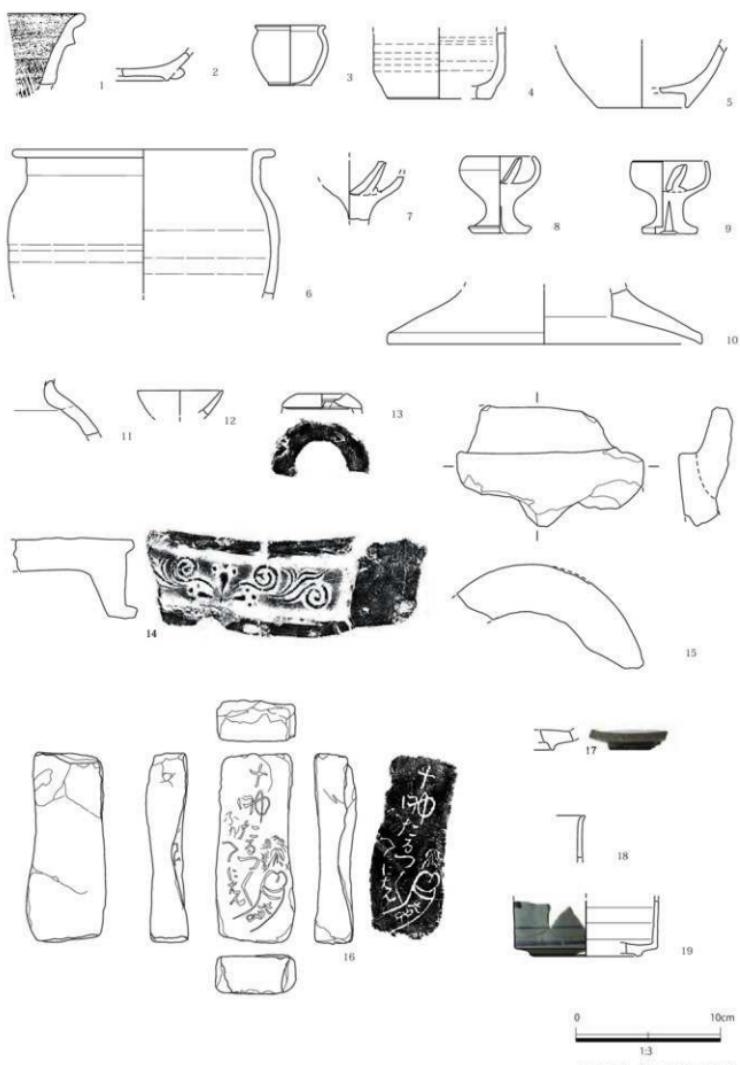


第56図 遺物実測図(32)



第57図 遺物実測図(33)

III 調査の成果

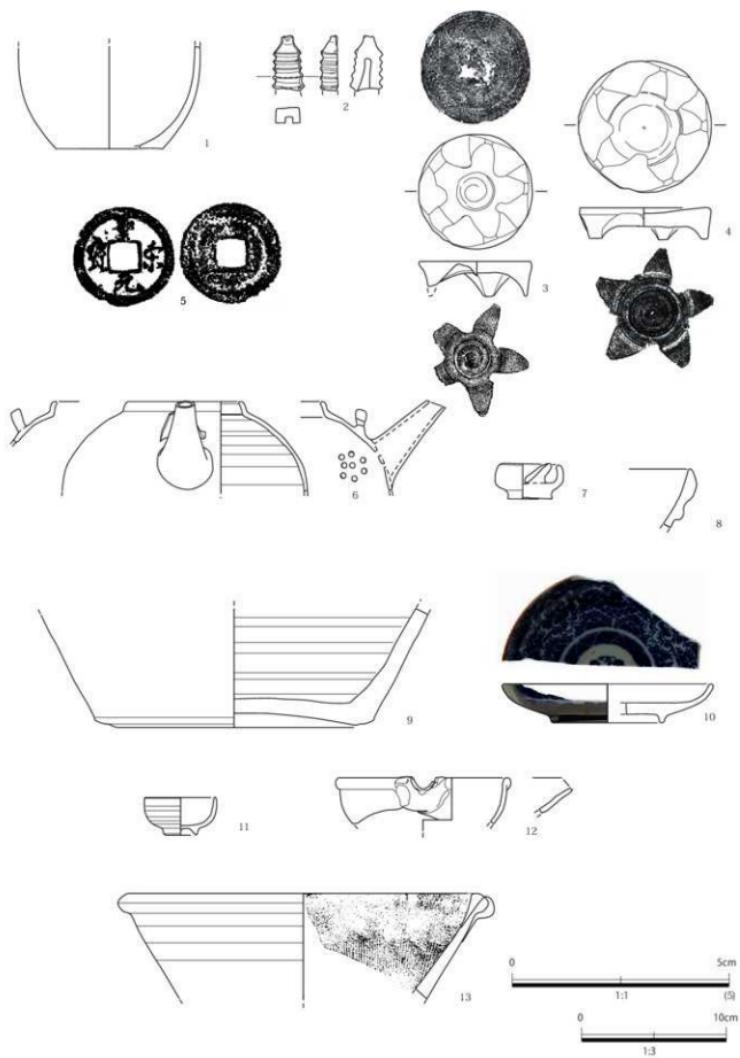


第 58 図 遺物実測図 (34)

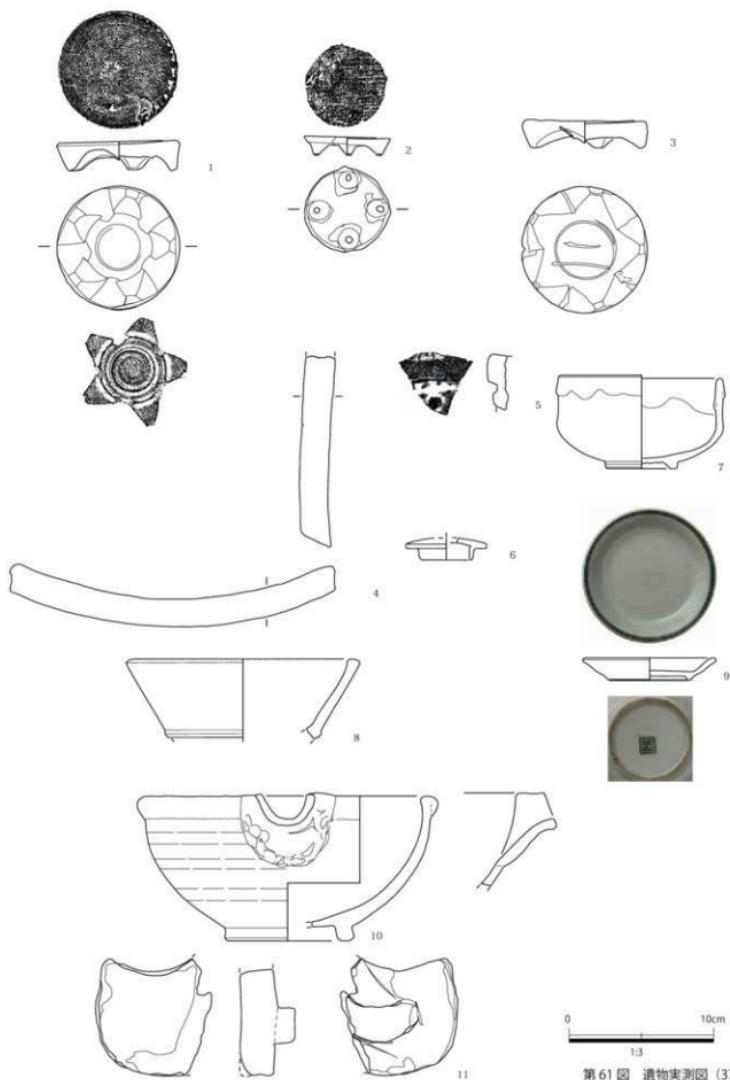


第59図 遺物実測図(35)

III 調査の成果



第 60 図 遺物実測図 (36)

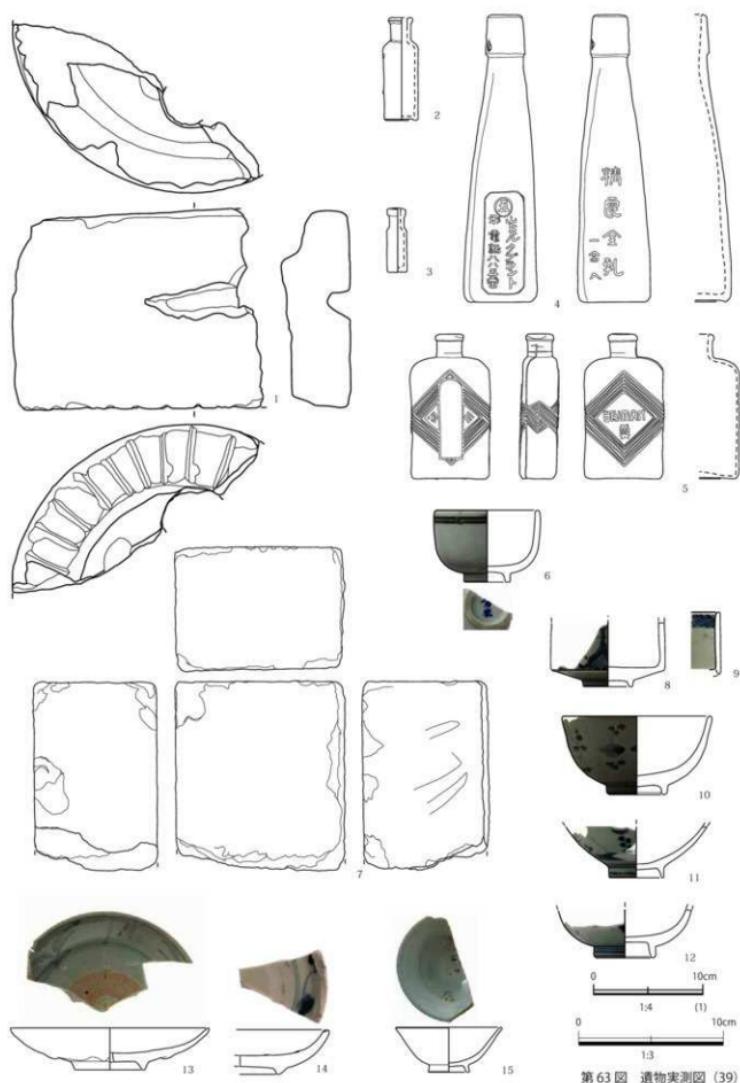


第61図 遺物実測図(37)

III 調査の成果

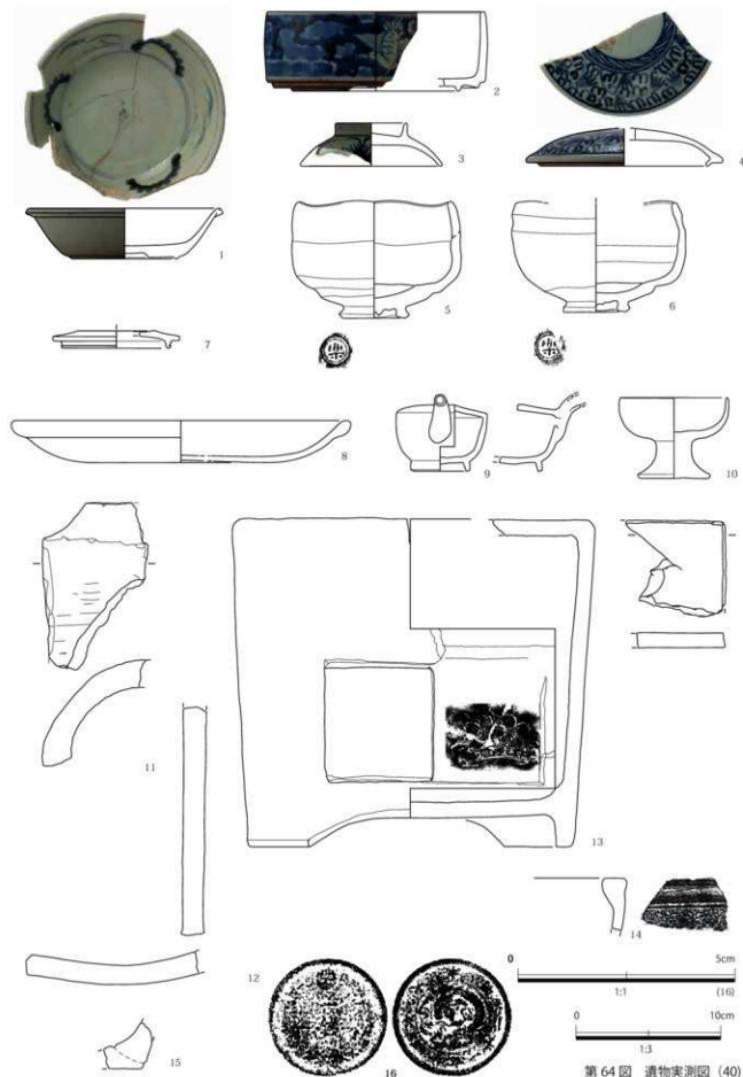


第62図 遺物実測図(38)

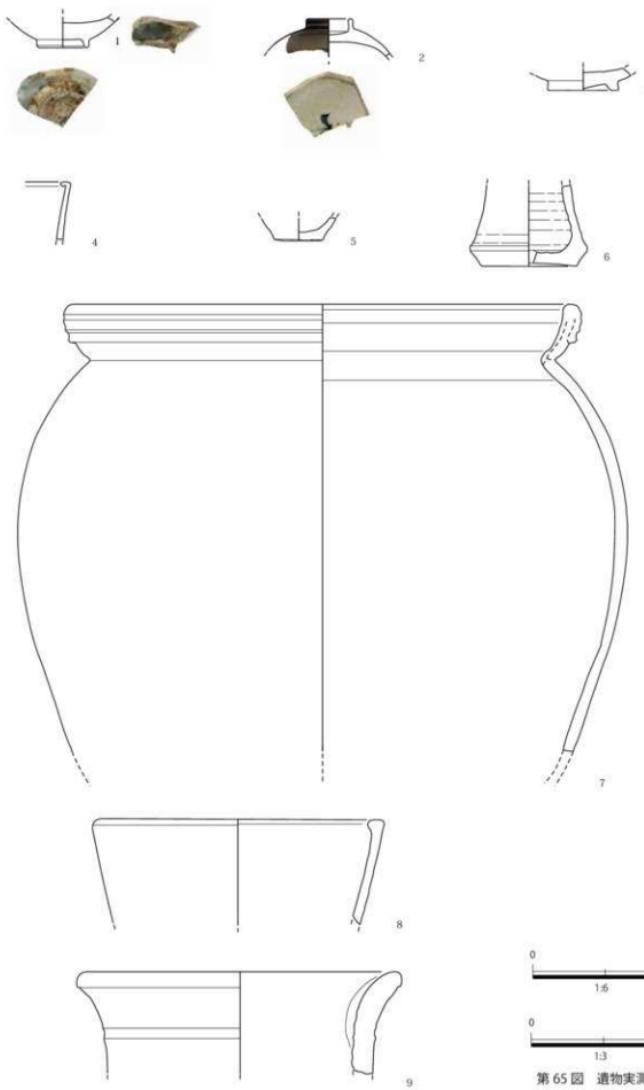


第63図 遺物実測図(39)

III 調査の成果



第 64 図 遺物実測図 (40)

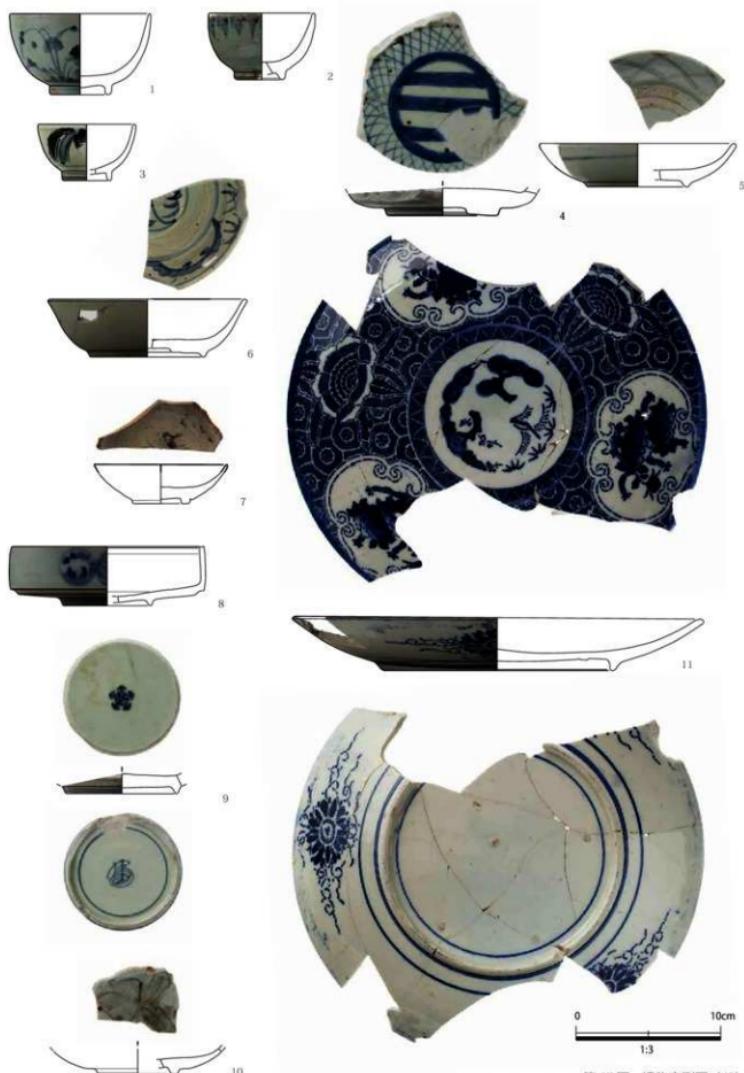


第 65 図 遺物実測図 (41)

III 調査の成果

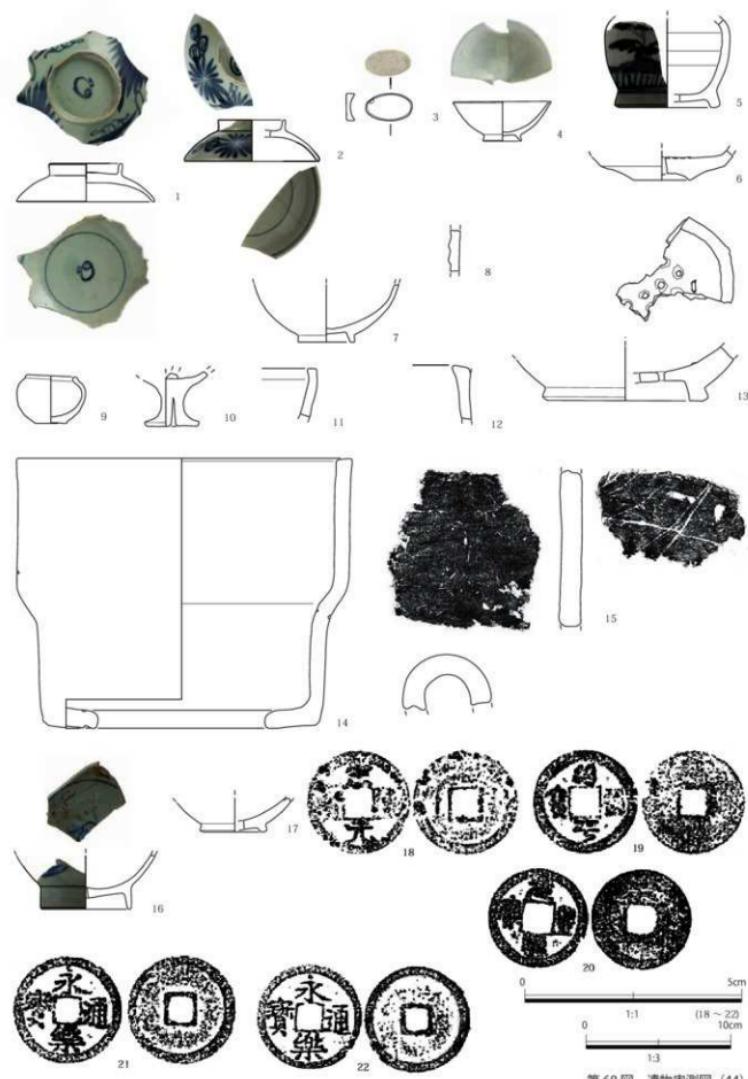


第66図 遺物実測図 (42)



第67図 遺物実測図(43)

III 調査の成果



第68図 遺物実測図(44)

表3 遺物観察表(1)

回 No.	種類	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外曲	内曲	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
25 1	土師器	甕	6区	Xs— 193838.386 Ys— 43513.452 H=138.983					[44.0]						圓窓付
25 2	須恵器	壺	6区	SX6					[32.0]	ロクロ	ロクロ				
25 3	石製品	砥石	6区	北部内壁		55.4	37.0	30.0							仕上砥
25 4	古鏡		6区	SK4											新舊玉通寶
25 5	磁器	碗	9区	SK3		[95.0]	[46.0]	[34.0]				染付	灰白色		
25 6	磁器	皿	9区	SK3		[79.0]	36.0	[17.0]	ロクロ	ロクロ		白色	白色		燒熱 内面:草紋 斜 り出し高台
25 7	陶器	碗	9区	SK3					[22.0]	ロクロ	ロクロ	施釉	灰灰		漸灰 漸灰
25 8	瓦	丸瓦	9区	SK3		[96.4]	[95.6]	24.0	ヘラ ナデ	あて 布痕		黒褐色	灰灰		
25 9	瓦	平瓦	9区	SK3		[124.8]	[104.9]	19.5				無施釉	黑褐色	灰色	
25 10	古鏡		9区	SK3											残跡不鮮明 成平元宝 か
25 11	陶器	皿	9区	SK27		[86.0]	44.0	[23.0]	ロクロ	ロクロ	施釉	褐色	赤褐色		見込に妙口痕 削り出 し高台 肥前 17C
25 12	陶器	鉢	9区	SK27					[2.4]	ロクロ	ロクロ	施釉	灰色		外面:妙壁り 漸灰 美 濃
25 13	土師器	甕	9区	SK27					[70.0]	[50.0]	[26.0]				内面に付着物 外面被 熱 敷土に雲母を含む
25 14	瓦	丸瓦	9区	SK27	F6		[80.5]	22.0	ナデ	あて 布痕		無施釉	灰褐色	灰色	
25 15	瓦	平瓦	9区	SK27		[143.0]	[126.5]	26.0							裏面に紋様有
25 16	石製品	石鉢	9区	SK15		105.8	82.4	43.0							激しく焼熱
25 17	磁器	碗	9区	北		[108.0]	48.0	77.0				染付	灰白色	灰白色	外面:山水紋 18C後 半
25 18	磁器	皿	9区	北					6.5			染付	乳白色	乳白色	内面:草花紋? 25-19 と同一個体か 潤州窑 17C?
25 19	磁器	皿	9区	中央					[19.0]			染付	乳白色	青白色	内面:草花紋? 25-18 と同一個体か 潤州窑 17C?
25 20	陶器	茶碗	9区	XO					[36.5]	ロクロ	ロクロ	長石釉	黄褐色	志野	
25 21	陶器	碗	9区			[111.0]	42.0	77.0	ロクロ	ロクロ	施釉	黄灰	天目釉 漸灰 美濃 削り出し高台		
25 22	陶器	皿	9区	SD10		[115.0]	[72.0]	22.0	ロクロ	ロクロ	施釉	黄灰白	銚灰白	漸灰	漸灰 美濃 削り出し高 台
26 1	陶器	鉢	9区	SK20		[141.0]	[104.0]	[62.7]				内施釉	褐色	黄褐色	外面:無施釉 外面に 押上紋 近代
26 2	土師器	燒造壺	9区						[65.0]	ロクロ	ロクロ				外表面紋様
26 3	土師器	燒造壺	9区						[36.0]						
26 4	陶器	甕	9区	中央基礎部分		[430.0]	213.0	502.0							
26 5	土製品	土人形	9区	中央		[38.0]	[44.0]	[41.0]				無施釉	赤褐色	赤褐色	牛馬の腳か
26 6	瓦器	植木鉢	9区	北西		[124.0]	122.0	[70.0]	ロクロ	ロクロ		黑色	黄褐色	中央に穿孔有	
26 7	瓦	軒平瓦	9区	南		[115.0]			ナデ	ナデ	施釉	暗赤褐	赤褐色	上面に鉄穴有	
26 8	石製品	硯	9区		RQ1	100.1	66.7	10.0							
26 9	磁器	碗	12区	SX9			47.0	[16.5]							見込:蝶紋 19C
26 10	磁器	碗	12区	SX9		[113.0]	[47.0]	64.0				染付	灰白色	灰白色	外面:青花紋 18C後 半
26 11	陶器	碗	12区	SX9			[70.0]	[56.0]	[69.0]	ロクロ	ロクロ	白地	白色	外面:山水紋 19C	
26 12	磁器	皿	12, 8 区	SX9, SK189		[123.0]	41.0	29.0				染付	灰白	白色	外面:山水紋 高台 有孔有 18C後半
26 13	陶器	碗	12区	SX9	RP4	[97.0]	[41.0]	[23.0]	ロクロ	ロクロ	長石釉	赤褐色	赤褐色	削り出し高台 高台 有孔有 漸灰 美濃系 見込に植生有	

## III 調査の成果

表4 遺物観察表(2)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び出土地點	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(厚さ)	高さ	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
26	14	陶器	碗	12区	SX9		(111.0)	50.0	57.0	ロクロ	ロクロ	透明釉	黄白色	京磁系 削り出し高台 内面も含めて全体に施釉 18C	
27	1	土師器	皿	12区	SX9	RPS	121.0	69.0	28.0	ロクロ	ロクロ	無施釉	赤褐色	赤褐色	かわらけ 回転糸切 磁付着 口縁部一部打ち欠き 一部被熱 灯明面
27	2	土師器	皿	12区	SX9			27.0		ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				かわらけ 内部被熱 回転糸切
27	3	土師器	皿	12区	SX9		(105.0)	(61.0)	28.0	ロ縁 ロクロ ナデ	ロ縁 ロクロ ナデ				かわらけ 回転糸切 胎土に雲母片含む
27	4	土師器	皿	12区	SX9		(109.0)	(64.0)	23.0						胎土に砂を多く含む 感覚が欲しい
27	5	土師器	皿	12区	SX9		126.0	62.0	28.0	ロクロ	ロクロ				かわらけ 回転糸切 一部口縁欠け 口縁部に埋
27	6	土師器	皿	12区	SX9		(114.0)	(65.0)	26.5	ロ縁部 ヨコ ナデ					かわらけ 回転糸切 口縁部一部欠け 内面被熱
27	7	土師器	皿	12区	SX9		(104.0)	(63.0)	(24.0)	ロ縁部 ロクロ ナデ					かわらけ 回転糸切 被熱 内外焼付着
27	8	土師器	皿	12区	SX9		(103.0)	(60.0)	25.0	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				かわらけ 回転糸切→ナデ 胎土に雲母片
27	9	磁器	皿	12区	SX5		(144.0)	64.0	35.0						外面:唐辛子紋 内面:うずら紋 底部:「源六製」 明治
27	10	磁器	鉢	12区	SX5			(34.0)		染付	白色	白色	白色	白色	内面:花紋 外面:唐草紋 18C
27	11	瓦	平瓦	9区	SX5		(129.0)	(94.0)	23.0			無施釉	黒褐色	灰	
27	12	磁器	皿	12区	SX1		(114.0)	(63.0)	22.0			赤絵金彩	白色	白色	内面:唐草
27	13	磁器	花瓶	12区	SX1		18.0	26.0	57.0			色絵	白色	白色	外面:草花紋 近代
27	14	瓦器	火移	12区	SX1					(28.5)	ロクロ ナデ	外黒色 内灰白色	黑色		
27	15	磁器	鉢	12区	SX2		148.5	81.5	73.0			染付	白色	白色	内面:青磁、山水模様 外面:青磁紋、山水紋 18C
27	16	磁器	蓋	12区	SX2		84.0	32.0	36.0			色絵	白色	白色	内面:花紋 金彩ほどんど渋織 近代
27	17	陶器	土瓶	12区	SX2		78.0	82.0	102.0	ロクロ	ロクロ	白化施土・緑釉・铁釉	灰白色	灰白色	大腹相馬系 削り出し高台 穴5ヶ 外面:梅花紋 19C
27	18	陶器	不明	12区	SX3			(16.0)		ロクロ	ロクロ	灰釉	青褐色	青褐色	肥前系
28	1	磁器	碗	12区	SK12	RPS	94.0	41.0	54.0			染付	青灰白	灰白色	外面:田町橋紋 高台; 大明年製くすし 18C 亂
28	2	磁器	碗	12区	SK12		(136.0)	(57.0)	(68.0)			染付	灰白色	灰白色	外面:梅花紋 18C 後半
28	3	磁器	碗	12区	SK12		(98.0)	(72.0)	(54.0)			染付	白色	白色	外面:寿字紋、山水紋 18C ~ 19C
28	4	磁器	花瓶	12区	SK12		(30.0)	(42.0)	(57.5)			染付	灰白色	灰白色	外面:唐草 瓶横で施文 28-7と同一系 唐津 17C
28	5	陶器	向付	12区	SK12	23 周				(23.0)	ロクロ	ロクロ			

表5 遺物観察表(3)

回 No.	種別	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	L径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考	
28 6 陶器	皿	12区 SK12		23 層		(124.0) (41.0)	37.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	黄灰褐色	白面有 削り出し高台 高台唇痕 灰面に 鉛釉で紋様 斧跡 17C			
28 7 陶器	皿	12区 SK12		23 層			(22.0)	ロクロ	ロクロ	透明釉	赤褐色	赤褐色	鉛釉で紋様 28.5と同 一系 埋没			
28 8 陶器	皿	12区 SK12		23 層		(121.0) (43.0)	34.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	褐色	削り出し高台 日前 2 つ			
28 9 陶器	皿	12区 SK12		23 層			(18.0)	ロクロ	ロクロ	透明釉		黄褐色	京焼系			
28 10 陶器	皿	12区 SK12				(85.0)	47.0	(16.0)	ロクロ	ロクロ	削穀釉	黄灰色	黄灰色	見込:蛇の目地割 削り出し高台 高台磨 き痕 65.3と同系 肥 前 18C		
28 11 陶器	皿	12区 SK12				(123.0)	(45.0)	34.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	褐色	削り出し高台 高台内 日面		
28 12 陶器	皿	12区 SK12		23 層			(27.5)	ロクロ	ロクロ	透明釉 (茶系)		黄褐色		外面:紋様 京焼系		
28 13 陶器	甕	12区 SK12				(132.5)	(109.0)	(41.0)		ロクロ	無施釉	赤灰褐色	灰褐色			
28 14 陶器	甕	12区 SK12						(24.0)	ロクロ	ロクロ	長石釉	黄灰褐色	褐色			
28 15 石製品	石跡	12区 SK12	RQ6	281.0	(144.0)	129.0										
28 16 石製品	砥石	12区 SK12		60.0	41.0	15.0								仕上砥		
28 17 磁器	皿	12区 SK9				(126.0) (61.0)	25.0				染付	白色	白色	内面:不明紋 18C		
28 18 磁器	皿	12区 SK9				087.0	(144.0)	62.5			染付	白色	白色	外面:一重副口 直口 19C		
28 19 土師器	皿	12区 SK9				101.0	56.0	25.0	ロクロ	ロクロ				かわらけ 回転系切 内面に焼付着 上端部 一部削れ		
28 20 古鏡	鏡	12区 SK9	RM3											鏡面不平		
28 21 土師器	甕	12区 SK9				(61.0)			ナデ	ロクロ	暗褐色	黄褐色	底面口ノクラナデ 中~ 近世			
29 1 瓦	丸瓦	12区				(138.0)	(64.5)	19.0				赤褐色	赤褐色	壁面		
29 2 瓦	斜平瓦	12区 T				(43.0)		21.5				赤褐色	赤褐色			
29 3 瓦	平瓦	12区 T				(73.0)	(39.0)	27.0				黒灰色	黄灰褐色	裏面ヘラナデ 表面繊 割 2本有		
29 4 瓦	不明	12区 表土				(95.0)	(62.0)	22.0						文字状の浮き彫り有り 天保鉄質		
29 5 古鏡	鏡	12区 壁														
29 6 磁器	皿	8区 SX165					4.0					青磁	緑灰色	暗灰褐色 中間帶		
29 7 磁器	鉢	8区 SX165					(43.0)					青磁	青綠色	灰白色 内面 進裂紋 亂泉窯		
29 8 磁器	花瓶	8区 SX165					(37.0)					白磁	白色	中間帶		
29 9 磁器	碗	8区 SX134						17.0				青磁	明緑色	暗灰 内面 深裂紋 亂泉窯		
29 10 磁器	鉢	8区 SX134						(22.0)				天目釉		天目茶碗 潤井美濃 削り出し高台		
29 11 磁器	盤	8区 SX134				(190.0)	(116.0)	(47.0)	ロクロ	ロクロ	無施釉	赤褐色	赤褐色	内面使用によりはぼ れ	丸	
29 12 磁器	鉢	8区 SX134						(41.3)				青磁	灰	上端部外に沈線		
29 13 磁器	皿	8区 SX134				(66.0)	(38.0)	(23.0)	ロクロ	ロクロ	天目釉	灰	灰	天目茶碗 潤井美濃 削り出し高台		
29 14 磁器	不明	8区 SX134						(11.0)				長石釉	赤褐色	黄褐色 水差しか火入れ 志野		
30 1 瓦	斜平瓦	8区 SX134				(148.0)	(170.0)	22.0				灰褐色	赤褐色	相付		
30 2 磁器	鉢	8区 SK149				(120.0)	68.0	48.0				白色	白色	段重跡 18C後半		
30 3 磁器	酒盃	8区 SK149				(73.0)	26.0	27.2			染付	白色	白色	内外面 ぼかし紋 口 縁部を走ませる紋		
30 4 磁器	圓形碗	8区 SX181				(66.0)	34.0	(10.0)			染付	白色	白色	見込:こんなにやく田判 18C 4		
30 5 磁器	片口鉢	8区 SX181						(31.0)	タナキ		外灰釉・暗褐色	暗褐色				
30 6 磁器	皿	8区 SX181				(92.0)	(48.0)	(52.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	乳白色	乳白色	外面:若松紋 京・信 楽系 18C中		

## III 調査の結果

表 6 遺物観察表(4)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び 出土地點	層 位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
30 7	瓦	丸瓦	8区	SX181		(109.0)	(76.5)	21.0	ヘラ ナデ			無施釉	灰褐色	灰	
30 8	磁器	鉢	8区	SX120		(103.0)	66.0	(34.0)		染付	白色	白色	外面:印刷紋 断面に 付着物(修復痕)		
30 9	陶器	碗	8区	SX120		(66.0)	24.5	34.0	ロクロ	ロクロ	灰釉(淡 緑)	白色	外面:弦紋 大腹相馬 割り出し高台 高台 部無施釉		
30 10	磁器	碗	8区	SK142		98.0	34.0	56.0		染付	白色	白色	外面:星形紋 内面に 紅付着 見込:宝紋 19C後半		
30 11	磁器	蓋	8区	SK142		(145.0)	(168.0)	34.5		染付	白色	白色	外面:菊紋 19世紀		
30 12	磁器	碗	8区	SK142		(140.0)	52.0	51.0		染付	白色	白色	外面:花草紋(秋草か) 見込:松竹梅 19C 前半		
30 13	陶器	蓋	8区	SK142		75.0	40.0	20.5	ロクロ		灰釉		赤褐色 全体被熱		
30 14	瓦器	皿	8区	SK142		224.0	230.0	(31.5)	ロクロ	ロクロ			暗褐色	青褐色 内面焼付着	
31 1	瓦	平瓦	8区	SK142		(113.0)	(117.0)	(21.5)					灰褐色	灰褐色	
31 2	瓦	平瓦	8区	SK142		(81.0)	(127.5)	16.0					暗赤褐色	赤褐色	
31 3	磁器	碗	8区	SK126		(116.0)	(46.0)	(55.0)			色釉	白色	白色	外面:蹴口 赤金彩 墨末	
31 4	陶器	碗	8区	SD210				(30.5)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄白	黄白	割り出し高台 高台内 外無施釉	
31 5	磁器	碗	8区	SD210		98.0	38.0	49.0		染付	白色	白色	見込:外面:柱紋様		
31 6	磁器	鉢	8区	SD210		(135.0)	84.0	68.0		染付	白色	白色	外面:青海波 内面の 口縁部に輪側ぎ 蓋有 19C		
31 7	磁器	茶碗	8区	SD210		(60.0)	(42.0)	76.5		染付	白色	白色	外面:竹紋 江戸後期		
31 8	陶器	皿	8区	SX132		(110.0)	(67.0)	(18.0)	ロクロ	空押し	铁釉	暗褐色	黄褐色		
31 9	陶器	鉢	8区	SX132				(20.0)	ロクロ	ロクロ	乳白釉			割り出し高台 平滑水 外面:植物紋 19C 後半~	
31 10	土加器	皿	8区	SX132				(9.0)	ロクロ	ロクロ				糸切	
31 11	瓦	平瓦	8区	SD210		(91.5)	(73.0)	14.5			灰釉		暗褐色	赤褐色	
31 12	瓦	平瓦	8区	SX126		(113.0)	(78.0)	9.0					黑灰褐色	灰褐色	
31 13	瓦	丸瓦	8区	SX132		(51.4)	(72.0)	21.0	ヘラ ナデ	あて 布痕	無施釉	黑褐色	灰白		
31 14	古鏡		8区	SX132										鋏元寶	
32 1	金属	鎌告袋 11	8区	SK192		90.0		10.0							
32 2	瓦	平瓦	8区	SK192		(83.0)	(115.7)	16.5			鐵釉	暗赤褐色	赤褐色		
32 3	磁器	碗	8区	SX178		76.0	34.0	43.5			色釉	白色	白色	内外に塑染、外面:紅 葉 見込:「六?人」 近代	
32 4	磁器	小碗	8区	SX178		80.0	40.5	43.9		染付	白色	白色	印何 外面:家紋、瓦紋、 綻紋 底部:鉢口 高台 近代		
32 5	陶器	急須	8区	SX178		(98.0)	(172.0)	(78.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰	黄灰	大腹相馬系 外面:山 水紋 19C	
32 6	瓦器	火入	8区	SX178				(41.0)	ナデ	ロクロ	無施釉	黑色	黑色		
32 7	磁器	碗	8区	SX169		78.0	32.0	45.0		染付	白色	白色	白色	型模引 外面:芭蕉 葉紋様 32-7と組 近 代	
32 8	磁器	碗	8区	SX169		79.0	31.0	46.5		染付	白色	白色	白色	型模引 外面:芭蕉 葉紋様 32-7と組 近 代	

表7 遺物観察表(5)

回 No.	種別	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	D径 (直径) (高さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外曲	内曲	装飾・ 施釉	外曲 色調	胎土	備考
32 9	磁器	碗	8区	SX169			74.0	36.5	42.0			色繪	白色	白色	赤绘 外面：龍 金彩 空瓶 近代
32 10	磁器	皿	8区	SX169			154.0	94.0	32.5			色繪	白色	白色	外面：唐草 内面：鳳凰、 唐草、幾 宝 墓主～ 明治初期
32 11	磁器	皿	8区	SX156			106.5	58.5	23.5			色繪	白色	白色	型瓶 内面：山本家屋 紋 口縁：茶 33-1 七 組 近代
32 12	磁器	皿	8区	SX168					23.0			染付	白色	白色	江戸後期
32 13	磁器	皿	8区	SX168			(150.0)	(94.0)	48.0			染付	白色	白色	色繪 内面：草木紋、 格子紋 外面：唐草紋 底部：鷹日高台
32 14	磁器	皿	8区	SX168			113.0	57.5	27.0			染付	白色	白色	内面：花鳥紋 一部赤 彩 裏面：不明文字 墓末
32 15	磁器	皿	8区	SX168			122.0	72.0	26.0			色繪			脚手 内面：牡丹、花 鳥紋 外面：蝙蝠紋 近代
33 1	磁器	皿	8区	SX168			106.0	58.0	21.0			色繪	白色	白色	型瓶 内面：山本家屋 紋 口縁：茶 32-1 七 組 近代
33 2	磁器	皿	8区	SX168			153.0	91.5	30.0			染付	白色	白色	内面：網代丸紋、梅紋、 金彩 望田「肥前有田 城跡」明治末
33 3	磁器	皿	8区	SX168			(80.0)	(44.0)	13.0			赤繪	白色	白色	内面：金彩唐草 口縁： 金彩 近代
33 4	磁器	酒盃	8区	SX168			70.0	26.0	27.5			色繪	白色	白色	外面：金彩御紋 内面 板、雪輪紋内に「春」 口縁：金彩
33 5	磁器	酒盃	8区	SX168			64.0	22.0	23.5			色繪			内面：「トッサルミルク ルスマイルケ」近 現代
33 6	磁器	皿	8区	SX168			107.0	38.0	23.0			染付	白色	白色	内外面：白 底部：[6]
33 7	磁器	碗	8区	SX168			105.0	40.0	54.0			色繪	白色	白色	脚手 にかも移復有 外面：梅瓶山水紋、草 花紋 内面：格子紋、 松竹梅 近代 35-5 が 同一蓋
33 8	磁器	鉢	8区	SX168			(160.0)	(92.0)	56.5			染付	白色	白色	外縁：唐草 内面：草、 花、土革 19C
33 9	磁器	蓋	8区	SX168			96.0	42.0	30.5			染付	白色	白色	内縁に使用面 外面： 梅花紋 近代
33 10	陶器	急須	8区	SX168、 SX169			56.0	(46.0)	56.0			焼締	暗褐色	黒褐色	底部布目 現代
33 11	瓦		8区	SX168			(55.0)	(113.0)	14.0			無施釉	赤褐色	黒褐色	
33 12	土師器	皿	8区	SX168				(13.0)		ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				かわらけ 回転系切
33 13	石製品	硯石	8区	SX168			67.0	44.0	20.0						
33 14	磁器	碗	8区	SK208	F				(52.0)			染付	白色	白色	外縁：藤紋 内面：ひし 紋
33 15	磁器	茶碗	8区	SK208								色繪	白色	白色	色繪 外面：七福神紋 空瓶 「彦香賣」見込： 金字で「九月」？ 近 代
34 1	IC	平瓦	8区	SK208	F		(143.5)	(95.5)	16.5			無施釉	黄褐色	黒褐色	黒地成不良
34 2	磁器	皿	8区	SK143			(122.0)	78.0	24.0			色繪	白色	白色	内面：馬鹿、唐草、杜 鹃 近代
34 3	磁器	皿	8区	SK143			(208.0)	(126.0)	29.0			染付	白色	白色	洋風圓 昭和
34 4	磁器	茶碗	8区	SK143			(80.0)	36.0	(56.0)			染付	白色	白色	型瓶 外面：雲紋 昭 和

## III 調査の成果

表 8 遺物観察表 (6)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び 出土地點	層 位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
34 5	ガラス 製品	瓶	8区	SK143		15.5	23.0	62.0							
34 6	磁器	瓶	8区	SK179		(74.5)	49.5	22.5		染付	白色	白色	外面:草花紋 高台 ロクロ肩有 高台内墨 乗り 17C 分		
34 7	磁器	茶碗	8区	SK179		(76.0)	31.5	43.5		染付	白色	白色	型紙、外面:草唐草 紋 蛇目丸台 漆印有 現代		
34 8	陶器	盤	8区	SK137		223.5	220.5	39.5		海鼠繪	赤褐色	赤褐色	裏面: 刻書「丸八口」 在地?		
34 9	瓦	平瓦	8区	SK137		(79.4)	(76.9)	23.5							
34 10	瓦	平瓦	8区	SK196		(43.0)	(50.4)	16.0		無施釉	黒	黄灰色	打目穴有		
34 11	陶器	罐	8区	SK135		(332.0)	(241.0)	(71.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	鐵泥繪	赤褐色	表土出土 内面擦耗	
34 12	陶器	擂鉢	8区	SX220			(66.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	鐵泥繪	暗赤褐色			
34 13	石	円盤状 石製品	8区	SX134			26.7	5.2							
34 14	骨製品	箸	8区	SX153		(123.0)	(50.0)	(4.0)					象牙か		
34 15	須恵器	壺	8区	SD163				(56.0)	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ					
34 16	須恵器	壺	8区	ST182				70.0							
34 17	瓦	平瓦	8区	SX154		(129.8)	(57.0)	21.0			黒灰色	灰褐色			
35 1	磁器	瓶	8区			80.1	37.5	46.0	ロクロ		白色	白色	黒色 内外面: 菊菊紋 手描き 漆み大 口縁: 黒色 35-1と組 近現代		
35 2	磁器	瓶	8区			80.1	36.5	47.0	ロクロ		白色	白色	黒色 内外面: 菊菊紋 手描き 口縁: 黒色 35-1と組 近現代		
35 3	磁器	瓶	8区			77.5	39.0	64.0		染付	白色	白色	外面: 雲紋、菊紋 内面: 雲紋、翻瓣 絹込: 茶 現代		
35 4	磁器	瓶	8区			82.0	27.0	32.3		色繪	白色	白色	内面: 雲紋、金線 「富 山市立美術館」		
35 5	磁器	蓋	8区	南		(93.0)	(37.0)	25.0		色繪	白色	白色	外面: 草花紋、東屋山 水紋 内面: 格子紋、 松竹梅 33-7 同一蓋 近代		
35 6	磁器	酒盃	8区			73.0	36.0	46.0		染付	白色	白色	外面: 波、雀、桜 印 刷 高台: 「大日本萬山 製」 勝山窯 近代		
35 7	磁器	酒盃	8区			76.0	34.0	45.0		染付	白色	白色	外面: 波、雀、桜 印 刷 高台: 「大日本萬山 製」 勝山窯 近代		
35 8	磁器	酒盃	8区	南西表土		68.0	25.0	27.0		色繪	白色	白色	内面: 龍鳳紋、口口十三 □名利(吉賀熱合)		
35 9	磁器	皿	8区			107.0	51.5	23.5		染付	灰白	灰白	印押 内面: 雲唐草、 同前紋 目跡 4ヶ所 近代		
35 10	磁器	花瓶	8区	中央部		(56.0)	73.0	48.0		青磁	青緑	白色	美濃窯		
35 11	陶器	瓶	8区	SD209				(29.0)					灰 天目 近代か?		
35 12	陶器	瓶	8区	西T		(93.0)	44.0	(47.0)	ロクロ + 下平ロ クロ削 り	ロクロ 内外灰 釉	赤褐色	黃褐色	17C 削り出し高台		
35 13	陶器	甕	8区	SK237				(34.0)	ナデ	ナデ	鐵泥繪	灰色	砂粒を多く含む		
35 14	土師器	蓋	8区	中央部				8.5				赤褐色	砂多い 焼塗器の蓋 か?		
35 15	土師器	皿	8区	倒木頭・南壁 T				(21.0)	ヨコ ナデ	ヨコ ナデ		赤褐色	かわらけ 手捏ね		

表9 遺物観察表(7)

回 No.	種類	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	L径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
35 16 土器器	■	8区				90.0	(38.0)	(17.0)	ヨコナ デ				赤褐色	かわらけ 手捏ね	
35 17 瓦	軒丸瓦	8区	北			(23.0)	(82.0)	(68.5)				鉄釉	暗褐色	赤褐色	
35 18 瓦	平瓦	8区	SK253			(66.5)	(90.0)	(16.0)				無施釉	黒褐色	赤褐色 黒色 梨地不良	
35 19 石製品	五輪塔	8区	SD39			202.0	(138.0)								空輪
36 1 石製品	四み石	8区				156.0	(150.0)	(76.0)							
36 2 石製品	へら	8区	西T			(106.0)	(20.0)	2.5							鈎部分に穿孔
36 3 古鏡		8区	中央東T												天保通貫(長鋸)
36 4 古鏡		8区	東T												天保通貫(広鋸)
36 5 磁器	■	5区	SD39				(23.0)			青磁	茶褐色	灰白色	外面:薄井 13C 前半		
36 6 磁器	蓋	4, 5 区	SD39	遺 構 検 出 画		(68.0)	(37.0)	(17.0)				染付	白色	白色	外面:柳家 内面:松竹梅 19C
36 7 陶器	水舟	5区	SD39				(31.0)			ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	灰褐色	瀬戸美濃
36 8 陶器	鑊鉢	5区	SD39, SK19	RP19, 13, 4		(332.0)	(161.0)	(115.0)		ロクロ	ロクロ	無施釉	黄褐色	灰色	長石を多く含む
36 9 土師器	甕	5区	SD39				(46.0)								
36 10 土師器	■	5区	SD39	RP21	(101.0)	(47.0)	23.0	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ						静止系切 口縁第一部 削 制工に火等付着。
36 11 古鏡		4, 5 区	SX22(SD39)	RM11											祥符通貫
36 12 磁器	■	5区	SP25				(21.0)			青磁		灰色	白	白	鹿児島
37 1 陶器	■	5区	SP25				(14.0)			灰釉	青灰褐	青褐色	白	白	唐津
37 2 陶器	■	5区	SE11				(20.0)			ロクロ	ロクロ	辰石釉	白褐色	白	志野彌反塗 17C
37 3 木製品	下駄	5区	SE11			(186.0)	(95.0)	(27.5)							二段階 両が激しく摩耗 底部板に向方に棒状のものを押す
37 4 磁器	■	5区	SD17				(36.0)			色絵	白色	白色	西壁 踏手 外面:草花絵		
37 5 磁器	■	5区	SD17			(111.0)	55.0	(51.0)							西壁 外面:青輪草花
37 6 磁器	■	5区	SD17			(105.0)	53.5	(35.0)				染付	白色	白色	舟紋 18C 前半
37 7 磁器	■	5区	SD17	F23	(101.0)	(48.0)	(36.5)			染付	白色	白色	西壁 内面:こんなにやく印判 外面:青輪草花絵?		西壁 握り込み 舟紋?
37 8 磁器	■	5区	SD17	F34		(35.3)				青磁	白色	白色	西壁 握り込み 舟紋?		
37 9 磁器	■	5区	SD17				(43.0)	(16.0)		染付	灰白色	灰白色	西壁 外面:脚絞 18C 前半		
37 10 磁器	■	5区	SD17			(119.0)	(60.0)	(45.0)		染付	白色	白色	外側:唐草紋 18C 前半		
37 11 磁器	■	5区	SD17			(117.0)	(42.0)	56.0		染付	白色	白色	内面:唐草 外面:松梅紋 18C 前半		
37 12 磁器	■	5区	SD17			86.0	49.0	67.0		染付	灰白色	白色	外側:松竹梅紋 高台 縁に袖割ぎ 深小丸彌 19C 前半		
37 13 磁器	酒壺	5区	SD17			94.0				染付	白色	白色	外側:白		
37 14 磁器	花瓶	5区	SD17			(123.0)	64.0	(80.5)		染付	白色	白色	19C 前半		
37 15 陶器	■	5区	SD17			(111.0)	(44.0)	(26.0)	ロクロ	ロクロ	灰褐色	褐色	割り出し窯台 見込に 砂口 唐津 17C 前半		
37 16 陶器	■	5区	SD17			(133.0)	(68.0)	(27.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	瀬戸美濃 18C 剥り 出し窯台		
37 17 陶器	■	5区	SD17			(90.0)	(36.0)	(23.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	灰褐色	17C 剥り出し窯台	
37 18 陶器	■	5区	SD17	F28				(19.0)							西壁 海津 17C 前半
37 19 陶器	■	5区	SD17	F27		125.5	52.0	32.0	ロクロ	ロクロ	透印施	褐色	褐色	西壁 挂頭面 唐津 砂口 剥り出し窯台 17C 前半 (1620 ~ 1640)	

## III 調査の結果

表 10 遺物觀察表(8)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び 出土地點	層位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
37_20	陶器	皿	5区	SD17			(126.0)	(79.0)	(26.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	褐色	西型 外面被熱 線光 瀬川美濃 18C前半	
37_20	土師器	皿	5区	SD17	F22		78.0	48.0	25.0	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				西型 L脚部一部欠 かわらけ小 回転切
37_21	陶器	碗	5区	SD17	F28				(49.0)		灰釉	灰褐色	西型 下部屈曲より下 削り出し高台 肥前 17C		
37_22	陶器	碗	5区	SD17	F28				(37.0)	ロクロ	ロクロ	跳轴	灰白色	西型 濱川美濃	
37_23	陶器	碗	5区	SD17					(33.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉(黄 褐)	黄褐色	西型 濱川美濃	
37_24	陶器	碗	5区	SD17			(77.0)	(35.0)	(20.5)						
37_25	土師器	甕	5区	SD17					(48.5)	ハケメ	ハケメ				
38_1	陶器	甕	5区	SD17			(119.0)	(218.0)	(71.0)			無施釉	赤褐色	赤褐色	肥前系 胎土に長石を 含む 17C
38_2	陶器	罐鉢	5区	SD17					(33.0)			跳轴	赤褐色	灰褐色	
38_3	陶器	罐鉢	5区	SD17					(38.0)			自然釉	褐色	胎土に長石混入	
38_4	陶器	罐鉢	5区	SD17					(46.0)	ロクロ	ロクロ	跳轴	灰褐色		
38_5	陶器	罐鉢	5区	SD17	F1 ~ 12		(15.0)	(89.0)	(39.0)	ケズリ		無施釉	赤褐色	赤褐色	西型 外面ロクロによ るケズリ調整 削り出 し高台 被熱
38_6	陶器	束縛	5区	SD17	F1		47.0	28.0	30.0	ロクロ	ロクロ	跳轴	暗赤褐色	西型 回転系切	
38_7	土師器	皿	5区	SD17			(113.0)	(61.5)	26.5	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				西型 かわらけ 回転 系切 内部被熱
38_9	土師器	皿	5区	SD17			119.0	63.0	29.0	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				西型振り込み かわら け 回転系切 口縁部 に保付着
38_10	土師器	皿	5区	SD17			(94.0)	(50.0)	22.5	ロクロ	ロクロ				西型 かわらけ 回転 系切 西型振り込み
38_11	土師器	皿	5区	SD17	F26		(108.0)	(77.0)	19.0	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				西型 かわらけ 回転 系切 要因を少含む 口縁部に保付着
38_13	土師器	皿	5区	SD17			(117.0)	71.0	(22.0)	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				西型振り込み かわら け 回転系切
38_14	土師器	皿	5区	SD17	F9				(22.0)			無施釉	赤褐色	赤褐色	西型 かわらけ 回転 系切
38_15	土師器	皿	5区	SD17			(120.0)	(67.0)	29.2	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				西型 かわらけ 回転 系切
38_16	土師器	埴塙皿	5区	SD17			(52.0)	(89.0)	(79.0)	ロクロ	ロクロ	無施釉	赤褐色	赤褐色	西型振り込み 外面に 刷目紋 38-17、18と 同一個体
38_17	土師器	埴塙皿	5区	SD17			(52.0)	(71.0)	(63.0)	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				西型振り込み 38-16、18と同一個体
38_18	土師器	埴塙皿	5区	SD17					(28.0)	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				西型振り込み 38-16、 17と同一個体 底部ナ ギ
38_19	金属	煙管吸 口	5区	SD17			68.0	9.0	9.0						
38_20	金属	小柄	5区	SD17	F28		(157.0)	(6.0)	(9.0)						西型 手柄 皇宋通寶
38_25	土師器	皿	5区	SD17			(126.0)	(107.0)	(22.0)			ロクロ ナデ			内面被熱 かわらけ
39_1	古鉄	5区	SD17	F28											西型 手柄 皇宋通寶
39_2	古鉄	5区	SD17	F1											西型 新倉永通寶
39_3	古鉄	5区	SD17	F9											西型 新倉永通寶
39_4	古鉄	5区	SD17												古賀永通寶
39_5	古鉄	5区	SD17												古賀永通寶(松井)
39_6	陶器	皿	5区	SP32			(114.0)	(67.0)	12.0			灰釉	灰褐色	赤褐色	瀬川美濃 17C前半
39_7	陶器	皿	5区	SP36					27.5			灰釉	赤褐色	赤褐色	沖津 17C ~ 18C
39_8	陶器	罐鉢	5区	SP36					(71.0)	ロクロ		跳轴	赤褐色	赤褐色	古賀

表 11 遺物観察表(9)

回 No.	種別	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	L径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外曲	内曲	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
39_9	磁器	碗	5区	SK19			(102.0)	41.0	71.0			染付	灰白色	白色	外画:山水紋か 高台 施釉 18C後半
39_10	磁器	碗	5区	SK19			(107.0)	(43.0)	68.0			染付	白色	白色	外画:山水紋か 高台 施釉 18C後半
39_11	陶器	碗	5区	SK19					28.0			長石釉	灰白	湖口美濃 古野	
39_12	陶器	碗	5区	SK19					(34.0)			灰釉	赤褐色	灰褐色	唐津 17C
39_13	陶器	碗	5区	SK19					(29.0)			灰釉	赤褐色	灰褐色	唐津
39_14	陶器	碗	5区	SK19			(94.0)	(42.0)	(21.0)	ロクロ	ロクロ	透明釉	赤褐色	灰褐色	唐津 破口 削り出し 高台 17C前半 1620 ~1640
39_15	陶器	瓶	5区	SK19					(67.0)			ロクロ	灰褐色	灰	瓶口に削り多い 瓶身に粗妙多い
39_16	陶器	罐	5区	SK19			(211.0)	103.0	(93.0)	ロクロ	ロクロ	粗混釉	赤褐色	粗混褐色	内部に重ね模様の砂口有 色
39_17	土師器	环	5区	SK19			(111.0)	(58.0)	(26.0)	ロクロ	ロクロ				回転系切 内部に腐付 着 平安
39_18	土師器	环	5区	SK19			(92.0)	(57.0)	(18.0)	ロクロ	ロクロ				かわらけ 回転系切
39_19	土師器	环	5区	SK19		RP5	119.0	61.0	31.0	ロクロ	ロクロ				かわらけ 回転系切 口縁部一部削れ、削れ 口に焼付着
39_20	土師器	环	5区	SK19			(89.0)	(67.0)	(12.0)	ロクロ	ロクロ				かわらけ 回転系切
39_21	土師器	环	5区	SK19		RP6	(130.0)	(65.0)	30.5	ロクロ	ロクロ				かわらけ 激しく摩耗
39_22	土師器	环	5区	SK19			(73.0)	(51.0)	(14.5)	ロクロ	ロクロ				かわらけ 回転系切 内部に付着物
40_1	土師器	燒塗壺	5区	SK19					(9.0)			ナデ	ナデ		無指紋青白
40_2	土製品	羽口	4.5区	SK19, SN22			60.0	45.0	12.0						
40_3	石製品	砾石	5区	SK19			(61.0)	(40.0)	(43.0)						中誠
40_4	石製品	砾石	5区	SD17			21.5	21.0	4.0						黒石
40_5	磁器	蹄	5区	SK14			(148.0)	(109.0)	(55.0)			染付	白色	白色	外画:草花紋 内面磨耗 18C後半~19C前半
40_6	陶器	罐	5区	SK14, SD40					(98.0)	ロクロ	ロクロ	粗混釉	暗赤褐色	褐色	長石混入
40_7	磁器	花瓶	5区	SK16			(82.0)	(64.0)	(21.0)			染付	白色	白色	高台内壁坐り 18C後半~19C前半
40_8	磁器	紅入	5区	SK16			22.0	17.5	18.3				無施釉	白色	白色 内に紅 18C後半?
40_9	陶器	瓶	5区	SK16			(115.0)	(62.0)	(18.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	唐津	唐津 熟成
40_10	陶器	罐	5区	SK16					(70.0)	ロクロ	ロクロ	粗混釉	褐色	湖口美濃系	
40_11	土師器	环	5区	SK16					(12.0)	ロクロ	ロクロ				かわらけ 回転系切
40_12	磁器	角鉢	5区	SD40					(79.0)	(52.0)	(31.0)				南壁 19C
40_13	陶器	蓋彌	5区	SD40			(36.0)	24.0	(11.0)	ロクロ		粗混	赤褐色	赤褐色	回転系切
40_14	陶器	瓶	5区	SD40					(68.0)			無施釉	灰褐色	灰褐色	丹波系
40_15	磁器	被利	5区	SE12			26.5	69.0	189.0			染付	白色	白色	外画:山水紋 平清水 か
40_16	陶器	蹄	5区	SE12					(82.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	外画:青緑 近畿未 定
40_17	陶器	甕	5区	SE12			(138.0)	(101.0)	(44.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	灰褐色	静止系切 胎土に砂を 多く含む
40_18	陶器	桶木鉢	5区	SE12			(137.0)	(68.0)	(76.0)	ロクロ	ロクロ	無施釉	褐色	褐色	底部穿孔有 切欠き 一ヶ所
41_1	木製品	井戸杓	5区	SE13			386.5	95.0	9.0						柳の木用 注ぎ口有
41_2	木製品	井戸杓	5区	SE13			362.0	37.0	9.0						柳の木用
41_3	瓦器	壺	5区	SK9			(173.0)	(144.0)	(18.5)	ロクロ	ロクロ				底部ロクロナデ
41_4	瓦器	火鉢	5区	SK9, SK44			236.0	(188.0)	206.0						64-13と同類
42_1	ガラス 製品	薬瓶	5区	SK9				11.0	32.0	69.0					

## III 調査の結果

表 12 遺物観察表(10)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	高さ	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
42 2	磁器	壺	5、12	5区南T、南壁、12区東T		(13.0)	(22.0)	41.0				染付	白色	白色	18~19C
42 3	磁器	皿	5区	頃瓦		(118.0)	(54.0)	(20.0)	ロクロ	ロクロ			褐色	褐色	内面:草紋 見込:「花月庵」近現代
42 4	磁器	蓋	5区	SX21		(72.0)	22.0	(24.0)							
42 5	磁器	酒盃	5区	SP27		(71.0)	(53.0)	(19.0)				染付	白色	白色	外面:團紋
42 6	陶器	皿	5区			(122.0)	(40.0)	27.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤灰褐色	灰褐色	唐津、見込に妙口回転切 17C	
42 7	陶器	皿	5区	SK33		(78.0)	43.0	(24.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	灰褐色	唐津、見込に妙口割り出し高台	
42 8	陶器	酒盃	5区			(76.0)	34.0	36.1	ロクロ		鉄輪	灰褐色	灰褐色		
42 9	陶器	不明	5区	SX29		13.0		40.0			鉄輪		褐色	五連の脚足か	
42 10	陶器	玩具	5区			63.0	12.5	19.0		灰釉、 赤色釉			褐色	褐色	船
42 11	土師器	皿	5区	X=193753.094 Y=43472.773 H=140.083	RP23	111.0	(70.0)	22.5	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ			褐色	褐色	かわらけ 回転切削 し漏部に墨
42 12	土師器	皿	5区	X=193762.0 Y=43469.0				(23.0)	ロクロ	ロクロ			褐色	褐色	かわらけ
42 13	土師器	用途不明品	5区			(144.0)	(114.0)	56.0	ナデ	ナデ					内面被熱 底部ナデ
42 14	瓦器	烟袋	5区	SX22		(192.0)	(195.0)	(31.5)	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ					
42 15	土製品	用途不明品	5区	SX22		(25.0)	(24.0)	(13.0)							粘土は剽沙含む 烧成 度の差か?
42 16	土師器	用途不明品	5区			(51.0)	(57.0)	6.5	ナデ	ナデ					粘土に剽沙を含む撫面 を指で押し圧: 烧成度 の差か?
42 17	石製品	石臼	5区			194.0	434.5	173.0							下部
42 18	古鉄		5区	X=193739.0 Y=43472.0 D=193758.973 Y=43469.084 H=140.080	RM2										治平通寶(真書)
42 19	古鏡		5区	SD89		(106.0)	(58.0)	(20.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		赤褐色		元萬通寶
43 1	陶器	罐	5~8	SX21		(106.0)	(58.0)	(20.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	染付	白色	白色	割り出し窓台 在地系 胎土目2付着 渡熱
43 2	磁器	皿	4区	SX21		90.0	52.0	15.7							空引小皿 見込:陽刻 「寿」 濱戸美濃 近代
43 3	磁器	そば猪口	4区			(68.0)	(52.0)	(34.5)				染付	白色	白色	18~19C
43 4	磁器	蓋	4区			(92.0)	44.0	27.0				染付	白色	白色	外面:團紋 内面:雲紋 見込:被絵紋 19C
43 5	磁器	碗	4区	頃瓦		(96.0)	(41.0)	(48.0)							外面:雪輪紋 19C
43 6	磁器	碗	4区	頃瓦		(126.0)	(52.0)	49.0				染付	白色	白色	外面:尖角碗底始部 43.7とセット 近現代
43 7	磁器	皿	4区			(134.0)	(54.0)	40.5				染付	白色	白色	43.6とセット 吹き瓶 院の食器か 近現代
43 8	磁器	蓋	4区			(38.0)	27.5	(26.5)							京焼 高台:平安光景 近現代
43 9	ガラス	牛乳瓶	3区	中央		22.0	35.0	159.5							5勺
43 10	ガラス	牛乳瓶	3区	中央		20.0	37.0	146.0							5勺
43 11	金属	匙	3区			32.0	6.5	6.5							三十年式実施 1897 ~1907 安政直有り
43 12	磁器	碗	2区			(59.0)	(36.0)	(25.0)				染付	白色	白色	高台砂目 18C 内面: こんなぐ印押 外面:草花紋 18C 後半
43 13	磁器	碗	2区			(108.7)	40.0	(45.0)				染付	白色	白色	

表 13 遺物観察表(11)

回 No.	種別	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	L径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考		
43 14	磁器	罐	2区			98.0	39.0	50.0		染付	灰白色	白色	内面:青軸卓紋 底面 窓口 18C 後半				
43 15	磁器	罐	2区					(34.0)		染付	灰白色	灰白色	縦條文 外面:青軸紋 18C 後半				
43 16	磁器	罐	2区			92.0	37.0	(25.0)		染付	灰白色	灰白色	内面:二重網目紋 18C 後半				
43 17	磁器	罐	2区			97.0	(39.0)	[43.0]		染付	乳白色	白色	内面:斑紋? 19C 前半				
43 18	磁器	罐	2区			(116.0)	(76.0)	21.0		染付	白色	白色	内面:菊花紋 18C				
43 19	磁器	罐	2区			90.0	(32.0)	(24.0)		染付	白色	白色	内面:菊花紋 内面:草 紋 18C 後半				
43 20	磁器	罐	2区					(31.5)		染付	灰白色	灰白色	内面:花唐草紋 外面: 唐草紋 18C 後半				
44 1	磁器	罐	2区			(212.0)	(152.0)	(21.0)		染付	白色	白色	内面:唐草 18C 後 半				
44 2	磁器	罐	2区			(126.0)	(63.0)	32.5		染付	白色	白色	内面:菊花紋 外面: 唐草 18~19C				
44 3	磁器	罐	2区			(133.0)	(84.0)	(23.0)		染付	白色	白色	内面:菊唐草 瓢込:蛇 ノリ輪割ぎ 18C 後半				
44 4	磁器	罐	2区			82.0	(46.0)	(13.0)		染付	灰色	灰色	内面:山水紋 19C 前 半				
44 5	磁器	鉢	2区			(156.0)	(100.0)	(48.0)		染付	白色	白色	外側:青磁 内面:格子 紋、草花紋 蛇口高台 18C 後半				
44 6	磁器	鉢	2区			(132.0)	(102.0)	(34.5)		染付	白色	白色	重ね跡 外面:みじん 唐草				
44 7	磁器	蓋	2区			(137.0)	(154.0)	(34.0)		染付	白色	白色	段の蓋 外面:唐草 雲輪 18C 後半				
44 8	磁器	花瓶	2区			(18.0)	(11.0)	(37.0)		染付	白色	白色	外側:復古 18C 後半				
44 9	磁器	酒呑	2区			(56.0)	24.0	(17.3)		白釉	白色	白色	無紋 18C 後半?				
44 10	磁器	蓋	2区					(70.5)	クロロ	クロロ	染付	灰白	内面に付着物(葉) 肥前	外側:植物紋 18C?			
44 11	陶器	蓋	2区			(55.0)	(68.0)	9.5		青磁	褐灰白	灰白色	上部につまみ頭肥前有 色 大堀相馬				
44 12	陶器	罐	2区			(76.0)	41.0	(18.0)	クロロ	クロロ	灰釉	黄白灰 色	内面:山水紋 肥前 肥前 17C 後半?				
44 13	陶器	罐	2区			(83.0)	51.0	(26.0)	クロロ	クロロ	灰釉	黄白灰 色	肥前 17C 後半?				
44 14	陶器	罐	2区			(68.0)	39.0	(16.0)	クロロ	クロロ	灰釉	黄褐色	削り出し高台 大堀相 馬 施釉	18~19C			
44 15	陶器	罐	2区			(91.0)	(58.0)	(14.0)	クロロ	クロロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	見込:梅横紋收縮 削 り出し高台 高台無施釉			
44 16	陶器	罐	2区			(77.0)	(32.0)	(32.0)		灰釉	白色	白色	削り出し高台 大堀相 馬 18~19C				
44 17	陶器	罐	2区			(128.0)	(79.0)	26.5	クロロ	クロロ	灰釉	灰褐色	灰褐色	削り出し高台 大堀相 馬 唐耗			
44 18	陶器	罐	2区			(58.0)	(31.0)	(14.0)	クロロ	クロロ	灰釉	白褐色 (白)	白褐色	削り出し高台 大堀相 馬 唐耗			
44 19	陶器	罐	2区			(84.0)	(38.0)	(27.0)	クロロ	クロロ	灰釉	灰褐色	灰褐色	高台無施釉 削り出し し高台 大堀相馬 18~ 19C			
44 20	陶器	罐	2区			(97.0)	(43.0)	(39.0)	クロロ	クロロ	灰釉	灰白色	灰白色	高台裏無施 釉 大堀相馬 18~ 19C			
44 21	陶器	罐	2区			(48.0)	(30.0)	(13.0)					灰釉(淡 黄)	灰黄	高台裏無施 釉		
44 22	陶器	罐	2区						(19.0)	クロロ	クロロ	灰釉	黄褐色	削り出し し高台			

## III 調査の成果

表 14 遺物観察表(12)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ (厚さ)	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
44_23	陶器	皿	2区			986.0	47.0	(17.0)	口クロ	口クロ	灰釉				削り出し高台 輪壳皿 潮ノ美窯 18C
44_24	陶器	皿	2区			(122.0)	87.0	(24.0)	口クロ	口クロ	灰釉	褐色	褐色		内部白釉有 削り出し 高台
44_25	陶器	鉢	2区					(61.0)	口クロ	口クロ	灰釉				
45_1	陶器	蓋	2区			(82.0)	(53.0)	15.0	口クロ	口クロ	灰釉	灰白色	灰白色		大屋相馬 18~19C 色
45_2	陶器	蓋	2区				(77.0)	(44.0)	(18.0)	口クロ	縫部 ナデ	黄褐色	黄褐色	つまみ内高 削り出し 高台 内部無施釉 断 面齊耗	
45_3	陶器	壺	2区			(19.5)	36.0	(18.0)	口クロ		無施釉	黄褐色	黄褐色		
45_4	陶器	壺	2区			(44.0)	36.5	44.5	口クロ	口クロ	灰釉	褐色	褐色	輪壳付 底部切	
45_5	陶器	仏壇	2区			(43.0)	(48.0)	(43.0)	口クロ	口クロ	灰釉	灰白色	灰白色	輪壳系切	
45_6	陶器	仏具	2区			(44.0)	(18.0)	(31.0)	口クロ		灰釉	灰白色	灰白色		
45_7	陶器	香炉	2区					(19.0)	口クロ	口クロ	白花瓶 土	黄褐色	黄褐色		
45_8	陶器	唐利	2区				(53.0)	口クロ	口クロ	口クロ	灰釉			油透利 47.1と同系統	
45_9	陶器	唐利	2区			(74.0)	(66.0)	(28.0)	口クロ	口クロ	灰釉	灰白色	灰白色	底部ナデ 剥れ山口磨耗	大屋相馬か
45_10	陶器	擂鉢	2区			(168.0)	(124.0)	(38.0)	口クロ		鉄泥釉	褐色	褐色	底部穿孔	
45_11	陶器	擂鉢	2区			(201.0)	(117.0)	(55.0)	口クロ	口クロ	鉄泥釉	褐色	褐色	底部ロクナデ	
45_12	陶器	擂鉢	2区				(39.0)			鉄泥釉	赤褐色			使用前有	
45_13	陶器	擂鉢	2区				(82.0)	口クロ	口クロ	鉄泥釉	赤褐色			胎土に砂粒を含む	
45_14	陶器	擂鉢	2区				(40.5)	口クロ	口クロ	無施釉	赤灰褐色	明灰褐色			
45_15	陶器	擂鉢	2区				(35.0)							赤褐色	
45_16	陶器	擂鉢	2区				(41.5)			鉄泥釉	赤褐色				
45_17	陶器	擂鉢	2区				8.5			鉄釉	暗褐色	暗赤褐色			
45_18	陶器	擂鉢	2区				13.5	口クロ	口クロ	鉄釉	褐色	褐色			
45_19	陶器	擂鉢	2区				(9.0)	口クロ	口クロ	鉄釉	暗赤褐色	暗赤褐色		剥れ山口磨耗	
45_20	陶器	擂鉢	2区				(62.0)	口クロ	口クロ	鉄釉	褐色	褐色			
45_21	陶器	擂鉢	2区				(51.0)	口クロ	口クロ	鉄釉	暗赤褐色	褐色			
45_22	陶器	擂鉢	2区				(89.0)	口クロ	口クロ	鉄釉	暗褐色	褐色			
45_23	陶器	擂鉢	2区				(72.0)	口クロ	口クロ	鉄釉	暗褐色	褐色			
45_24	陶器	擂鉢	2区			(333.0)	(231.0)	(86.0)	口クロ	口クロ	鉄釉	赤褐色	赤褐色	内部に藍が付着 明治 ~昭和	
46_1	陶器	甕	2区			675.0	260.0	900.5					粗砂質		
46_2	2陶器	甕	2区			740.0	255.0	ナデ	ナデ				粗砂質	内部に藍が付着	
47_1	陶器	甕	2区			(26.0)	(45.0)	口クロ	口クロ	鉄釉		褐色	45.0と同系統		
47_2	2陶器	甕	2区				(56.0)	口クロ	口クロ	灰白色	赤褐色	赤褐色		剥離	
47_3	陶器	埴輪	2区			(94.0)	(77.0)	18.0			無施釉	褐色		輪壳系切 中央に穿孔	
47_4	土師器	皿	2区					(32.0)	口クロ	口クロ	ナデ ナデ			かわらけ ロクロナデ 外全面をヘラで擦で ている	
47_5	瓦器	唐	2区				(52.0)					黒色	黄褐色	外面に粒状の押出紋	
47_6	瓦器	火鉢	2区				(46.0)			無施釉	黒褐色	黒褐色		摩耗 47.7のサイズ違 い 外面に押出紋	
47_7	瓦器	火鉢	2区					(20.0)	口クロ	無施釉	黒褐色	黒褐色		47.6とサイズちがい 底部ナデ 外部に押出 紋	
47_8	瓦	軒平瓦	2区			(64.0)	37.0			無施釉	黒灰色	灰褐色	山形市教委分類FG1		
47_9	瓦	軒平瓦	2区			(87.0)	37.0	ナデ	ナデ	無施釉	黑色	灰褐色	山形市教委分類FG1		
47_10	瓦	軒平瓦	2区	埴輪		(60.0)				無施釉	黒褐色	灰白色	山形市教委分類FG1		
47_11	瓦	軒平瓦	2区			(56.6)	(24.5)	38.0		無施釉	黑色	灰褐色	山形市教委分類FG1か 胎土に大粒砂を含む		
47_12	瓦	軒平瓦	2区				(23.0)	(47.5)		鉄釉	暗赤褐色	黒褐色	鐵鋸下層		

表 15 遺物観察表(13)

回	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	L径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外曲	内曲	装飾・施釉	外面 色調	胎土	備考	
47	13	瓦	軒平瓦	2区			(58.0)			47.0			施釉	暗赤褐色	赤褐色	近代?	
47	14	瓦	軒平瓦	2区			(66.0)			37.0			無施釉	黒灰色	灰褐色		
47	15	瓦	軒丸瓦	2区			(78.0)	(103.0)	18.0	ナデ	あて 布直	施釉	暗赤褐色	黒褐色			
47	16	瓦	軒丸瓦	2区			(18.0)			(32.0)			無施釉	黒色	灰白色		
48	1	木製品	礎石	2区	塙跡			73.0	52.0	22.0						中碳	
48	2	木製品	礎石	2区				61.0	53.0	9.0							
48	3	木製品	檜構の 脚	2区				27.0	25.0	9.0						下層「王符」落葉樹	
48	4	木製品	板材	2区	塙跡		(130.0)	(78.0)	7.0							表に墨書 穿孔4箇所	
48	5	木製品	板材	2区	塙跡		130.0	30.0	8.0							表裏両側面に漆塗り	
48	6	木製品	礎	2区		最 下 層	48.0	(51.0)	5.0							漆塗り	
48	7	木製品	礎	2区	塙跡		230.0	6.0	6.0								
48	8	木製品	礎	2区			(238.0)	(9.0)								使用面跡有り	
48	9	ガラス 製品	牛乳瓶	2区		表 層	(20.0)	45.0	(154.0)								
48	10	陶器	甕	11区	SK8					89.0						48-11と同一固体	
48	11	陶器	甕	11区	SK8					(82.0)	クロコ	ロクロ	白記釉	赤褐色	赤褐色	外郭花紋 平清水	
48	12	陶器	塙跡	11区	SK8		304.0	120.0	142.0	ロクロ	ロクロ	施釉	暗褐色	暗褐色	削り出し高台 純部穿孔 植木鉢に転用	48-10と同一固体 近現代	
48	13	磁器	甕	11区	SD16		(116.0)	75.0	(25.0)			染付	白色	白色	豆込: 松竹梅紋 型紙 刷り 高台純部穿孔 漆口美濃 近代		
48	14	陶器	甕	11区	SD16		(217.0)	11.0	(60.5)	ロクロ	ロクロ	白記釉	暗褐色	暗褐色	削り出し高台 内面: 山水紋 平清水		
49	1	陶器	瓶	11区	SD16		(188.0)	102.0	(74.0)	ロクロ	ロクロ	施釉					
49	2	磁器	甕	11区	SD15		(164.0)	164.5	(43.0)			染付	白色	白色	L口唐草紋 外面: 菊花紋 近代		
49	3	磁器	甕	11区	SD14		(262.0)	(177.0)	(28.5)			染付	白色	白色	内面: 花蝶紋 型紙 施地不明 近代		
49	4	磁器	甕	11区	SD14		(97.0)	46.0	(29.0)			色絵	白色	白色	内面: 松竹梅 外面: 早紋 菊紋 近代		
49	5	磁器	甕	11区	SD14		(75.0)	40.0	48.0			白磁	白色	白色	見込: 中央「宋家堂」、開り「相馬前通支店」 施地不明 近代		
49	6	磁器	甕	11区	SD14		(137.0)	66.0	(54.0)						プリント 紗口 外面 竹紋 近代		
49	7	磁器	壺	11区	SD14		57.0	28.0	29.0						外縁: 丸紋 施版転写 内面: 寸級 近代		
49	8	磁器	人形	11区	SD14		54.5	(25.5)	(20.0)			色絵	白色	白色	金彩一部 施左側面部に穴 近代		
49	9	陶器	植木鉢	11区	SD14		(212.0)	(92.0)	164.0			白墨繪	赤褐色	灰褐色	外縁墨絵 在地 近代		
49	10	瓦器	羽釜	11区	SD14					(47.0)			無施釉	黑色	黄褐色	断面磨耗	
49	11	瓦器	蒸しかまど	11区	SD14					(61.0)			ナデ	黒色	赤褐色	「ムシカマド」印刷有	
49	12	ガラス 製品	薬瓶	11区	SD14		19.0	26.8	43.8						両面用セメント 19C 末ごろ		
49	13	磁器	甕	11区	SK7		(140.0)	(11.1)	(37.0)			色絵	白	白	内面: 丸紋 外面: 丸紋と唐草 19C		
49	14	陶器	塙跡	10, 11区	SK7					(68.0)			内面: 丸紋 外面: 施釉				
49	15	ガラス 製品	薬瓶	11区	SK7		10.0	23.0	62.0						皮膚病薬 尾澤製造 20C 前半		
49	16	古鏡		11区	SK7										-銅鏡質 裏: 鏡紋		

III 調査の成果

表 16 遺物観察表(14)

図	No.	種別	器形	調査区	遺構及び 出土地點	層 位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
50	1	磁器	壺	11区	SK6			63.0	(26.0)	42.5						外面:菊花紋 文字多 數不明 近代
50	2	磁器	人形	11区	西T				32.0	53.5			色絵		白釉色	「萬古」印 布袋像 水 差しか
50	3	陶器	茶碗	11区	北T		(69.5)	36.0	(23.5)	口クロ 削り	口クロ	直輪	黄灰周 色	黄灰周 色	天口茶碗 脱胎に砂粒 を多く含む 削り出し 高台	
50	4	陶器	皿	11区	北T		(104.0)	(37.0)	(26.0)		灰輪	赤褐色				
50	5	陶器	甕	10, 11区	SK13		(186.5)	135.0	52.0		ロクロ	跳泥輪	赤褐色	赤褐色		唐津
50	6	陶器	土製品	11区			28.0	12.0	17.0			無施釉	赤褐色	赤褐色	水舟	
50	7	瓦器	跡	11区					(56.0)		ミガキ		黒色	黒褐色		外面に網紋
50	8	磁器	甕	11区			(194.0)	(268.0)	(74.0)	タタキ アテ						
50	9	土師器	皿	11区			(97.0)	(79.0)	(16.0)	ロクロ	ロクロ					かわらけ 回転系切→ 子手 表土
50	10	土師器	燒塗瓶	11区	南壁西側				(43.0)	ナデ ナデ	ナデ ナデ			黄褐色		胎土に長石含む 手づ くね
50	11	瓦器	甕	11区	南壁西側				(28.0)			無施釉	雪褐色	白釉色		削り出し高台
50	12	磁器	碗	1区	SK86		(72.0)	(27.0)	45.5		染付	灰白色	白色			外面:雨附り紋 高台 砂付 19C
50	13	磁器	跡	1区	SK86		(146.0)	(74.0)	(54.0)		染付	白色	白色			外面:菊花紋 唐草 外面:唐草紋 龍紋 19C
50	14	磁器	跡	1区	SK86				26.5			色絵	白色	白色		外面:田代紅葉紋 19C
50	15	磁器	皿	1区	SK86		(134.0)	75.0	40.0		染付	灰白色	灰白色			内面:草花紋 こんなや く印判 外面:唐草紋, 酒溝 18C 後半
50	16	磁器	皿	1区	SK86		(127.0)	43.0	38.5	ロクロ	ロクロ	染付	灰色	灰色		内面:二重斜格子紋 見込 蛇目輪割ぎ 刻 り出し高台 緩不成良 18C 中後
50	17	磁器	皿	1区	SK86		119.0	46.0	38.0							内面:二重斜格子紋 見込 蛇目輪割ぎ 18C 後半
50	18	磁器	皿	1区	SK86		(89.5)	(56.0)	(20.0)		染付	灰白色	灰白色			内面:紅葉曲山紋 19C 以降
50	19	磁器	皿	1区	SK86		(117.0)	(62.0)	19.0		染付	白色	白色			内面:紙人物紋、瓶 甲紋、青海波 近代
51	1	磁器	皿	1区	SK86		(86.0)	55.0	17.5		染付	白色	白色			輪花紋 内面:椿 蓋 現代
51	2	磁器	迹	1区	SK86		(104.0)	(56.0)	(56.2)		青磁	青緑色	白色			19C 以降
51	3	磁器	伝旗員	1区	SK86		(58.0)	39.0	(38.0)		染付	灰白色	灰白色			18C
51	4	陶器	碗	1区	SK86		93.0	34.0	55.0	ロクロ	灰輪	黄灰	黄灰			削り出し高台 高台内 外無施釉 大幅相馬
51	5	陶器	火入	1区	SK86				(34.0)	ロクロ	ロクロ	灰輪		黒褐色		内面:無施釉 在地か
51	6	陶器	埴跡	1区	SK86		(234.0)	146.0	(134.0)	ロクロ	ロクロ	灰輪	赤褐色			
51	7	陶器	甕	1区	SK86		(193.0)	(358.0)	(164.0)	ロクロ	ロクロ	灰輪	褐色		内外施釉 在地	
51	8	陶器	茶碗	1区	SK86		(46.0)	27.0	35.0	ロクロ	ロクロ	灰褐色	灰褐色		内面:粗目紋切	
51	9	瓦器	火跡	1区	SK86				(67.0)		ロクロ	無施釉	黒褐色	灰白		窓枠付中国紋火跡 明治初期
52	1	磁器	碗	1区	SX79		98.0	(40.0)	(51.0)		染付	白色	白色			外輪:雪輪紋 18C 後 半
52	2	磁器	小皿	1区	SX79		(47.0)	(20.0)	15.5		染付	白色	白色			見込:こんなやく印判 19C
52	3	陶器	碗	1区	SX79		(64.0)	(46.0)	(22.0)	ロクロ	ロクロ	灰輪	灰色	灰色		大腹相馬 削り出し高 台 高台内外無施釉
52	4	陶器	漏斗	1区	SX79		(73.0)	(37.0)	(34.0)	ロクロ	ロクロ	灰輪(青 灰)	黄灰	黄灰		削り出し高台 高台内 外無施釉
52	5	磁器	碗	1区	SX85		(99.0)	44.0	(43.0)				染付	白色	白色	内面:宝珠紋 外面:古 祥紋 高台:朱書き 18C

表 17 遺物観察表(15)

回 No.	種類	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	L径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外曲	内曲	装飾・ 施釉	外曲 色調	胎土	備考
52_6	磁器	器物	1区	SX85			(109.0)	(104.0)	(50.0)			染付	白色	白色	19C
52_7	陶器	躰	1区	SX85			(159.0)	(147.0)	(37.0)			灰釉	灰色		大型粗馬
52_8	磁器	酒盃	1区	SX85			64.0	22.0	28.0			染付	白色	白色	口縁部赤彩 高台:波紋 内面:「内屋」底面に窓有 近現代
52_9	磁器	躰	1区	SX72			(119.0)	(52.0)	70.0			染付	白色	白色	外曲:青磁 内面:花菱紋 見込:こんなに早く印判 高台:舟形 19C
52_10	磁器	躰	1区	SX72			(160.0)	(148.0)	64.0			染付	白色	白色	重ね跡 外面:花紋 窓破損 代
52_11	陶器	皿	1区	SX72			(94.0)	(36.0)	57.0	□クロ	□クロ	灰釉	灰色	灰色	削り出し高台 高台内無施釉 大型粗馬
52_12	磁器	蓋	1区	SX72			72.0	24.0	29.0			色繪	白色	白色	内面:山形 楊二葉 小舟旅館
52_13	磁器	蓋	1区	SX72			80.0	30.5	32.5			白磁			内面に付着物 見込:金彩で「龍建」
52_14	陶器	躰	1区	SX72			(246.0)	(117.0)	(74.0)	□クロ	□クロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	削り出し高台 在地系、平滑丸刃
52_15	陶器	躰	1区	SX72			(220.0)	(185.0)	(64.5)	□クロ	□クロ		黄褐色	52-15と同系 在地系	
52_16	陶器	甕	1区	SX72			(184.0)	(40.0)	(59.0)	□クロ	□クロ	灰釉	黄褐色	52-15と同系 見込:みに日跡 削り出し高台	
53_1	陶器	甕	1区	SX72			(154.0)	203.0	244.0	□クロ	□クロ	内外灰 釉 口 縁海鼠 釉	灰褐色	灰褐色	54-5と同系 底部ロク ロナデ 燃成時にゆがみ み
53_2	陶器	甕	1区	SX72			(41.0)	(37.0)	(48.5)	□クロ	□クロ	鉄釉	灰褐色	灰褐色	回転系切 底部に輪孔
53_3	陶器	焼台	1区	SX72			100.0	91.5	25.5			自然釉	褐色	褐色	回転系切
53_4	陶器	躰	1区	SK84			362.0	139.0	203.0	□クロ	□クロ	外透明 釉 内 乳白釉	赤褐色	赤褐色	削り出し高台 見込:日痕6つ
53_5	陶器	桶木跡	1区	SK84			(260.0)	(216.0)	(87.0)	□クロ	□クロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	平流水 外面:山水紋 口縁部:雲紋 19C 後半
54_1	磁器	皿	1区	SD68			(98.0)	(38.0)	57.0			染付	灰白色	灰白色	外面:唐草花紋 18C 後半
54_2	磁器	蓋	1区				(58.0)	(43.0)	(12.0)			染付	白色	白色	内面:丸絞 外面:朱墨 き「はたごこ町」 19C
54_3	陶器	土瓶	1区	SX71			84.0	(129.5)	(30.0)	□クロ	□クロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	外に縦縞、鉄釉で施紋 大型粗馬
54_4	陶器	甕	1区	SD82			(82.0)	(64.0)	(126.0)	□クロ	□クロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	削り出し高台 外面に 横筋紋 平流水
54_5	陶器	甕	1区				222.0	122.0	282.0	□クロ	□クロ	灰釉 口縁海 鼠釉	灰褐色	灰褐色	53-1と同系 底部ナデ 内部に日跡5つ 在地
54_6	土器	甕	1区	X=193678.0 Y=43424.0			(97.0)	(76.0)	21.0	□クロ	□クロ	ナデ ナデ			かわらけ 回転糸切→ ナデ
54_7	土器	焼台	1区	東壁					(21.0)	□クロ	□クロ	ナデ ナデ			底盤ロクロナデ 外面 保有者
54_8	瓦器	焼	1区						(56.0)	□クロ	□クロ	ナデ ナデ	黒褐色	灰褐色	外側:梅花紋、電紋の 印刷
54_9	瓦器	火跡	1区				(304.0)		(65.0)	ナデ	ナデ				表面:梅花紋、電紋の 印刷
54_10	陶器	皿	7区	SX38			(104.0)	(66.0)	(22.0)			灰釉	赤褐色	赤褐色	瀬戸美濃
54_11	瓦	平瓦	7区	SX38			(86.5)	(108.5)	27.0				灰里闌	灰	
54_12	瓦	平瓦	7区	SX38			(68.0)	(154.0)	25.0						灰褐色
55_1	1区	平瓦	7区	SX38			(133.0)	(82.7)	24.0				聖灰闌	灰褐色	被熱
55_2	2石製品	石跡	7区	SX38			172.5	(103.5)	68.0						底部に脚有
55_3	3石製品	内壁状 石製品	7区	SX38			21.5	23.0	6.5						

## III 調査の成果

表 18 遺物観察表(16)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	高さ	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
55 4	石製品	鏡	7区	SX38		(56.5)	(42.5)	(7.0)							
55 5	陶器	皿	7区	SX39				(23.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		赤褐色	重ね焼き 漬け美濃	
55 6	古鉢		7区	SX39											永樂通寶
55 7	瓦	平瓦	7区	SX39		(115.0)	(86.5)	23.0	ナデ				黒褐色	灰褐色	底部ナデ 斜れ山形瓦 大屋根馬鹿
55 8	磁器	碗	7区	SX101		(89.0)	34.0	41.5	ロクロ	ロクロ	染付		灰白		削り出し高台 内面に付着物 破損後に紅皿に転用 焼成不良 高台:大明年製くずし 外面:雪輪紋 18C後半
55 9	磁器	碗	7区	SX101		(81.0)	(39.0)	(24.0)	ロクロ	ロクロ	染付		灰色		18C後半
55 10	磁器	碗	7区	SX101			(40.5)				染付	白色	白色		外面:幾何文様 19C
55 11	磁器	皿	7区	SX101				(27.0)			染付	白色	白色		外面:唐草紋 内面:花紋 18C後半~19C
55 12	陶器	碗	7区	SX101		90.0	29.0	54.7	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰	黄灰		外縁:白絵植物紋 削り出し高台 高台内外無施釉 大屋根馬
55 13	陶器	小碗	7区	SX101		86.0	37.0	55.5	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰色	灰色		削り出し高台 高台部無施釉 大屋根馬
55 14	瓦器	火入	7区	SX101		(304.5)	(269.0)	(42.0)	ナデ	ナデ	無施釉	黑色	灰褐色		外面に押上紋
56 1	瓦	火葬	7区	SX101				(35.5)	ナデ		無施釉	灰褐色	灰褐色		膠帶
56 2	石製品	砥石	7区	SX101		42.0	46.0	23.0							中斑
56 3	石製品	鏡	7区	SX101		33.0	60.9	19.2							
56 4	磁器	皿	7区	SK109				(18.0)			白磁	白色	白色		56-19、57-14と同系 見込:蛇口釉倒ぎ 19C
56 5	陶器	碗	7区	SK109		(97.0)	41.0	(44.0)	ロクロ	ロクロ	内面:灰釉 外 面:灰泥 釉		黄灰色	壁面:鐵錫渦巻 漬け 削り出し高台 18C 後半	
56 6	瓦	丸瓦	7区	SK109			(102.5)	(25.0)	ヘラ あて 三才手				黑色	灰褐色	
56 7	磁器	碗	7区	SK115		(82.0)	(42.0)	(24.0)			染付	白色	灰白		外面:雪輪紋 见込:大 明年製くずし 18C前 半
56 8	磁器	碗	7区	SK115				(35.0)			染付	白色	灰白		外面:草花紋 18C
56 9	陶器	碗	7区	SK115		(59.0)	42.0	(21.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色		削り出し高台
56 10	陶器	土瓶	7区	SK115		(132.0)	(74.0)	(27.5)			銅青斑	黄灰白	灰色		獣耳目付足 大屋根馬
56 11	磁器	碗	7区	SK113				(43.0)			染付	白色	白色		外面:唐草紋 18C後 半~19C前半
56 12	磁器	碗	7区	SK113									白色		外面:格子紋 19C
56 13	陶器	埴輪	7区	SK113		(97.0)	(116.0)	(33.0)				褐色	暗褐色		回転糸切 中央部に穿 孔
56 14	磁器	蓋	7区	SK113		(68.0)	(36.0)	(15.0)			染付	白色	白色		外面:唐草紋 18C後 半~19C前半
56 15	陶器	土瓶	7区	SK113		47.0	48.0	94.5	ロクロ	ロクロ	銅青斑	黄褐色	黄褐色		見きしに穴2つ 削り 出し高台 獣耳目3つ 付着 烟熱 大屋根馬
56 16	瓦	丸瓦	7区	SK113		(94.0)	(65.5)	20.0	ナデ	あて 布痕	灰釉	暗赤褐色	黑褐色		
56 17	磁器	碗	7区	SK110		(106.0)	(44.0)	63.0			染付	灰白	灰白		外面:二重格子 内面: 青花波、草紋 19C前 半
56 18	磁器	碗	7区	SK110		78.0	(38.0)	48.0							外面:扇子紋 19C
56 19	磁器	皿	7区	SK110		(77.0)	40.0	(17.0)				白褐色	白色	56-4、57-14と同系 見込:蛇口釉倒ぎ 19C	
56 20	磁器	花瓶	7区	SK110		16.0		30.5			染付	青白色	白色		無地 18C後半~19C
56 21	磁器	仏壇	7区	SK110				(35.5)							

表 19 遺物觀察表(17)

回 No.	種別	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	L径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外曲	内曲	装飾・ 施釉	外曲 色調	胎土	備考
57 1	陶器	器	7区	SK110		(71.0)	(88.0)	(16.0)							60-6の器 大堀相馬
57 2	瓦器	灰瓦	7区	SK110				(69.0)		ナデ	ロクロ	無施釉	暗褐色	暗褐色	
57 3	瓦器	平瓦	7区	SK110		(110.3)	(115.5)	24.5					黒褐色	灰褐色	
57 4	磁器	碗	7区	ST107		(92.0)	36.0	(46.0)			染付	灰白	灰白		内面:一重刷口紋 見 込:花紋 外面:二重 刷口紋 高台:満脛 18C後半
57 5	磁器	碗	7区	ST107		(79.0)	38.0	(27.0)			染付	灰白	灰白		高台:大明牛頭紋 なし 外面:草花紋か 18C 後半
57 6	磁器	碗	7区	ST107					22.5		染付		灰白		内面に漆 内外面:二 重刷口紋 18C後半
57 7	磁器	碗	7区	ST107		(98.0)	(39.0)	54.0			染付	灰白	灰白		外面:菊花紋 高台:満脛 18C後半
57 8	磁器	碗	7区	ST107		(88.0)	38.0	(48.0)			染付	灰白	白色		外面:菊紋 高台:大 明牛頭紋 18C後半
57 9	磁器	碗	7区	ST107		100.0	40.0	49.0			染付	白色	白色		外面:花蝶紋 19C前 半
57 10	磁器	皿	7区	ST107		(122.0)	(23.0)	39.0							内面:二重格子紋 見 込:蛇目難割ぎ 18C 前
57 11	磁器	皿	7区	ST107		(93.0)	(49.0)	(20.5)			染付	灰白	灰白		内面:草花紋 全体に 貫入 18C後半～19C 前
57 12	磁器	そば猪 口	7区	ST107		(60.0)	44.0	(28.5)			染付	白色	白色		外面:唐草紋 高台:角 福 18C後半
57 13	磁器	皿	7区	ST107		(62.0)	(22.0)	(25.0)							外面:草花紋? 19C 前
57 14	陶器	碗	7区	ST107		(132.0)	(42.0)	43.0	ロクロ	ロクロ					見込:波打輪割ぎ 刃 り出し高台 肥前 18C後半
57 15	陶器	碗	7区	ST107		(90.0)	(30.0)	54.5	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰色	灰白		削り出し高台 高台内: 外無施釉 大堀相馬 18C後半
57 16	陶器	碗	7区	ST107		(113.0)	(46.0)	62.5	ロクロ	ロクロ	内面:灰 釉、外 面:铁釉	灰白	灰白		外面下部にロクロによる 継割 大堀相馬 18C後半以降 19Cか
57 17	陶器	碗	7区	ST107		(106.0)	(76.0)	(41.0)							
57 18	陶器	碗	7区	ST107		(101.0)	(34.0)	58.5	ロクロ	ロクロ	灰釉		灰色		削り出し高台 大堀相 馬
57 19	陶器	碗	7区	ST107		96.5	38.0	57.5	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰	黄灰		削り出し高台 高台内: 外無施釉 大堀相馬
57 20	陶器	碗	1, 7 区	ST107		(105.0)	(39.0)	43.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色		高台内無施釉 肥前?
57 21	陶器	碗	7区	ST107		(88.0)	(48.0)	(17.0)	ロクロ	ロクロ	継割釉				削り出し高台 見込: 蛇ノ目輪割ぎ 肥前 17C?
57 22	陶器	鉢	7区	ST107		(179.0)	(108.0)	(42.0)				外面:铁 釉、内 面:灰 釉	赤褐色	赤褐色	内面に沈線紋
57 23	陶器	鉢	7区	ST107					(46.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄白色		大堀相馬系
57 24	陶器	蓋	7区	ST107		(110.0)	(74.0)	(31.0)	ロクロ	ロクロ	無施釉	赤褐色	赤褐色	外面上に多量の付着 物、虹胡巻に転用	
58 1	陶器	罐	7区	ST107					(49.0)				赤褐色		
58 2	陶器	罐	7区	ST107					(19.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	胎土付 在地	
58 3	陶器	小甕	7区	ST107		(47.0)	(29.0)	41.5					赤褐色		大堀相馬
58 4	陶器	小型甕	7区	ST107		(90.5)	(70.0)	(46.5)	ロクロ	ロクロ	灰釉		赤褐色		右地
58 5	陶器	甕	7区	ST107		(111.0)	(62.0)	(43.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		褐色	底部ロクロナダ	
58 6	陶器	甕	7区	ST107		(178.0)	(180.0)	(100.0)			灰釉		灰白	胎土に砂を多く含む 右地	
58 7	陶器	素陶	7区	ST107		(52.0)	(13.0)	(41.0)	ロクロ	ロクロ	内面:铁 釉	赤褐色	赤褐色	内面に付着物有	

## III 調査の成果

表 20 遺物觀察表(18)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(厚さ)	高さ	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
58 8 陶器 杯	素面	1, 7	ST107			47.0	(37.0)	53.0	ロクロ	ロクロ	鉢輪	黄灰色	黄灰色	円柱系切 内面:爆付 着 底部:輪孔有	
58 9 陶器 杯	素面	7区	ST107			(50.0)	37.0	50.5	ロクロ	ロクロ	鉢輪	黄白	黄白	底部:輪孔有	
58 10 陶器 不明	7区	ST107				(116.0)	(217.0)	(38.0)	ロクロ	ロクロ	縁輪			全体施釉 在地系	
58 11 土師器 壺	7区	ST107						(38.0)						平安	
58 12 土師器 盆	7区	ST107				(58.0)	(39.0)								
58 13 土製品 不明	7区	ST107						10.5	ナデ						外面に印刻有 中央に六角六方側ヘラ折り
58 14 瓦 斧瓦	7区	ST107				(87.0)		54.5			無施釉	黒灰褐	灰褐色	山形城分類FD1型式	
58 15 瓦 斧丸瓦	7区	ST107				(83.5)	(129.0)	(33.5)	ナデ		無施釉	灰褐色	灰褐色		
58 16 石製品 破石	7区	ST107				128.0	52.5	25.0						中研 線切面有	
58 17 磁器 盆	7区	SK93						9.0		染付	青灰白	灰白	18C後半		
58 18 磁器 瓢	7区	SK93						3.5		染付	白色	白色	白色	外面:草花紋 内面:花型紋 19Cか	
58 19 磁器 大入れ	7区	SK93				(99.0)	(71.0)	(39.0)		染付	灰白	灰白	18C後半		
59 1 陶器 瓢	7区	SK93						(18.0)		長石釉	黄灰白	志野			
59 2 陶器 瓢	7区	SK93				(82.0)	(37.0)	(29.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	灰黄色	灰黄色	削り出し高台 大腹相馬	
59 3 陶器 瓢	7区	SK93				(33.0)	30.0	(9.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	灰白色	灰白色	削り出し高台	
59 4 陶器 瓢	7区	SK93				(60.0)	39.5	17.5	ロクロ	ロクロ	鉢輪	黄褐色	黄褐色	削り出し高台 高台内茶無施釉 大腹相馬	
59 5 陶器 盖	7区	SK93				(37.0)	(26.0)	(21.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	灰白	灰白	削り出し高台 胎土砂粒多め 内側に鉢輪で取締	
59 6 陶器 土瓶	7区	SK93				(141.0)	(166.0)	(57.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	赤褐色	在地?		
59 7 陶器 豆	7区	SK93						48.5	ロクロ	ロクロ	鉢輪	灰白色	灰白色	在地?	
59 8 須惠器 环	7区	SK93						36.0	ロクロ	ロクロ				回転ハニカマ	
59 9 瓦 平瓦	7区	SK93				(201.0)	(130.0)	(23.0)		無施釉	暗灰褐色	暗灰褐色	被熱、擬付着		
59 10 磁器 瓢	7区	SK95				(92.0)	(34.0)	(31.0)		染付	灰白	灰白	外削:よろけ縞模 見込:斜子紋 19C		
59 11 磁器 瓢	7区	SK95				(98.0)	(31.0)	(46.0)		染付	白色	白色	外削:恐尼紋 19C		
59 12 磁器 瓢	7区	SK95				(17.0)	(41.0)	57.0		染付	白色	白色	外削:よろけ縞模 見込:ハリ直 内削:有くずし 19C		
59 13 磁器 茶碗	7区	SK95				(87.0)	(40.0)	(32.0)		染付	灰白	灰白	外削:斜子紋 19C		
59 14 磁器 瓢	7区	SK95						(18.5)		白磁	白色	灰白	61-4, 61-19と同系 19C		
59 15 磁器 瓢	7区	SK95				(108.0)	(64.0)	23.0					内削:草花紋 外削:唐草、草花紋 19C		
59 16 磁器 瓢	7区	SK95				(97.0)	(52.0)	24.0		染付	白色	白色	内削:花紋 外削:菊花紋 近世		
59 17 磁器 瓢	7区	SK95						(7.0)		染付	灰白	白色	内削:青磁染付 外削:青磁 時期不明		
59 18 磁器 徳利	7区	SK95						7.5					底部に墨書き「わたり」		
59 19 陶器 瓢	7区	SK95				(101.0)	52.0	(36.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	灰白色	灰白色	削り出し高台 大腹相馬	
59 20 陶器 茶	7区	SK95				58.0	37.5	42.0	ロクロ	ロクロ	鉢輪	褐色	褐色	底部ロクロナダ 上部に切込有	
59 21 陶器 織錦	7区	SK95						(48.0)		鉢輪					
59 22 陶器 紅皿	7区	SK95				55.0	28.0	19.0	型押し	ナデ	白配釉	从褐色	底部ナデ		
59 23 陶器 瓢	7区	SK95				(112.0)	(76.0)	(21.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	暗赤褐色	赤褐色	底部ロクロナダ 外に崩土目付 全体被熱	
59 24 陶器 茶	7区	SK95				24.0	(61.0)	(41.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	从色			
59 25 陶器 茶	7区	SK95				37.0	34.5	(68.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	从色			
60 1 陶器 盆	7区	SK95				(120.0)	(74.0)	(71.0)	ロクロ	ロクロ	鉢輪	灰白色	灰白色	大腹相馬 18~19C	
60 2 陶器 土製品	7区	SK95				(38.0)	(22.0)	(13.0)			白配釉に青色釉		赤褐色	用途不明	
60 3 陶器 焼台	7区	SK95				99.0	78.0	14.0			無施釉	赤褐色	赤褐色	回転系切	
60 4 陶器 焼台	7区	SK95				90.0	92.0	22.0			無施釉	赤褐色	赤褐色	回転系切	

表21 遺物觀察表(19)

回 No.	種別	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外曲	内曲	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
60 5	土器	7区	SK95												型変元寶(草書体)
60 6	陶器	土瓶	7区	SK100		78.0	(167.0)	(72.0)	ロクロ	ロクロ	青磁	褐色	黄褐色	57-か器 大坂相馬	
60 7	陶器	素面	7区	SK100		42.0	31.0	24.0	ロクロ	ロクロ	铁釉	褐色	灰褐色	右地	
60 8	陶器	鉢	7区	SK99					16.0	16.0	铁釉	褐色	内白:無施釉		
60 9	陶器	瓶	7区	SK99					162.0	82.0	铁釉	暗赤褐色	暗赤褐色	底部斜削付着	
60 10	磁器	皿	7区	SK33		(144.0)	(75.0)	27.0		染付	白色	灰白	型変刷毛 外面:菊花紋 紋 内面:花紋 近代		
60 11	陶器	蓋	7区	SK33		(48.0)	(21.0)	26.0	ロクロ	ロクロ	透明釉	褐色	削り出し高台		
60 12	陶器	片口鉢	7区	SK33		(118.0)	(98.0)	(33.0)			白泥釉	褐色			
60 13	陶器	鉢	7区	SK33		(240.0)		73.0			釉輪	暗褐色	暗褐色		
61 1	陶器	焼台	7区	SK33		80.5	75.0	21.0			無施釉	赤褐色	赤褐色	回転系切	
61 2	陶器	焼台	7区	SK33		45.0						赤褐色	赤褐色	底部布目痕 2種類 上:白色の小石	
61 3	陶器	焼台	7区	SK33		76.0	82.0	19.5						回転系切 繰り「二」	
61 4	瓦	平瓦	7区	SK33		(132.0)	(225.0)	(20.0)				赤褐色	赤褐色		
61 5	瓦	軒丸瓦	7区	SK70		38.5		13.0	ナデ		無施釉	黑褐色	白灰色		
61 6	陶器	蓋	7区	SK56		(34.0)	(50.5)	(15.0)			灰釉	黄灰	黄灰	京焼	
61 7	陶器	碗	7区	SK55, SK56		110.0	47.0	64.5	ロクロ	ロクロ	鐵部輪	黄褐色	黄褐色	削り出し高台 高台: 印刻	
61 8	陶器	鉢	7区	ST71		(152.0)	(99.0)	(55.5)	ロクロ	ロクロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	用印不明	
61 9	磁器	皿	7区	ST71		89.0	54.5	15.5		染付	白色	白白	白白	上部部に緋色線 「絵透」 現代	
61 10	陶器	片口鉢	7区	ST71		(198.0)	(84.0)	102.0	ロクロ	ロクロ	灰釉			削り出し高台 目皿2つ 在地	
61 11	瓦	端面不明	7区	ST71		(80.0)	(80.5)					無施釉	黄褐色	黄褐色	被熱
62 1	磁器	皿	7区	SK59		(65.0)	(38.0)	(17.0)						見込:虫紋 19C	
62 2	磁器	皿	7区	SK59		159.5	80.5	28.5			色釉	白色	白色	内面:青葉紋 現代	
62 3	磁器	鉢	7区	SK59		145.0	69.0	59.0			染付	白色	白色	内面:山水樓閣圖 漢詩 外側:当較、草較 高台:「喜祥」近代	
62 4	陶器	碗	7区	SK59, SK95		(77.0)	(27.0)	(33.0)	ロクロ	ロクロ	長石釉	黑褐色	黄褐色	削り出し高台 内外被 熱 高台部に付着物 京、信楽系	
62 5	陶器	水盤	7, 9 区	SK59		(185.0)	(26.0)	43.0						9区南、7区南西	
62 6	陶器	鉢	7区	SK59		(324.0)	(144.0)	153.0	ロクロ	ロクロ	鐵輪	褐色	褐色	底部ロクナデ 底部 に焼台付着 底部穿孔 植木鉢に転用	
62 7	陶器	植木鉢	7区	SK59		(148.0)	(70.0)	(111.0)	ロクロ	ロクロ	綠釉	赤褐色	赤褐色		
62 8	陶器	植木鉢	7区	SK59		(245.0)	(161.0)	98.0	型押し	型押し	外海鼠 釉			中央 底部に墨書き「コ シワ」在地	
62 9	陶器	植木鉢	7区	SK59		(113.0)	55.5	69.0		染付	赤褐色	灰褐色	底部切欠3ヶ所		
62 10	壁材		7区	SK59					(61.0)					粗砂多く含む 壁材を 多く含む	
63 1	石製品	石臼	7区	SK59		(290.0)	(320.0)	181.0							
63 2	ガラス	瓶	7区	SK59		14.0	20.0	71.0							
63 3	ガラス	瓶	7区	SK59		10.0	13.0	44.0							
63 4	ガラス	瓶	7区	SK59		18.5	43.0	198.5						牛乳瓶	
63 5	ガラス	瓶	7区	SK59		15.0	48.0	100.0						「BIVMAN」白髪染 昭和14年販売開始	
63 6	磁器	茶碗	7区	SK81		69.0	(31.0)	50.0		染付	白色	白色	高台:昭和 昭和		
63 7	石製品	石材	7区	SK81		(25.0)	(113.0)	84.0						玄武岩 四面は鋸歯に 形成 一面にはノミ痕 有	
63 8	磁器	皿	7区			(78.0)	32.0	(44.0)		染付	灰白	灰白		外画:菊花紋 見込:こ んなにやく印判 18C後 半	

## III 調査の成果

表 22 遺物観察表(20)

図 No.	種別	器形	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考	
63 9	磁器	碗	7区						(43.0)						内面: 梅子紋 外面: 七 宝紋 18C後半	
63 10	磁器	碗	7区	中央		(103.0)	(41.0)	54.0		染付	灰白色	灰白色	外面: 草花紋 18C後 半			
63 11	磁器	碗	7区	北		(97.0)	(37.0)	(35.0)		染付	青灰白	内白	外面: 唐草紋 見込、香 の波紋 18C後半			
63 12	磁器	碗	7区	北		(89.0)	40.0	(35.0)		染付	灰白	灰注	外面: 不明紋、ハマ礁 山水紋 19C後半			
63 13	磁器	皿	7区	北		(136.5)	(48.0)	29.5							見込に輪剥ぎ 18C後 半	
63 14	磁器	皿	7区					(30.5)		染付	灰白	灰注	内面: 唐草紋 18C後 半			
63 15	磁器	皿	7区	中央		(74.0)	(28.0)	31.0		白磁	白色	白色	見込: 「花唐商店」			
64 1	磁器	皿	7区			130.5	74.0	35.0		染付	白色	白色	内面: 雪輪草紋 見込: 不明紋 蛇目高台 18C後半~19C			
64 2	磁器	重ね鉢	7区			(149.0)	114.0	55.0		染付	白色	白色	外面: 鳞紋 刻れの修 復痕 18C後半			
64 3	磁器	蓋	7区	中央		(96.0)	48.0	30.0		染付	白色	白色	外面: 波紋 高台内: 出 筋 見込: 出筋 18C後半			
64 4	磁器	蓋	7区	表土		(115.0)	(136.0)	26.0		染付	白色	白色	外面: みじん唐草 上 部つまみ痕有 18C後 半			
64 5	陶器	碗	7区	南		(105.0)	43.0	81.5		鉄輪	赤褐色	赤褐色	手捏ね成形 64-6と共に 伴出土 被熱「樂」印 有 近~現代?			
64 6	陶器	碗	7区	南		(109.0)	42.5	77.0		鉄輪	赤褐色	赤褐色	手捏ね成形 64-5と共に 伴出土 被熱「樂」印 有 近~現代?			
64 7	陶器	蓋	7区	SK75		(88.0)	(73.0)	12.0	口クロ	口クロ	灰白	灰白				
64 8	陶器	焰焼	7区	表土		(23.0)	(13.0)	29.0	型押し ナデ	無施釉	灰白	灰白	削れ凹凸に煤着			
64 9	陶器	水差し	7区	中央		62.5	36.0	(53.0)	口クロ	口クロ	黄灰色	灰白	削り出し高台 大腹相 對			
64 10	陶器	仏瓶	7区	北側東壁	下 層	75.0	48.0	56.0	口クロ	口クロ	灰釉	灰灰	灰灰	回転系切		
64 11	瓦	丸瓦	7区	SD210		(114.8)	(103.3)	24.0	バナナ 布目	鉄輪	暗褐色	暗褐色	外側方向にナデの後に 裏方にナデ			
64 12	瓦	平瓦	7区	SK192		(158.0)	(119.5)	16.0			黑褐色	黄灰色				
64 13	瓦器	火鉢	7区	SK58		227.0 ~ 251.0	225.0 ~ 230.0	(225.0) ~ (230.0)	~ ナデ ナデ	~ ナデ ナデ	無施釉	赤褐色	赤褐色	41-4と同類 展:「三 河口川本部製」印		
64 14	瓦器	火鉢	7区	表土				(36.0)	バナナ ナデ	バナナ ナデ		黑色	黄褐色	外側に押紋	-鉄鋼質(能)	
64 15	瓦器	皿	7区	南部石集中部				(31.0)				黑褐色	赤褐色	胎土に石含む		
64 16	古鏡		7区	SK49											-銅鏡質(能)	
65 1	磁器	碗	10区	SK13		(71.0)	(32.0)	(21.0)		染付	灰白	灰注	外面: 山水紋? 烟威 不自 18C後半			
65 2	磁器	蓋	10区	SK13		(85.0)	(31.0)	(26.0)		染付	白色	乳白色	外面: 早紋 見込: 不明 紋 18C ~ 19C			
65 3	陶器	碗	10区	SK13		(66.0)	(46.0)	(15.2)	口クロ	口クロ	刷毛繪	黄灰色	黄灰色	見込: 蝶ノ目輪剥ぎ 削り出し高台 高台磨 き痕 28-10と同系 肥前 18C		
65 4	陶器	火盆	10区	SK13				(39.0)			灰釉	黄灰	黄灰	内面: 無施釉 外面: 施 紋 大幅削馬		
65 5	陶器	小型鉢	10区	SK13		(52.0)	34.0	(16.0)	口クロ	口クロ	鉄輪	赤褐色	暗紅褐色	胎土に良石や砂を多く 含む 地盤産		
65 6	陶器	花瓶	10区	SK13		(59.0)	(64.0)	(56.0)	口クロ	口クロ	鉄輪	赤褐色	赤褐色	底部に成形時の割れ有 肥前系		

表 23 遺物観察表(21)

回 No.	種別	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	L径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外曲	内曲	装飾・ 施釉	外曲 色調	胎土	備考
65 7	陶器	甕	10 区	SK13		692.0		(715.0)	ナデ	ナデ					細筋
65 8	陶器	桶木鉢	10 区	SK13		(194.0)	(168.0)	(123.0)				無施釉	赤褐色	赤褐色	
65 9	瓦器	火跡	10 区	SK13		220.0		(70.0)				無施釉	赤褐色	赤褐色	内部激しく被熱 烧付
66 1	瓦器	火跡	10 区	SK13		(58.0)		29.0		ナデ		無施釉	赤褐色	黄褐色	外曲激しく被熱
66 2	瓦器	火跡	10 区	SK13		194.0	128.0	199.0	ナデ	ナデ	円形	無施釉	赤褐色	赤褐色	内部激しく被熱 胎土 に岩石を多く含む。
66 3	石製品	甕	10 区	SK13		(147.0)	75.0	21.5							表面に線状「本山」上 石
66 4	瓦	軒丸瓦	10 区	SK13		(59.0)	(69.5)	19.0				無施釉	灰色	灰色	
66 5	石製品	石版	10 区	SK13		(76.5)	(85.0)	3.0							仕上紙
66 6	石製品	砥石	10 区	SK13		(21.3)	(46.0)	(12.0)							
66 7	磁器	甕	10 区			117.5	45.0	64.5				染付	青灰白	灰白	17C 後半
66 8	磁器	甕	10 区	壁		(115.0)	(82.0)	(54.0)				染付	白色	白色	外曲:菊唐草 見达: 草紋 高台:「大明」
66 9	磁器	甕	10 区	西 T		98.0	(36.0)	(51.0)				染付	灰白	灰白	内曲面:一重刷毛紋 見达:菊花紋 高台:酒 瓶 18C 後半
66 10	磁器	甕	10 区	西 T		(72.0)	(61.0)	(26.0)				染付	青白色	白色	見达:不明紋 外面: 不明紋 19C 前
66 11	磁器	甕	10 区	壁		(99.0)	(61.0)	(45.0)				染付	青灰白	灰白	見达:不明紋 外面: 菊花紋 19C 前
66 12	磁器	甕	10 区	表土		(106.0)	(34.0)	61.0							外曲:牡丹唐草紋 見 达:「寿」端反襯 19C
67 1	磁器	甕	10 区			(96.0)	(38.0)	57.0							外曲:菊花紋 17C 末 ~ 18C 初
67 2	磁器	甕	10 区			(73.0)	(31.0)	46.0							外曲:雨刷り紋 18C ~ 19C
67 3	磁器	小甕	10 区			(96.0)	(32.0)	39.0				染付	乳白	灰白	外曲:不明紋 19C
67 4	磁器	鉢	10 区	表土		(131.0)	74.0	(19.0)				染付	灰白	灰白	内曲:格子紋 三つ角 蛇口高台 18C ?
67 5	磁器	甕	10 区	西 T		(134.0)	(70.0)	30.0				染付	灰白色	灰白	内曲:二重斜格子紋 外曲:折枝紋? 見达: 蛇口輪削ぎ 18C 後半
67 6	磁器	甕	10 区			(134.0)	(78.0)	40.0				染付	白墨色	灰白	内曲:斜格子 見达:松 竹梅紋 外曲:不明紋 蛇口高台 全体にア ルミナ塗布 19C
67 7	磁器	甕	10 区			(92.0)	(39.0)	(26.0)	ロクロ	ロクロ			赤褐色	赤褐色	全体被熱 線が引る 見达:「大明」高台 削り 破りに軽用
67 8	磁器	鉢	10 区	壁		(134.0)	(58.0)	41.0				染付	白色	灰色	外曲:草紋 見达:釉 削ぎ 18C 後半 ~ 19C
67 9	磁器	甕	10 区	表土		(83.0)	16.0	(13.5)				染付	白色	白色	内曲:コニャク印判 高台:酒瓶 18C
67 10	磁器	甕	10 区			(114.0)	(54.0)	(17.5)				染付	灰白	灰白	内曲:高麗紋 年代不 明
67 11	磁器	甕	10 区			280.5	157.5	37.5				染付	白色	白色	型壓網り 漢字美濃 内曲:松竹梅 牡丹紋 外曲:菊水紋 近代
68 1	磁器	甕	10 区	壁		(94.0)	48.0	25.8				染付	青白色	白色	見达高台:打ち出の小 横紋? 68-1 と同規格 外曲:宝紋、菊花紋 18C
68 2	磁器	蓋	10 区	壁		(93.0)	(44.0)	(29.0)				染付	青灰白	白色	見达高台:打ち出の小 横紋? 68-1 と同規格 外曲:宝紋、菊花紋 18C

III 調査の成果

表 24 遺物観察表(22)

図 No.	種別	器種	調査区	遺構及び 出土地点	層 位	登録 番号	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	外面	内面	装飾・ 施釉	外面 色調	胎土	備考
68. 3	磁器	給食罐	10区	壁			32.0	32.0	6.0			白磁	白	白	底に階級「小牧光堂」 近代以降
68. 4	磁器	蓋	10区				66.5	25.0	27.5			白磁	白	白	見込: 金彩で「小池御殿」
68. 5	磁器	蓋	10区				(77.5)	(67.0)	(60.5)	ロクロ	染付	白色	白色	白色	外面: 草木紋 18C 後半
68. 6	陶器	皿	10区				(97.0)	(39.0)	(21.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	灰色	見込に砂時計跡 剥り出し高台 下部高台無施釉 腹肉 17C
68. 7	陶器	碗	10区	西T			(99.0)	(36.0)	(4.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	剥り出し高台 高台部内外無施釉 大腹相馬系
68. 8	陶器	水差し	10区					(28.0)	ロクロ	ロクロ	長石釉	黄灰	黄白灰	外に鉄釉で紋様 濱ノ 美濃 三野 17C	近代
68. 9	陶器	小型瓶	10区	表土			33.0	22.0	33.5	ロクロ	ロクロ	鉄釉	灰色	灰色	
68. 10	陶器	乗馬器	10区	西T			(46.0)	34.0	(37.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	灰色	灰色	回転系切 底部輪孔
68. 11	須恵器	鉢	10区						(33.5)						胎土に砂粒と多量の海綿骨針を含む
68. 12	土器器	埴輪	10区	表土					(36.0)						砂粒を多く含む
68. 13	陶器	圓筒通	10区	西T			(148.0)	(107.0)	(38.0)	ロクロ	ロクロ	透明釉	赤灰褐色	赤灰褐色	剥り出し高台 底部穿孔 丸 11個
68. 14	瓦器	火鉢	10区	東T			230.0	185.0	186.5	ナデ	ナデ	無施釉	黑褐色	赤褐色	底部穿孔 穿孔に砂粒を含む
68. 15	瓦	丸瓦	10区	西T			(108.0)	(61.0)	14.0	△タ ミガキ		無施釉	黑色	黑灰色	
68. 16	磁器	碗	試掘	試掘T 2			(94.0)	(60.0)	(37.0)			染付	白色	白色	広東碗 外面: 草花紋 見込: 不明紋 19C 前
68. 17	陶器	碗					(77.0)	(41.0)	(21.5)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	剥り出し高台 磨耗 底部無施釉 濱ノ 美濃 宋通元寶
68. 18	古鏡		5区	X-1907.96.0 Y-4340.0		RM10									
68. 19	古鏡		5区	X-1907.96.0 Y-4347.5.0		RM48									油平通寶(篆書体)
68. 20	古鏡		5区	SD40		RM16									元豐通寶
68. 21	古鏡		5区	X-1139.96.0 Y-4340.0		RM49									永樂通寶
68. 22	古鏡		5区	X-1907.92.367 Y-4347.5.151 H-140.161		RM17									永樂通寶

## IV 理化学分析

### 1 山形城三の丸跡第15次調査出土 木製品の樹種同定報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山形城三の丸跡第15次調査で出土した桶の部材および杭について、木材利用を検討するために樹種同定を実施したので、その結果について報告する。

#### 1. 試 料

試料は、5区SK11土坑より出土した桶の部材4点と、5区SK13土坑より出土した桶の部材3点と杭1点の合計8点(№1~8)である。試料の詳細は、結果とともに表示する。

#### 2. 分析方法

剃刀を用いて木片から木口(横断面)・柵目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(塗水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入してプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

#### 3. 結 果

樹種同定結果を表25に示す。桶の部材は全て針葉樹のスギ、杭は広葉樹のクリに同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

#### ・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晚材部への移行はやや急で、晚材部の幅是比较的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

#### ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔閉鎖部は3~4列、孔閉鎖部で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

#### 4. 考 察

表25. 樹種同定結果

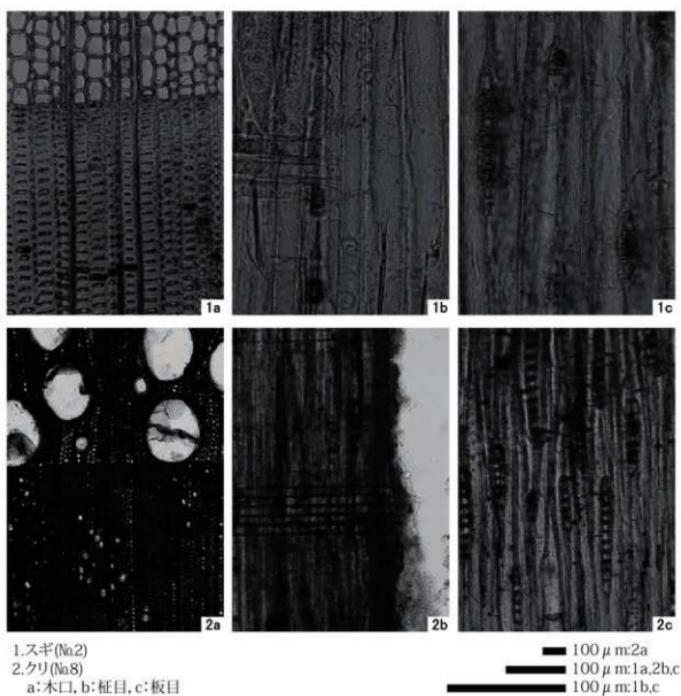
番号	道構	器種	部位	種類
1	SK011上坑	桶	底板	スギ
2	SK011上坑	桶	側板	スギ
3	SK011上坑	桶	側板	スギ
4	SK011上坑	桶	側板	スギ
5	SK013上坑	桶	底板	スギ
6	SK013上坑	桶	側板	スギ
7	SK013上坑	桶	側板	スギ
8	SK013上坑	杭		クリ

肩状地盤端部の遊水地周辺など、比較的水分の多い土地に生育し、また植栽される常緑高木である。木材は木理が直通で割裂性・耐水性が比較的高い。クリは、二次林等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。

桶の部材は、底板が板状、側板がやや弧を描く板状に加工されることが多い。全てスギに同定されたことから、加工性や耐水性を考慮した木材選択が推定される。伊東・山田(2012)のデータベースによれば、山形県内では桶の部材について樹種を明らかにした例が掲載されていないが、東北地方や関東地方などの中世~近世における桶の部材をみると、スギ、ヒノキ、アスナロ、モミ属等の針葉樹の利用が多く見られる。一方、杭は利用状況が不明であるが、クリが利用されていることから、強度や耐朽性を必要としたことが推定される。

## 引用文献

- 林 昭三 1991 「日本産木材 跡微鏡写真集」 京都大学木質科学研究所  
 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料.31』 p.81 ~ p.181 京都大学木質科学研究所  
 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料.32』 p.65 ~ p.176 京都大学木質科学研究所  
 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料.33』 p.83 ~ p.201 京都大学木質科学研究所  
 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料.34』 p.30 ~ p.166 京都大学木質科学研究所  
 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料.35』 p.47 ~ p.216 京都大学木質科学研究所  
 伊東隆夫・山田昌久(編) 2012 「木の考古学 出土木製品用材データベース」 p.449 海青社  
 Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編) 2006 「針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト」伊東隆夫  
 藤井智之・佐野雄二・安部 久・内海泰弘(日本語版監修) p.70 海青社 [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and  
 Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]  
 島地 謙・伊東隆夫 1982 「図説木材組織」 p.176 地球社  
 Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編) 1998 「広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト」伊東隆夫・藤井智之  
 佐伯 遼(日本語版監修) p.122 海青社 [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic  
 Features for Hardwood Identification]



第 69 図 木材組織

## 2 山形城三の丸跡出土鉄滓の 自然科学分析（1）

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

山形城三の丸跡は山形県山形市に所在し、16世紀末に築造されたとされる城郭跡である。本分析調査では、第15・17・19次調査区内で出土した鉄滓5点を対象に金属学的調査を実施する。

### 1. 試料

試料は鉄滓5点（試料No.1～5）である。

### 2. 分析方法

#### （1）肉眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

#### （2）マクロ組織

顕微鏡理込み試料の断面を、低倍率で撮影したものを指す。当調査は顕微鏡組織よりも、広範囲で組織の分布状態、形状、大きさなどを観察できる利点がある。

#### （3）顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリーリ研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μmと1μmで鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

#### （4）化学組成分析

出土遺物の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法  
二酸化硅素、酸化アルミニウム、酸化カルシウム、酸化マグネシウム、酸化カリウム、酸化ナトリウム、酸化マンガン、二酸化チタン、酸化クロム、五酸化燐、バナジウム、銅、二酸化ジルコニウム：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

### 3. 結果および考察

試料No.1～5の顕微鏡組織を第70～72図に示す。

#### 試料No.1

広い範囲で黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆化物が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は黒灰色である。気孔は少なく緻密である。側面から下面にかけては細かい木炭痕による凹凸が著しい。

マクロ組織を第70図-①に示す。素地部分は微細な気孔が点在する鍛冶滓で、内部に不定形の微細な錆化鉄部が若干点在する。また部分的に微細な木炭破片も付着する。

顕微鏡組織を第70図-②③に示す。微細な青灰色部は錆化鉄である。②の右上および③は滓部で、白色樹枝状結晶ウスタイト（Wustite:FeO）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite:2FeO-SiO<sub>2</sub>）が晶出する。鉄チタン酸化物の結晶はない。

#### 試料No.2

表面には小さな割れがみられる。内部に金属鉄または錆化鉄が含まれる可能性がある。滓部は黒灰色で、気孔は少なく緻密である。また表面には細かい木炭痕による微細な凹凸が目立つ。

マクロ組織を第70図-①に示す。写真右上の約7mmの明灰色部は錆化鉄である。

顕微鏡組織を第70図-②③に示す。②は錆化鉄部の拡大である。内部に網状のセメントタイト（Cementite:Fe<sub>3</sub>C）が残存する、過共析組織（C > 0.77%）の高炭素鋼であった。③は滓部の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

#### 試料No.3

滓部の色調は灰褐色で、表面が若干風化気味である。表面には黄褐色の土砂が薄く付着する。内部にまとまつた金属鉄が存在する可能性は低いと考えられる。また破面には微細な気孔が点在する。

マクロ組織を第71図-①に示す。中小の気孔が多数点在する。

顕微鏡組織を第71図-②③に示す。白色樹枝状結晶

ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。鍛錬鍛治津の晶癖である。また津中に点在する微細な明白色粒は金属鉄である。

本試料は、製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が著しい。

#### 試料 No.4

肉眼観察：津の地の色調は暗灰色で表面は風化気味である。また鈎化に伴う割れが生じており、全体に強い着磁性があるため、内部にはまとまった鉄部が存在する可能性が高い。

マクロ組織を第 71 図 - ①に示す。観察面は広い範囲で鈎化鉄部が観察される。津部は上面表層に薄く付着する。顕微鏡組織を第 71 図 - ②③に示す。②は上面表層に付着した津部の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。③は鈎化鉄部の拡大である。内部に網状のセメントタイト (Cementite : Fe<sub>3</sub>C) が残存する。

#### 試料 No.5

表面は比較的平坦で、部分的に薄くガラス質津が付着する。細かい気孔が若干点在するが、緻密で重量感のある津である。また下面中央には茶褐色の鈎化鉄部が観察される。

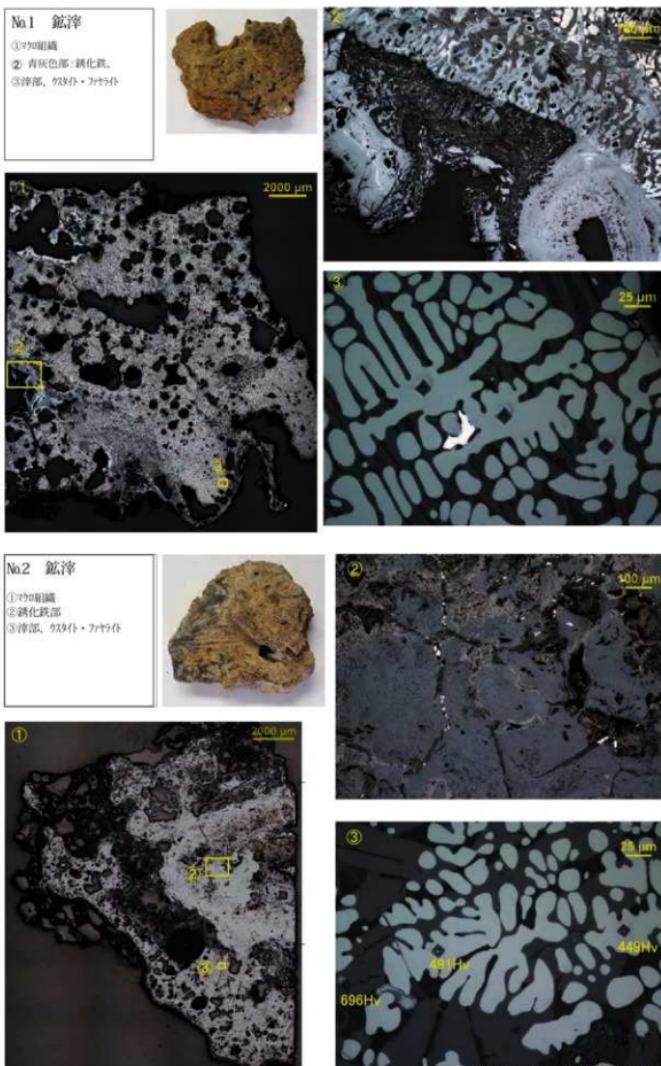
マクロ組織を第 72 図 - ①に示す。津中の微細な青灰色部は鈎化鉄である。

顕微鏡組織を第 72 図 - ②③に示す。②は上面表層のガラス質津の拡大である。内部には熱影響を受けた石英 (Quartz:SiO<sub>2</sub>) が点在する。これは羽口粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推測される。一方、③は鍛治津部分の拡大である。津中には白色粒状結晶ウスタイト (Wustite : FeO)、淡灰色柱状結晶ファヤライト (Fayalite : 2FeO・SiO<sub>2</sub>) が晶出する。

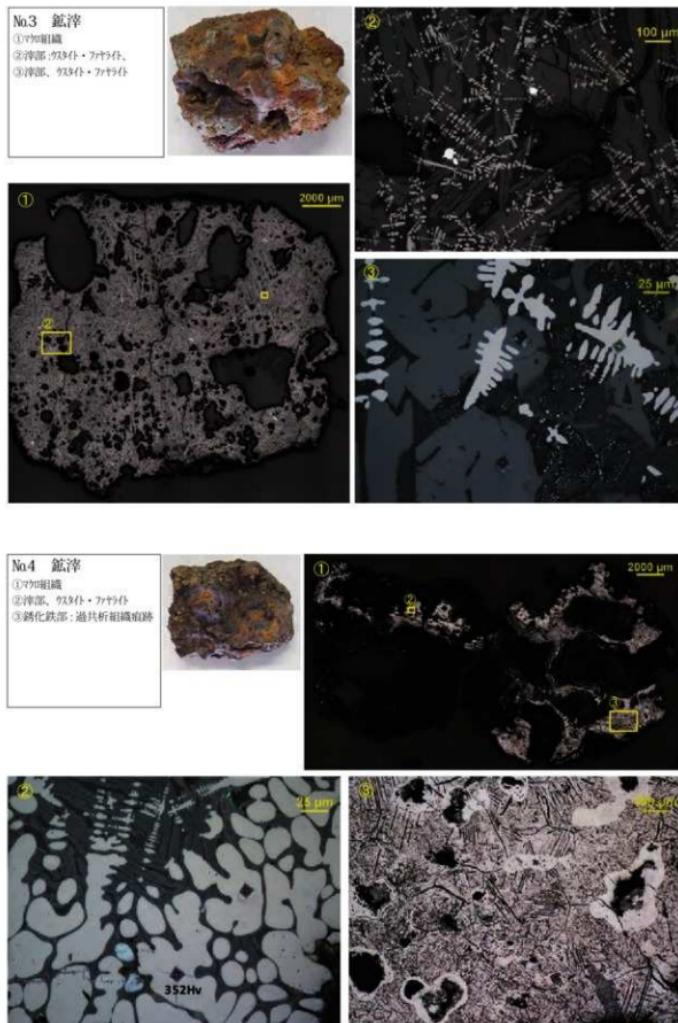
本試料は酸化鉄 (FeO) と、炉材粘土 (SiO<sub>2</sub> 主成分) 溶融物主体の津であった。

表 26 分析出土津一覧表

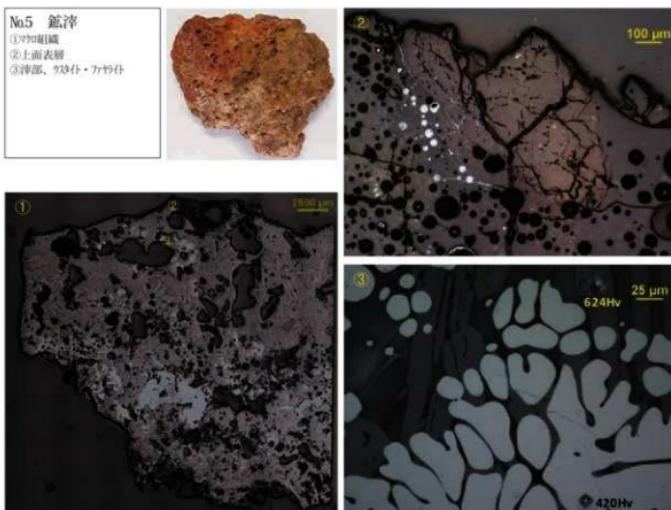
番号	分析	内容	個数	出土地点	備考
1	鉱津分析	鉱津	1	1 区 SK113	
2	鉱津分析	鉱津	1	5 区 SX22 (SD39)	RP15
3	鉱津分析	鉱津	1	5 区 SK19・SX22 X=193753.0 Y=43472.0	
4	鉱津分析	鉱津	1	8 区 SK113	
5	鉱津分析	鉱津	1	10 区 SK13	



第70図 試料No.1の顕微鏡組織



第71図 試料No.2・3の顕微鏡組織



第72図 試料No.4・5の顯微鏡組織

### 3 山形城三の丸跡出土鉄滓の 自然科学分析（2）

竹原弘展（パレオ・ラボ）

#### 1. はじめに

山形城三の丸跡第19次調査で出土した鉄滓について、走査型電子顕微鏡観察およびX線分析を行い、検討した。

#### 2. 試料と方法

分析対象は、土坑SK113から出土した鉄滓1点（試料1）である（第73図-1）。土坑SK113は、三の丸造成以前の遺構とみられ、鉄滓が数多く出土したが、時期の決め手となるような陶磁器などの遺物は出土していない。鉄滓は、観察・測定面は比較的磁着の強い箇所を選び、岩石カッターで採取した。第73図-1に試料採取部位を示す。

試料は、エタノールで超音波洗浄後、採取断面について蛍光X線分析（エヌアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製SEA1200VX、照射径8mm；以後XRF分析）を行い、採取部位の化学組成を調べた。その後、断面プレパラートを作製し、組織の観察、分析を行った。プレパラートの作製には、注型用高透明エポキシ樹脂を使用し、試料を包埋した。包埋試料は、ディスクブランで研磨した後、精密研磨フィルムの#1000、#8000の順で研磨し、観察、分析面とした。走査型電子顕微鏡（日本

電子株式会社製JSM-5900LV、以後SEM）による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型X線分析装置（同JED-2200、以後EDS）による鉱物組織の定性分析を行った。

#### 3. 分析結果および考察

XRF分析による半定量値を表27に酸化物の形で示す。また、SEM反射電子像を第73図-2、3に、SEM反射電子像に示したa、bのポイントのEDSによるスペクトルを第73図-4、5に、検出元素を表28に示す。

##### 【試料1】

楕形を呈し、破面が3面観察される（第73図-1）。強い磁着が認められる。

XRF分析では、鉄が酸化物 ( $Fe_2O_3$ ) 换算で約87%と高い割合で検出された。チタン ( $TiO_2$ ) や銅 ( $CuO$ ) 含有量は少ない。SEM反射電子像では、第73図-2、3のような結晶組織が観察された。EDS分析結果と併せると、密集している明色の樹枝状ないし粒状組織（第73図-3のa）では鉄（Fe）と酸素（O）が検出され、ウスタイト（ $FeO$ ）とみられ、基質となる暗色ガラス質（同図b）上に晶出している。

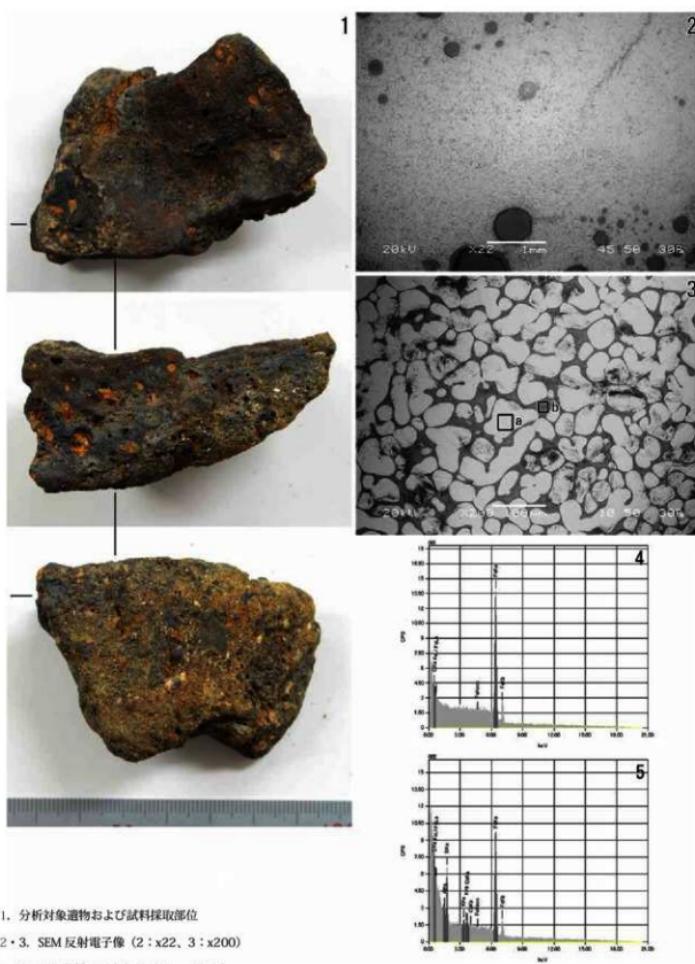
今回の鉄滓の鉱物組織の定性分析結果では、チタン含有の鉱物が検出されず、またウスタイトが多くみられ、また、蛍光X線分析ではチタン含有量が少なく鉄含有量が多い。以上の特徴より、楕形鐵治滓と考えられ、鐵治に伴う鉄滓である可能性が高い。

表27 蛍光X線分析による半定量値 (mass%)

試料	$Al_2O_3$	$SiO_2$	$P_2O_5$	$K_2O$	$CaO$	$TiO_2$	$MnO$	$Fe_2O_3$	$CuO$	$SrO$
1	2.31	8.22	0.59	0.47	0.80	0.10	0.06	87.43	0.01	0.01

表28 EDS分析結果

試料	ポイント	検出元素	所見	
			ウスタイト	楕形鐵治滓
1	a	O,Fe	ガラス質	
	b	O,Al,Si,K,Ca,Fe		



第73図 試料1のSEM観察及びEDS分析結果

## V 調査のまとめ

今回の発掘調査は、山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線（山形市七日町地内）建設事業（以後、事業）の第一期工区事業として、平成26年度から28年度まで現地調査を実施したものである。

以下、遺構と遺物に分けて調査の成果をまとめる。

### 1 遺構のまとめ

調査区は山形城三の丸七日町口のすぐ近くに位置し、三の丸の堀も一部かかり、三の丸外の町場も一部調査区に含まれている。調査区は大きく3つのブロックに分けることができる。

北調査ブロックは1・2・7・10・11区である。2区は三の丸の外堀であり、1・7・10・11区は三の丸の郭外である。藩政期は一貫して羽州街道沿いの旅籠町の町屋であったが、絵図から17世紀末の松平忠弘の時期以降明治8年(1875年)まで牢獄が置かれていたことがわかっている。従ってこの地区の近世遺構は牢獄の遺構と言えよう。ちなみに、陸奥宗光が逮捕されて山形監獄に送られてきたのは明治10年であり、収監されたのは移転後の監獄である。

7区の北側からは、軸方向が同じである正方形の土坑SK100・107・110が検出された。出土する遺物は18世紀後半から19世紀のものである。他にも長方形の土坑SK101・103・SD112などの遺構もあり、ほぼ同時期と思われる。これらには大小の礫が多数廃棄され、遺物の出土量も少ない。さらに、SK93・95・97・98・100・38・39のように大型で円形の土坑も見られる。これらも出土遺物からほぼ同時期と考えられる。SK38・39については、覆土に大量の礫が含まれ、周囲にSD43溝跡が巡らされていることや、離れた地点にあることから、他の大型円形土坑とは異なる目的で掘削されたと考えられる。

以上のように、ほとんど同時に、異なる形の土坑をそれぞれ複数掘削していることから、それぞれ形によって使用目的が異なると考えられる。

いずれも近世最末期に埋め戻されている。牢獄は未決

囚の拘置施設ではあるが、軽度の死罪は刑場での公開処刑や晒を実施せずに牢獄敷地内で実施されることも多く、山形の牢獄でも斬罪が実施された記録がある。また、江戸時代の斬罪の様子を描いた絵図を見ると、穴の前に罪人を座らせて斬首していることが多く、いずれかの形の土坑がその用途のために掘られた可能性もある。また、明治8年に牢獄が移転した後に施設を解体して廃棄物を埋めるために掘った穴とも考えられる。後者の場合は、深く大型の土坑が想定され、SK93・95・97・98である可能性が高いと言えるだろう。

7区からは他にST71竪穴建物跡も検出されている。がなどの燃焼施設は無く年代は不明であるが、しっかりした柱跡が壁際に有り、床面には炭化物もあった。古代の通常のよく見られる竪穴建物とは明らかに趣が異なるので、中世の施設と思われる。また、軸方向が近世以降の遺構とも全く異なるので、中世のものではなかろうか。

壠跡である2区と11区の境界には大型の丸石を積み重ねた石組が壠際に存在していた。これは近世の石組であるとみなしてよい。11区の1区との土地境界にも石組が有り、11区地権者の話によると、戦前にこの土地を購入した地権者の父親が石を運んで来て積み上げたとの証言を得たが、2区境界の石組とはあきらかに石の大さきや積み方があり、作業者の技術にも格段の差異を見て取れた。

11区には防空壕跡以外に検出されなかったのも注目に値する。11区は他の調査区に比べて遺構検出面が高いので、遺構の残りが良いかと思われたが、防空壕以外の痕跡は認められなかった。防空壕の壁面を確認して盛土や整地の可能性も検討したが、全くの地山層であった。地面を掘り下げない何らかの施設があったのだろうか。

2区全体は三の丸の壠跡である。近代以降に引かれた現在の御殿堰部分を除いて調査した。幅はほぼ15m、深さは2mほどである。平成23年度に埋蔵文化財センターが調査した横町口に近い第10次調査で検出された三の丸の堀は、幅は未定であるが20m以上、深さも5.3

mあるかなり大規模なものであったが、山形市教委が平成 20 年に調査した下条口近くの市立第七小学校敷地内の城北遺跡調査で検出された堀はほぼ同規模である。このことから、三の丸の堀は、門近辺的主要部以外はこの規模の堀を巡らせている可能性が高い。

堀跡から出土した遺物はほとんどが 18 世紀後半以降のものであり、秋元氏が山形入部後に、堀や門を修築したとの記録に合致し、堀の大規模な浚渫を行ったと見られる。堀の埋土も一気に埋め戻していることから、後述するように明治 10 年から 12 年の間に土塁をすべて突き崩して埋めていると思われる。そのため、当地は軟弱地盤であったようで、レンガを數十 cm 積み重ねた上に柱を建てたような痕跡が見受けられたほか、鉄道の廃レールを打ち込んで、基礎として建物を建てた痕跡も確認された。

3・4・5・8・12 区で構成される中央調査ブロックは、三の丸の郭内である最上時代の初期には、町屋が存在していたとの資料もあるが、近世は一貫して三の丸の大手口である七日町口から二の丸に向かう七日町口通の沿線ということで、武家屋敷が立ち並んでいた地区である。近隣には水野家臣家臣の家の家が現在でも建ち並んでいる。

3 区は概乱を受けていたので遺構を検出することはできず、遺物もほとんど出土しなかった。絵図によると、堀のすぐ内側に土塁を確認できることから、現在の市道七日町口通線上に土塁があり、3 区が藩政期の七日町口通りであったはずである。単純に堀を掘削した時の土をそのまま土塁とすると、幅 15m、高さ 2 m ほどになるが、現在の地図に当てはめると 3 区の 1/5 が土塁になる。3 区と 4 区の間に、幅約 2 m と非常に狭い済生館裏西小路線が走っているが、旧家臣屋敷の門はこの沿線に並んでおり、近世の七日町口通は土塁からこの道路までの約 25 m 幅であったと思われる。

藩政期の絵図には、現在ある市道七日町口通線にあるクランク部分は見当たらない。明治時代の地図を観察すると、明治 10 年の地図では七日町口通と新しく開削された市道旅籠町新道南小路線は直角に交じて堀や土塁も描かれているが、明治 12 年の地図では七日町口通が不自然に折れ曲がって市道旅籠町新道南小路線と交わり、堀跡が点線で描かれている。明治 14 年の地図では、現在のように七日町口通がクランク状に折れ曲がって市

道旅籠町新道南小路線に接続し、堀跡の記載が一切なくなっている。

このことから明治 10 年から 12 年の間に土塁を切り崩して堀を埋め、14 年には元土塁を道路として移設が完了していことがわかる。

4 区は鉄筋コンクリート造建物により削平を受けてほとんど遺構は検出できなかった。遺物もほとんど出土していない。

5・8・12 区は比較的に遺構の残りが良かった。このブロックには大きく分けて三時期の遺構が存在する。

まず、第一に一番新しい近代以降に廃棄された遺構。これには、近世末から継続使用され、近現代になって廃棄された 5 区の SE12 井戸跡などや SD41 溝跡も含む。

ついで二番目の時期は近世後期の 18 世紀後期から 19 世紀にかけての遺構で、近代の遺物を含まない 12 区の SX9 土坑や 5 区の SK14・SK16 土坑などである。

第三の時期は、戦国時代から近世初期にかけてと見られる古い時代のもので、これも厳密には二時期に分ることも可能ではある。

1 つ目は 5 区の SD17 落込みや 8 区の SD129・163 溝跡などである。これらは近世初期の最上時代の元和慶長期の遺構と思われるもので、三の丸郭内のこの地域に町場があったときのものである。SD17 は出土遺物からこの時期であることは明白である。また、並行した溝跡 SD129・163 を道路遺構と推測できる。この道の東の延長線上に「関根口」門があり、西の延長線上に「肴町」を抜けて二の丸の東門にまっすぐ突き当たる。幅 5 m と決して広くはないが、近世初期の山形城三の丸大手は南側の吹張口からまっすぐ南大手門に伸びる道が大手道で、後の七日町口となる関根口と三日町は副次的な門と道であったと考えられている。

それより遡る可能性があるのが、4・5・8 区をまたがる長さ 21m 以上、幅 4m、深さ 1.3 m ほどの大型区画溝 SD39 と多くの鉱滓を含む SD240 溝跡である。SD39 は、三の丸郭内の区画溝としては大規模で、どの時代の絵図を見ても該当しそうな区画は存在しないことから、三の丸構築以前の遺構と考えたほうが自然であろう。また、理化学分析により、これらの鉱滓は鍛冶津であると分析結果が出ており、近世以降に鍛冶施設がこの周辺に存在した記録も一切ないことからも、鍛冶施設も三

の丸構築以前と考える方が自然である。SD39 大型区画溝と SD240 鉢溝出土溝跡に若干の時期差があることも考えられるが、SD39 大型区画溝と SD240 鉢溝出土溝跡、SD129・163 道路状遺構の軸方向は統一されており、それほど大きな時期差は無いと考えられる。SD39 大型区画溝と SD240 鉢溝出土溝跡は、多少前後関係が存在する可能性はあるが、慶長期の三の丸造営以前の遺構で、三の丸造営により埋め戻された。その後に SD129・163 道路状遺構と SD17 落込みが作られたと思われる。

また、豎穴建物跡 ST154・184 もあるが、年代を推定できる遺物が出土しなかったことと、重複関係がないことから時期を断定はできないが、SD129・163 道路状遺構とは年代に差があることは確かである。

6・9 区南調査ブロックは、山形藩が縮小した近世後期以降は耕作地化していた地域であるが、明治以降の急激な市街化で遺構の残存状況は良くない。

6 区は地元百貨店の大型立体駐車場があったことから、激しく削平擾乱を受けており、注目に値する遺構遺物は確認できず、平安時代の遺物数点と旧河道を検出できただけである。

9 区も現代の建物の基礎により多くが削平されていたが、近世後期 18 世紀半から 19 世紀にかけての SK3 土坑と近世初期 17 世紀代と考えられる SK27 土坑、さらにそれ以前と考えられる SH2 火葬墓を検出した。遺物を伴わない SD10 区画溝も検出したが、現在の土地境界と完全に重複することから近代以降のものと考えるのが妥当であろう。

## 2 遺物のまとめ

つぎに、遺物についてのまとめを述べる。

古い時代の遺物は、平安時代の須恵器の杯や壺の破片が出土している。いずれも小片で混入と見られる。ほぼ 9 世紀のものと思われる。

次いで、龍泉窯産と思われる青磁が 5 点出土している。いずれも小片で、かろうじて龍泉窯のものであろうと判別できる程度である。詳しい時期も判別できないが、おそらく 15 世紀ごろのものと類推する。

国産陶磁の古手のものとしては大窯後半期の瀬戸美濃がある。量も多くはなく、おそらく大窯第 3 段階後半から第 4 段階にかけてのものと思われ、灰釉の丸皿の

他に天目や志野など茶陶が目立つ。中には白天目もある。

また、肥前産の陶器も目立つ。器種はほぼ皿の類で、碗や向付もごく少量確認できた。破片遺物が多いので正確な年代を確認するのは難しいが、砂目積みのものが多いので、17 世紀前半のものであろう。

未掲載の遺物も含めると、点数としては瀬戸美濃の方が多いが、破片資料も多く、遺物の残存状況は肥前陶器のほうが良好である。

陶器に対し、この時期の磁器は極めて少なく皆無に近い。

17 世紀後半から 18 世紀前半の遺物は、遺構同様に確認できなかった。ちょうど短期間で藩主が頻繁に入れ替わった時期に当たる。さらに、幕府直轄領である公儀御料の時期には、武家屋敷や藩の主だった施設が撤去されて更地になったとされている。

その後、18 世紀後半になると、いわゆるくらわんか手と呼ばれる肥前産磁器が急に数量が増えている。ほとんど碗、皿が占める。ちょうど秋元氏が入部して定着した時期である。それと共に一定量の肥前や京信楽系陶器も入ってきている。しかし、すぐに大堀相馬がこれの陶器を駆逐し、他に產地不詳であるが在地産と思われる陶器も増える。壺、甕、鉢は平清水が増えるようになる。

明治後期になると、瀬戸産とみられる陶器が一齊にそれらをほどんど駆逐してしまう。

瓦については、数量も少なく、殆どが破片である。分類の基準となる軒丸瓦、軒平瓦も良好な状態のものは非常に少なかった。特に軒丸瓦については、点数も少なく残存状況も劣悪であるので記載できるものがない。軒平瓦については、山形市教委の瓦分類の FG1 型式と FD1 型式に該当するものが多い。FG1 型式に該当するものは堀跡から、FD1 型式に該当するものは ST107 から出土している。どちらも 18 世紀後半から 19 世紀にかけての遺物が出土しており、両型式ともそれほど時期差はないのであろう。

用途不明の瓦質製品では、29-4 と 61-11 が出土している。どちらも平面の板状のものに浮き彫りの文字状装飾が施されている。29-4 は漢字の一部のように見える浮き彫りがあるが、該当する文字は見当たらなかった。61-11 は、基盤となる板状部分も丸く縁取りされている。双方とも飾り瓦のようであるが、それに該当する瓦製

品の存在を見つけることはできなかった。

土器類の皿、いわゆるかわらけも多数出土している。殆どが燈明皿として使用されており、内外に煤が付着し、縁の一部を故意に打ち欠いて芯を固定しやすくしていた。規格もほとんどが同一で、底部が回転式切で口縁部を斜め上にまっすぐ引き伸ばす直線的な逆台形をするものが多いが、口縁部が内湾するかのようになだらかに弧を描くものも見られる。しかし、35-15・16のように手捏ね成形で口縁部だけをなでて整形しているものもあり、両者には時期差があるのだろう。また、かわらけは、19世紀になって陶器製の乗場が出現すると急速に姿を消すように感じられる。

石製品としては、五輪塔・石鉢・石臼・砥石が見られる。五輪塔は空風輪が5区SD39大型区画溝から出土している。16世紀代のものであろう。石鉢は25-16・28-15・55-2の3点が出土している。25-16は破片でしかないが、おそらく28-15とはほぼ同形式と思われる丸い鉢形の石鉢である。55-2は角盤形で足がついている。石質が異なることから、産地不明ながら別々に流通していたのであろう。石臼は、おそらく同一個体のものと思われる42-17・63-1が出土している。下部である42-17は大人三人でようやく移動できる重量で、穀物を挽いていたとみられる。上部の共伴遺物から、近世から近代に使用されていたものであろう。砥石は荒砥、中

砥、仕上砥が出土している。ほとんどが武家屋敷で日常生活で用いる刃物を研いだものとみられる。58-16には、片面に男性器と女性器の絵と解説できなかつたが2行ほどでの文字が刻まれていた。出土した遺構が19世紀後半に埋められているので、ほぼその年代のものと思われる。

以上のように、今回の調査によって未確定だったこの地区的三の丸外堀の位置が判明した。堀の規模もそれほど大掛かりなものではなく、埋蔵文化財センターの第10次調査で検出したような大掛かりな堀は門の周辺だけにある可能性が高い。

また、三の丸構築以前と思われる遺構・遺物も確認でき、軸方向が三の丸構築の基準とほぼ同じでもあった。

三の丸の堀の外である郊外は町場であるが、17世紀後半の松平忠弘の頃には藩の牢獄があり、近代まで存続していたが、明確に牢獄機能時の遺構と判断できるものはなかった。

近世の遺構・遺物は、ほとんどが18世紀後半以降の秋元氏入部以降のもので、この時期が山形の城下町の大きな画期であることも判明した。秋元氏の三の丸郭内の町割りは水野氏の時代にも引き継がれ、明治以降に大規模な区画整理事業が行われながらも残滓を今日に残している。

#### 引用・参考文献

- 山形市教育委員会 2003『山形城三の丸跡（山形市立第一小学校敷地内）発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 山形市教育委員会 2004『双葉町道路（山形城三の丸跡）発掘調査報告書近世編』山形市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 山形市教育委員会 2005『双葉町道路（山形城三の丸跡）発掘調査報告書青銅時代～中世編』山形市埋蔵文化財調査報告書第24集
- 山形市教育委員会 2006『双葉町道路 城南町道路（山形城三の丸跡）発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 山形市教育委員会 2009『山形城三の丸跡（城北道路跡）発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財報告書第30集
- 山形市教育委員会 2011『史跡山形城跡 本丸（東・南）堀・土塁跡発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財報告書第32集
- 山形県埋蔵文化財センター 1999『城南一丁目道路発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第69集
- 山形県埋蔵文化財センター 2005『山形城三の丸跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第142集
- 山形県埋蔵文化財センター 2010『山形城三の丸跡第4・6・7・8・8次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第190集
- 山形県埋蔵文化財センター 2012『山形城三の丸跡第5・7・8・8次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第202集
- 山形県埋蔵文化財センター 2013『山形城三の丸跡第10・8次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第206集
- 山形県埋蔵文化財センター 2014『山形城三の丸跡第12・8次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第214集

写真図版

---



9区道横検出状況(北から)



9区北側遺構横検出状況(南東から)



9区 SH2 墓壙検出状況  
(南から)



9区 SP17 柱穴断面 (西から)



9区 SP17 柱穴完掘状況  
(北から)



6区遺構検出状況(南西から)



12区遺構検出状況(西から)



12区 SK9 土坑出土瓦製品  
(北から)



12区 SK12 土坑出土石跡  
(北から)



12区 SK9 土坑完掘状況  
(北から)



8区南遺構検出状況(北東から)



8区中央遺構検出状況(東より)



8区北遺構出状況(西から)



8区SD163、SD129道路状遺構完掘状況(南東から)



8区 SX154 竪穴建物完掘状況  
( 東から )



8区 ST184 竪穴建物完掘状況  
( 東から )



8区 SD39 大溝石組検出状況  
( 北から )



4区、5区遺構検出状況(北から)



5区遺構検出状況(北西から)



5区 SD39 大溝完掘状況(北から)



5区 SD39 大溝完掘状況(南から)



5区 SE11 井戸跡完掘状況(南から)



5区 SE12 井戸跡完掘状況(北から)



5区 SE13 井戸跡完掘状況(北西から)



5区 SK9 土坑完掘状況(北から)



5区 SK14 土坑完掘状況(東から)



5区 SK16 土坑遺物出土状況(北から)



5区 西壁落込み遺物出土状況(東から)



5区 西壁落込み刀子出土状況(東から)



3区完掘状況(南から)



2区堀跡断面(東から)



2区堀跡出土 46-1 藍甕(東から)



2区堀跡南岸完掘状況(東から)



2区堀跡南岸完掘状況(北東より)



11区遺構検出状況(南東から)



11区三の丸堀跡北岸石組検出状況  
(東から)



11区三の丸堀跡北岸石組検出状況  
(南から)



11区 SK7 防空壕完掘状況  
(北から)



11区 南壁藍甕出土状況  
(北から)



1区 南側完掘状況(北西から)



1区 SX85 土坑獸骨出土状況  
(西から)



7区南側完掘状況(東から)



7区中央部完掘状況(東から)



7区 SK38、39、33 土坑  
完掘状況(南から)



7区 ST107 竪穴建物跡  
完掘状況(西から)



7区 ST71 竪穴建物跡  
完掘状況(南東から)



10区 SK13 土坑完掘状況(北から)



遺物写真図版(1) 6区、9区出土遺物



遺物写真図版(2) 9区、12区出土遺物



遺物写真図版(3) 12区、8区出土遺物



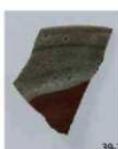
遺物写真図版(4) 8区出土遺物



遺物写真図版(5) 8区、4区、5区出土遺物



写真図版 23



遺物写真図版(7) 5区出土遺物



遺物写真図版(8) 5区出土遺物



遺物写真図版(9) 5区出土遺物



遗物写真图版(10) 5区、8区、4区、2区出土遗物



遺物写真図版 (11) 2区出土遺物



45-12



45-13



45-14



45-15



45-16



45-17



45-18



45-19



45-20



45-21



45-22



45-23



45-24



46-2



47-1



47-2



47-3



47-4



47-5



47-6



47-7

遺物写真図版(12) 2区出土遺物



遺物写真図版 (13) 2区出土遺物



遺物写真図版(14) 2区、11区、10区出土遺物



遺物写真図版(15) 11区、10区、1区出土遺物



53-2

53-3



53-4



53-5



53-6



54-4



54-5



54-6



54-7



54-9



54-10



55-2



55-3



55-4

遗物写真图版(16) 1区、7区出土遗物



遺物写真図版 (17) 7 区出土遺物



遗物写真図版(18) 7区、1区出土遺物



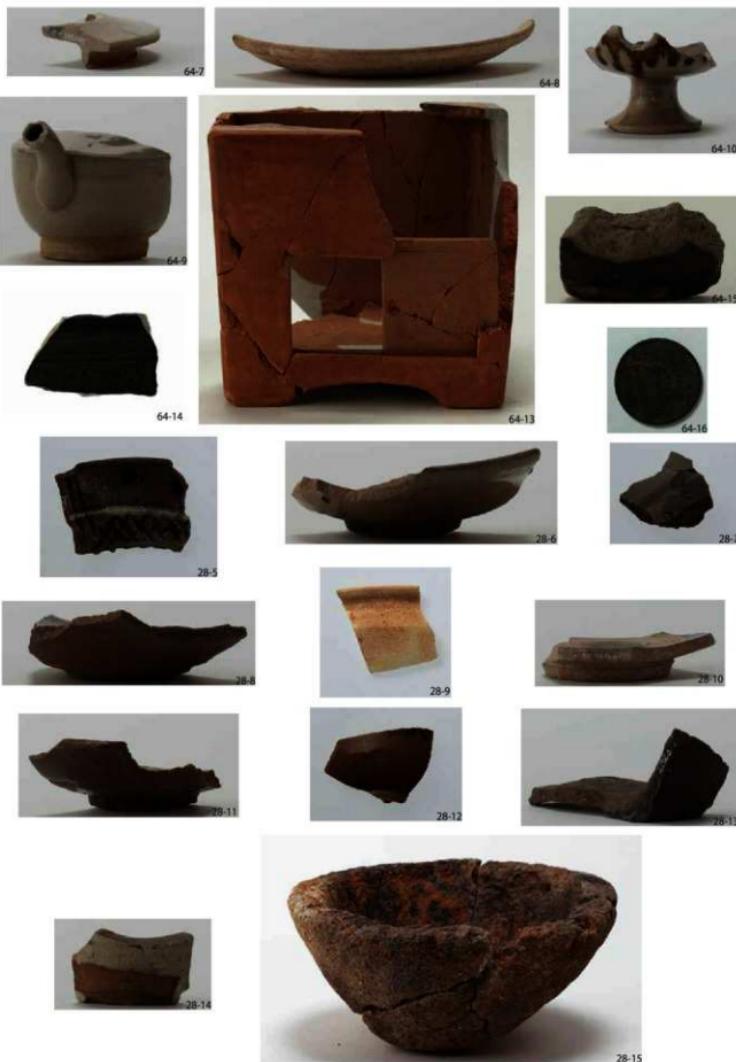
遺物写真図版 (19) 7区出土遺物



遺物写真図版 (20) 7区出土遺物



遺物写真図版(21) 7区、9区出土遺物



遺物写真図版(22) 7区、10区、12区出土遺物



遺物写真図版(23) 12区10区出土遺物



遺物写真図版(24) 10区出土遺物

## 報告書抄録

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第231集

山形城三の丸跡第15・17・19次発掘調査報告書

2018年7月31日発行

発行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷5608番地  
電話 023-672-5301

印刷 株式会社 大風印刷  
〒990-2338 山形県山形市藏王松ヶ丘一丁目2-6  
電話 023-689-1111

この PDF データは下記の報告書を底本として作成しました。

閲覧を目的としていますので、詳細な写真や図面が必要な場合は、底本を参照して下さい。

底本は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター、山形県内の市町村教育委員会、図書館、

各都道府県の埋蔵文化財センター、考古学を教える大学、国立国会図書館等に所蔵されています。

所蔵状況や利用方法は、直接各施設にお問い合わせ下さい。

書名：山形城三の丸跡第 15・17・19 次発掘調査報告書

発行：公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

〒 999-3246

山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地

電話 :023-672-5301

URL:<http://www.yamagatamaibun.or.jp/>

mail:[yac@yamagatamaibun.or.jp](mailto:yac@yamagatamaibun.or.jp)

電子版作成日：2019 年 4 月 12 日